



次期京都市基本計画策定のためのアンケート調査 報 告 書

平成21年4月



京 都 市

はじめに

京都市では、市政の基本方針である「京都市基本構想」に基づく、2回目の長期計画として平成23年度から概ね10年間の市政運営の基本となる次期基本計画の策定に取り組んでいます。

この基本計画の策定に当たって、市民の皆さんの様々なご意見やご提案を幅広くお聞きし、計画に反映するため、このアンケート調査を実施しました。この報告書はその結果をとりまとめたものです。

調査は、外国籍市民を含む18歳以上の市民1万2千人の皆様にご協力をお願いし、4,828通に及ぶ回答をお寄せいただきました。

調査の内容は、現在の生活や家族、就労といった問題、住まいや生活環境の評価、地域社会や市政への関わり、京都の魅力やイメージ、これからのまちづくりなど多岐にわたるものです。

今後、この調査で得られた結果を次期基本計画の策定に反映し、今後の施策展開に生かしていくことはもとより、市民の皆様の多様な活動にも活用されることを願うものです。

最後になりましたが、アンケート調査にご回答いただきました市民の方々をはじめ、ご協力いただきました皆様方に対しまして心よりお礼申し上げます。

平成21年4月

京都市総合企画局政策企画室

調査結果（各設問の単純集計）

<現在の生活について>

- ◆日常生活に「充実感」を感じている市民が 65% <問 1>
- ◆充実感を感じるのは「家族団らん」(48%)、「趣味やスポーツ」(47%)、「休養」(44%) が上位 <問 2>

<今後の生活について>

- ◆生活が「悪くなっていく」と見る市民が 38% <問 3>
- ◆「物の豊かさ」と「心の豊かさ」のどちらに重きを置くのかはいちがいにいえない <問 4>

<家族について>

- ◆家庭の意味は「休息・やすらぎの場」(65%)であり、「団らんの場」(64%)、「絆を強める場」(54%) が上位 <問 5>
- ◆「夫婦二人と子どもで暮らす」(36%) が最も多く、「大家族で暮らす」(32%) がこれに次いで多い <問 6>
- ◆「仕事より家族の幸せを優先」が 68% <問 7>

<就労について>

- ◆「収入の安定」(50%) が最も多いが、「専門知識や能力」(32%)、「ワーク・ライフ・バランス」(31%)、「楽しい仕事」(30%) も指向 <問 8>

<住まいについて>

- ◆定住意向の合計は 68% <問 9>
- ◆定住理由は「生活上便利なところ」(53%)、「土地へのなじみ・愛着」(35%)、「現在の住宅に満足」(27%) が上位 <問 9 副問>
- ◆移転したい理由は「住宅への不満」(45%) が中心 <問 9 副問>
- ◆移転先としては、市内指向が合計 57% <問 9 副問>

<身近な生活環境について>

- ◆全体として、市民の 54%は居住環境に満足している <問 10>

<地域での暮らしや活動について>

- ◆「隣近所との付き合い」を大切にしたい人が 82% <問 11>
- ◆愛着や誇りを感じているのは「京都市」(55%) が最も多く、「隣近所」(49%) がこれに次ぐ <問 12>
- ◆地域活動では、「防犯」(83%)、「清掃」(82%)、「防災」(81%)などを大切と感じる人が多い <問 13>

<市政への市民参加について>

- ◆58%の市民が市政に参加希望 <問 14>
- ◆「健康」(35%)、「福祉」(33%)、「環境」(33%)、「防犯」(31%)、「スポーツ・文化」(29%)などで参加希望が高い <問 14 副問>
- ◆市民参加の有効な手法として、「まちづくり情報の公表」(46%)、「参加しやすい方法の工夫」(41%)、「市民主体の活動を支援」(34%)、「市民と市長が直接意見を交換する場」(33%)などの意見が多い <問 15>

<京都の持つ都市の魅力やイメージについて>

- ◆京都の魅力では、「散策」(79%)、「住む」(70%)、「学ぶ」(62%)、「心身を癒す」(58%)、「くつろぐ」(57%)が上位 <問 16>
- ◆京都の現在のイメージでは、「歴史環境の豊かな都市」(88%)、「観光都市」(83%)、「伝統産業の都市」(71%)が上位 <問 17>
- ◆京都の将来のイメージでは、「安心して暮らせる都市」(50%)、「町並みの美しい都市」(40%)、「歴史環境の豊かな都市」(27%)が上位 <問 18>

<京都が今後力を入れるべき施策について>

- ◆今後力を入れるべき施策では、「高齢者福祉」(49%)、「安全・消防・防災」(45%)、「健康・保健医療」(41%)が上位 <問 19>

<京都市の行財政改革について>

- ◆行財政改革で重視されていることは、「行政組織のスリム化」(44%)、「市政の透明化」(40%)、「財政状況に応じた事業の見直し」(39%)が上位 <問 20>
- ◆経済的負担と行政サービスの兼ね合いは「いちがいにはいけない」(44%)が多いが、「負担を増やしてまでのサービス充実は不要」(38%)がこれに次ぐ <問 21>

<京都市のまちづくりの課題について>

- ◆人口については、「減少はやむを得ないが減少幅を最小限に」(37%)、「現状維持」(33%)が多く、「減少してもかまわない」(12%)は少ない <問 22 (ア)>
- ◆自家用車の利用について「自主的にひかえるべき」(40%)が最も多く、「何らかの制限を導入することもやむを得ない」(33%)を含めて 73%が車利用の抑制に肯定的 <問 22 (イ)>
- ◆今後のまちづくりは「保全・再生・創造を市全体でバランスよく進めるべき」(70%)が最も多い <問 22 (ウ)>
- ◆居住する行政区においても「保全・再生・創造をバランスよく進めるべき」(57%)が最も多い <問 22 (ウ) 副問>

目 次

はじめに

調査結果（各設問の単純集計）

調査の概要	1
1 調査の目的と方法	1
2 調査内容	1
3 回答者の属性	3
調査結果	5
＜現在の生活について＞	
問1 日常生活の充実感	6
問2 充実感を感じる時	8
＜今後の生活について＞	
問3 生活の見通し	10
問4 今後の生活の仕方（物と心）	12
＜家族について＞	
問5 家族の意味	14
問6 家族の望ましい暮らし方	16
問7 家族と仕事の関係	18
＜就労について＞	
問8 理想の仕事	20
＜住まいについて＞	
問9 定住意向	22
（副問）定住したい理由	24
（副問）移転したい理由	26
（副問）移転先希望	28
＜身近な生活環境について＞	
問10 居住環境評価（快適性，利便性，安全性）	30
＜地域での暮らしや活動について＞	
問11 地域社会に対する態度	34
問12 居住地域に対する愛着や誇り	38
問13 地域活動評価	42
＜市政への市民参加について＞	
問14 市政への参加希望	46
（副問）市政への参加希望分野	48
問15 市政への有効な参加手法	50
＜京都の持つ都市の魅力やイメージについて＞	
問16 京都の持つ都市の魅力	52
問17 京都の持つ都市のイメージ（現在）	55

問 18 京都の持つ都市のイメージ（将来）	58
＜京都が今後力を入れるべき施策について＞	
問 19 京都市の施策（分野）の優先度	61
（副問）取組の進ちょくを測る指標.....	65
＜京都市の行財政改革について＞	
問 20 京都市の行財政改革	69
問 21 市民負担と行政サービスの兼ね合い	71
＜京都市のまちづくりの課題について＞	
問 22 京都市のまちづくりの課題	73
（ア）人口問題（適正人口規模）.....	73
（イ）交通問題.....	75
（ウ）まちづくりの方向性.....	77
（副問）居住する行政区の方向性.....	79
＜京都市の将来について＞	
問 23 京都市の将来	80
まとめ	91
1 市民の生活ニーズ.....	91
2 市民と地域のつながり.....	91
3 居住環境や都市環境.....	92
4 都市の魅力や活力.....	93
5 行財政改革.....	93
 資料 アンケート調査票.....	 95

調査の概要

1 調査の目的と方法

(1) 調査目的

本調査は、次期京都市基本計画の策定のための基礎資料として、市民の生活実感や生活環境の評価、地域社会とのつながり、京都の持つ都市の魅力やイメージ、京都市のまちづくりの課題に関する意見など、市民意識や市民ニーズを探るために実施したものである。

(2) 調査対象

調査対象は、18歳以上の京都市民 12,000 人（うち外国籍市民 367 人）である。平成 20 年 11 月 1 日現在の住民基本台帳登録者及び外国人登録者から無作為抽出した。

(3) 調査方法

調査票の配布及び回収は、郵送法により行った。なお、回収期間中に対象者全員に礼状兼督促状を送付し、回収率の向上に努めた。

(4) 調査期間

平成 20 年 11 月 14 日（金）～12 月 1 日（月）

(5) 回収状況

有効回収数 : 4,828（有効回収率 40.2%）

2 調査内容

(1) 調査方針

市民の意識やニーズについてたずねる調査とした。また、以前の本市基本構想や基本計画策定時に実施したアンケート調査との時系列比較や国等が実施した全国調査との比較を行えるよう、調査項目を設計した。比較対象となる各種調査は下表のとおりである。

■比較対象となる各種調査

	調査名	実施主体	実施時期	備考
前々回調査	新京都市基本計画策定のための市民アンケート調査	京都市	平成 2 年 12 月	調査対象数 2,608 人 有効回収率 59.3%
前回調査	21 世紀・京都グランドビジョン市民 3 万人アンケート調査	京都市	平成 9 年 11 月	調査対象数 30,000 人 有効回収率 31.8%
全国調査	国民生活に関する世論調査（以下「世論調査」という。）	内閣府	平成 20 年 6 月	調査対象数 10,000 人 有効回収率 61.5% 調査頻度（毎年実施）

	家族全国世論調査 (以下「家族調査」という。)	日本世論調査会	平成 20 年 10 月	調査対象数 3,000 人 (面接調査) 単独実施
	国民生活選好度調査 (以下「選好調査」という。)	内閣府	平成 18 年 1 月	調査対象数 3,000 人 有効回収率 63.3% 調査頻度 (3 年周期で時系列調査を実施 (当該調査は時系列調査), その間の 2 年間は重点問題等の調査)

(2) 調査項目

調査項目は下表のとおりである。

○ : 前回調査
◎ : 前回及び前々回調査

■設問項目

分野	設問	過去調査	全国調査
現在の生活について	問 1 日常生活の充実感	○	世論調査
	問 2 充実感を感じる時	○	世論調査
今後の生活について	問 3 生活の見通し	○	世論調査
	問 4 今後の生活の仕方 (物と心)	○	世論調査
家族について	問 5 家族の意味		世論調査
	問 6 家族の望ましい暮らし方		家族調査
	問 7 家族と仕事の関係		家族調査
就労について	問 8 理想の仕事		世論調査
住まいについて	問 9 定住意向	◎	
	(副問) 定住したい理由	◎	
	(副問) 移転したい理由	◎	
	(副問) 移転先希望	◎	
身近な生活環境について	問 10 居住環境評価 (快適性, 利便性, 安全性)	◎	
地域での暮らしや活動について	問 11 地域社会に対する態度	◎	選好調査*
	問 12 居住地域に対する愛着や誇り	○	
	問 13 地域活動評価		
市政への市民参加について	問 14 市政への参加希望		
	(副問) 市政への参加希望分野		
	問 15 市政への有効な参加手法		
京都の持つ都市の魅力やイメージについて	問 16 京都の持つ都市の魅力	○	
	問 17 京都の持つ都市のイメージ (現在)	◎	
	問 18 京都の持つ都市のイメージ (将来)	◎	
京都が今後力を入れるべき施策について	問 19 京都市の施策 (分野) の優先度	○	
	(副問) 取組の進ちょくを測る指標		
京都市の行財政改革について	問 20 京都市の行財政改革	○	
	問 21 市民負担と行政サービスの兼ね合い	○	
京都市のまちづくりの課題について	問 22 京都市のまちづくりの課題	(ア) 人口問題 (適正人口規模)	○
		(イ) 交通問題	○
		(ウ) まちづくりの方向性	
		(副問) 居住する行政区の方向性	
京都市の将来について	問 23 京都市の将来	○	

* 問 11 のキ, クの 2 項目のみ比較

3 回答者の属性

(1) 性別

区分	人	%
男	2,006	41.5
女	2,732	56.6
無回答	90	1.9
合 計	4,828	100.0

(参考)	前回調査比率
%	%
47.1	42.2
52.9	55.3
-	2.5
100.0	100.0

住民基本台帳人口+外国人
登録人口比率 (18 歳以上)
(平成20年10月1日現在)

前回調査比率

(2) 年齢

区分	人	%
18～29 歳	515	10.7
30 歳代	742	15.4
40 歳代	697	14.4
50 歳代	798	16.5
60 歳代	1,035	21.4
70 歳代以上	968	20.0
無回答	73	1.5
合 計	4,828	100.0

(参考)	前回調査比率
%	%
17.5	18.2
18.2	14.2
14.7	15.6
15.0	18.7
16.2	18.1
18.4	13.4
-	1.8
100.0	100.0

(3) 国籍

区分	人	%
日本	4,628	95.9
外国	91	1.9
無回答	109	2.3
合 計	4,828	100.0

(参考)	前回調査比率
%	%
96.9	95.3
3.1	1.5
-	3.2
100.0	100.0

(4) 住所

区分	人	%
北区	446	9.2
上京区	273	5.7
左京区	592	12.3
中京区	340	7.0
東山区	128	2.7
山科区	492	10.2
下京区	265	5.5
南区	179	3.7
右京区	653	13.5
西京区	521	10.8
伏見区	650	13.5
無回答	89	1.8
合 計	4,828	100.0

(参考)	前回調査比率
%	%
8.1	9.0
5.6	6.3
11.2	12.9
7.1	6.8
2.9	3.5
9.3	8.5
5.4	5.0
6.9	5.4
13.6	12.4
10.5	10.5
19.4	17.9
-	1.9
100.0	100.0

前回調査

(5) 職業

区分	人	%	%
自営業（家族従業者を含む）・自由業	676	14.0	16.6
会社員・公務員など（正社員）	1,235	25.6	29.5
会社員・公務員など（正社員以外のパート、アルバイトなど）	599	12.4	
主婦・主夫	1,045	21.6	14.8
無職（専業の主婦・主夫を除く）	740	15.3	14.8
学生	157	3.3	6.3
その他	274	5.7	6.6
無回答	102	2.1	2.6
合 計	4,828	100.0	100.0

(6) 住居

区分	人	%	%
持家（一戸建住宅）	3,067	63.5	63.1
持家（マンション等）	538	11.1	7.7
民間賃貸住宅（一戸建住宅）	218	4.5	6.7
民間賃貸住宅（マンション等）	538	11.1	11.0
公的賃貸住宅（公営・公社等）	229	4.7	4.6
給与住宅（社宅・寮・官公舎等）	84	1.7	2.8
その他	66	1.4	2.1
無回答	88	1.8	2.2
合 計	4,828	100.0	100.0

(7) 世帯

区分	人	%
単身	688	14.3
夫婦のみ	1,325	27.4
2世代	2,261	46.8
3世代	365	7.6
その他	79	1.6
無回答	110	2.3
合 計	4,828	100.0

（2世代世帯における回答者の属性）

区分	人	%
親	1,324	58.6
子ども	614	27.2
無回答	323	14.3
合計	2,261	100.0

（3世代世帯における回答者の属性）

区分	人	%
親	91	24.9
子ども	161	44.1
孫	45	12.3
無回答	68	18.6
合計	365	100.0

調査結果

○グラフの読み方

- ・基本的には回答者総数を分母とした回答率で、合計は 100%となります。なお、《複数回答》の設問では、回答の合計は 100%を超えます。

<凡例>

H20 : 今回調査（平成 20 年 11 月）

H9 : 前回調査 「21 世紀・京都グランドビジョン市民 3 万人アンケート調査」（平成 9 年 11 月）

H2 : 前々回調査「新京都市基本計画策定のための市民アンケート調査」（平成 2 年 12 月）

世論調査 : 「国民生活に関する世論調査」（平成 20 年 6 月）

家族調査 : 「家族全国世論調査」（平成 20 年 10 月）

選好調査 : 「国民生活選好度調査」（平成 18 年 1 月）

現在の生活について

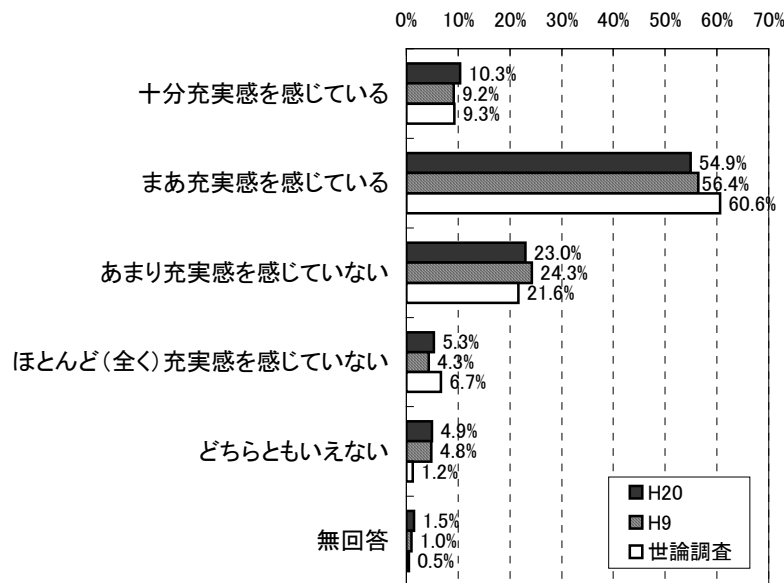
問1 日常生活の充実感

あなたは、日頃の生活の中で、全体としてどの程度充実感を感じていますか。あなたのお考えに近いものを1つ選び番号に○印をつけてください。

◆日常生活に「充実感」を感じている市民が65%

母数=4,828

問1 日常生活の充実感 <全体>



《全体的傾向及び他調査との比較》

いずれの調査においても、日常生活に「まあ充実感を感じている」とする層が最も多く6割程度を占めており、これに「十分充実感を感じている」を加えると6～7割が充実感を感じている。

前回調査と今回調査ではあまり違いがない。

世論調査は、「まあ充実感を感じている」とする層が今回調査よりもやや多くなっている。

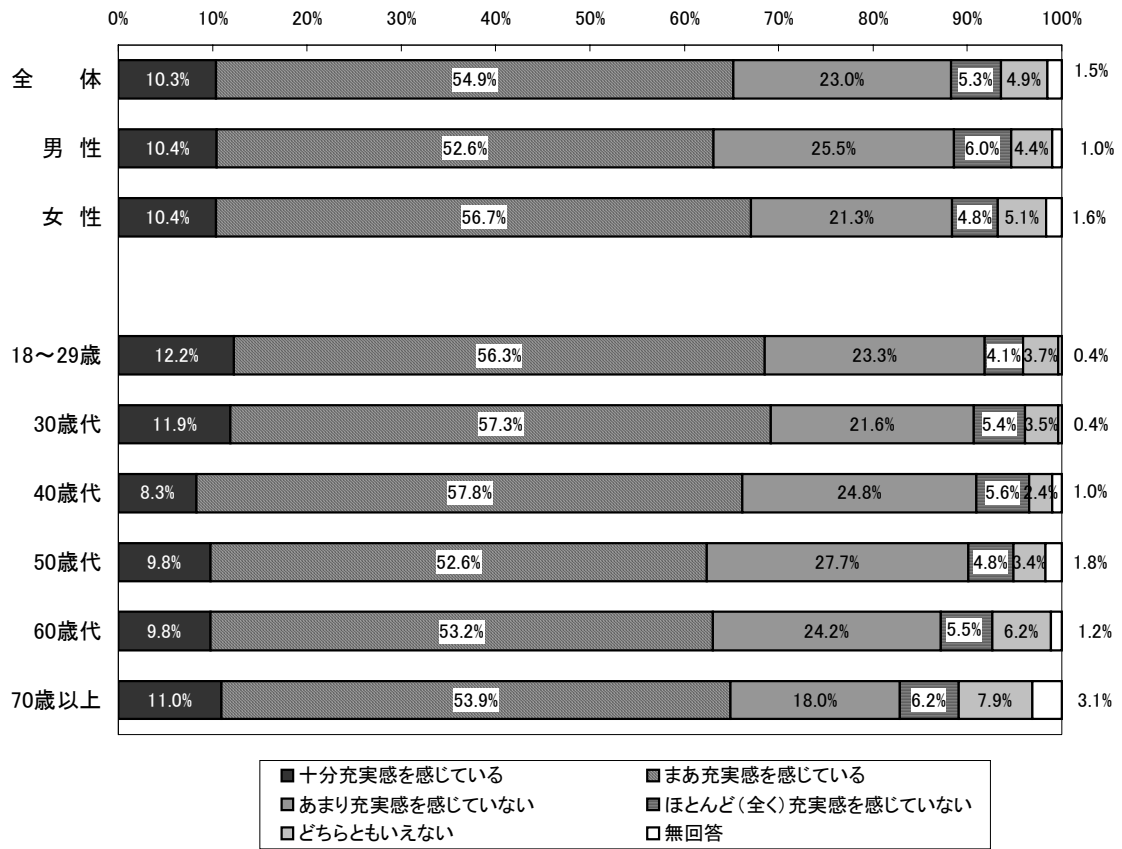
《性別》

「十分充実感を感じている」「まあ充実感を感じている」を加えると、男性で63%，女性で67%となっており、女性の方がわずかに充実感が高い。

《年代別》

年代別には、30歳代が最も充実感が高く、50歳代が最も充実感が低くなっている。

問1 日常生活の充実 <性別・年代別>

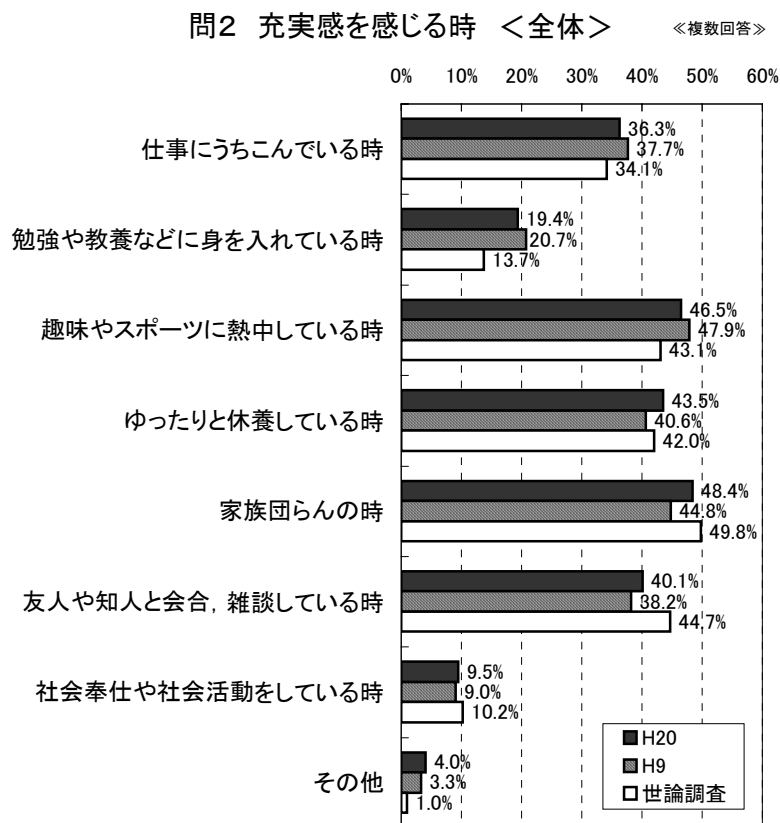


問2 充実感を感じる時

それでは、あなたが日頃の生活の中で、充実感を感じるのは、主にどのような時ですか。当てはまるものをすべて選び番号に○印をつけてください。

◆充実感を感じるのは「家族団らん」（48%）、「趣味やスポーツ」（47%）、「休養」（44%）が上位

母数=4,828



<<全体的傾向及び他調査との比較>>

日頃の生活の中で、充実感を感じるのは、「家族団らん」、「趣味やスポーツ」、「ゆったりと休養」、「友人や知人と会合、雑談している時」など、プライベートな場面が多い。

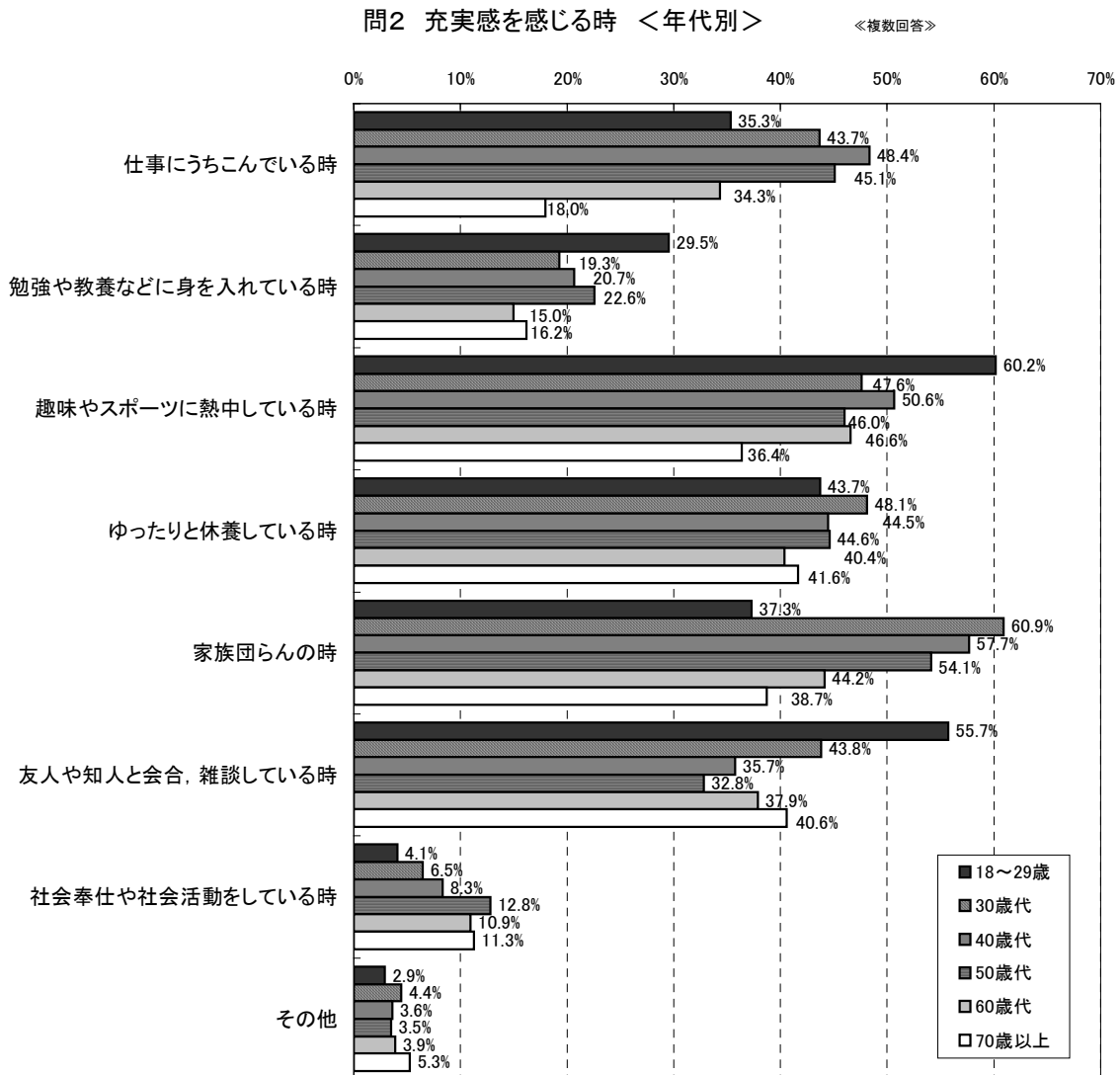
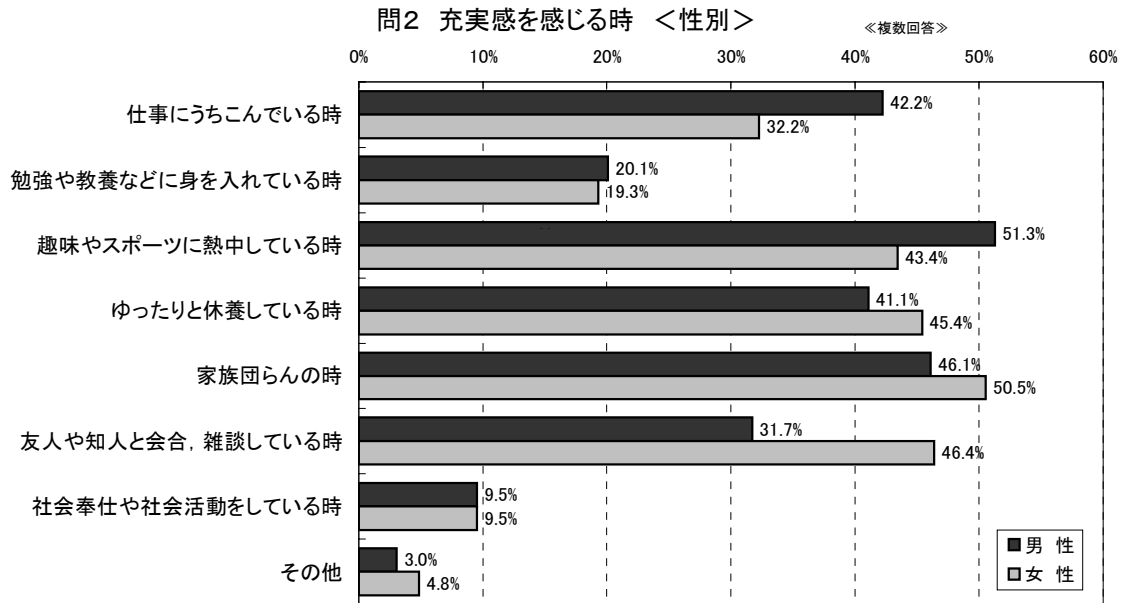
前回調査とはあまり違いはないが、世論調査よりも「勉強や教養などに身を入れている時」がやや多くなっている。

<<性別>>

男女では特徴的な違いが見られる。男性では、「趣味やスポーツに熱中しているとき」(51%)、「仕事に打ちこんでいるとき」(42%)が10ポイント程度女性より高く、女性では、「友人や知人と会合、雑談しているとき」が15ポイント程度男性より高い。

<<年代別>>

「仕事」は働き盛りの40歳代が最も多い。「勉強や教養」や「趣味やスポーツ」は学齢期を含む若い18～29歳層の若い世代が多い。「ゆったりと休養」は30歳代が最も多い。「家族団らん」は30歳代をピークとして、年齢が上昇すると選択率が低くなっている。「友人や知人と会合」は若年層や高齢層で多く、50歳代では少ないV字型となっている。



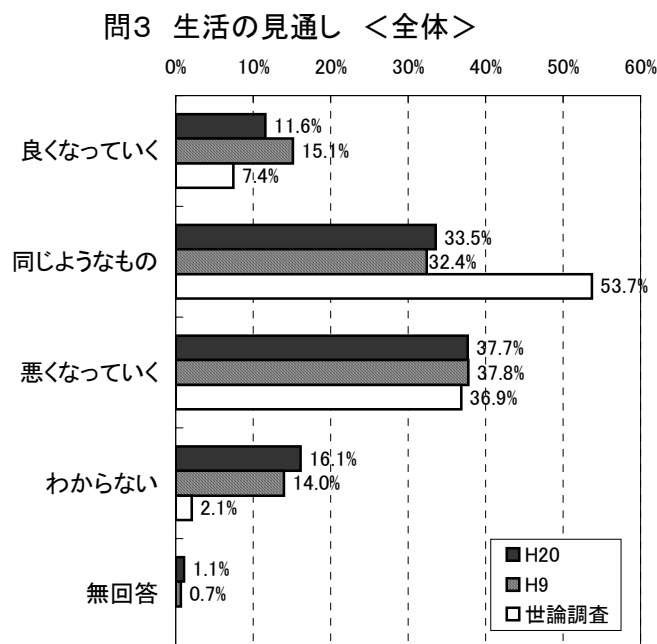
今後の生活について

問3 生活の見通し

あなたの生活は、これから先、どうなっていくと思いますか。あなたのお考えに近いものを1つ選び番号に○印をつけてください。また、できれば、その理由についても簡潔にお書きください。

◆生活が「悪くなっていく」と見る市民が38%

母数=4,828



注) 本調査では「あなたの生活は」とたずねているが、世論調査では「お宅の生活は」とたずねている。

《全体的傾向及び他調査との比較》

前回調査とはほとんど変わらない傾向であるが、生活の見通しが「悪くなっていく」が38%と最も多いほか、「良くなっていく」が3ポイント余り減少している。

また、世論調査では「同じようなもの」とする人が54%と、今回調査より20ポイント高い一方で、「良くなっていく」が今回調査より4ポイント低くなっている。

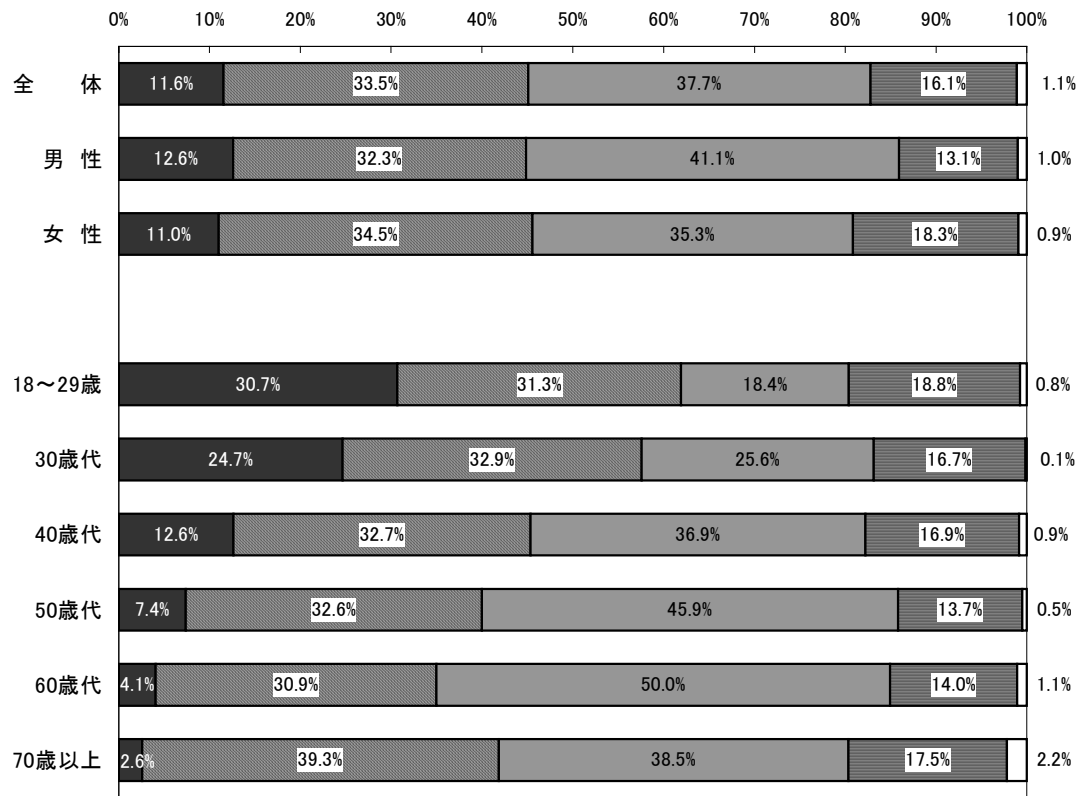
《性別》

男性の方が「悪くなっていく」が6ポイント多い。

《年代別》

年代別では明瞭な傾向が読み取れる。すなわち、若年層の方が「良くなっていく」とする層が多く、年齢が高くなるほどその率は小さくなる。また、「悪くなっていく」とする層は60歳代が最も多く、50%を占めている。

問3 生活の見通し <性別・年代別>



■良くなっていく ■同じようなもの ■悪くなっていく ■わからない □無回答

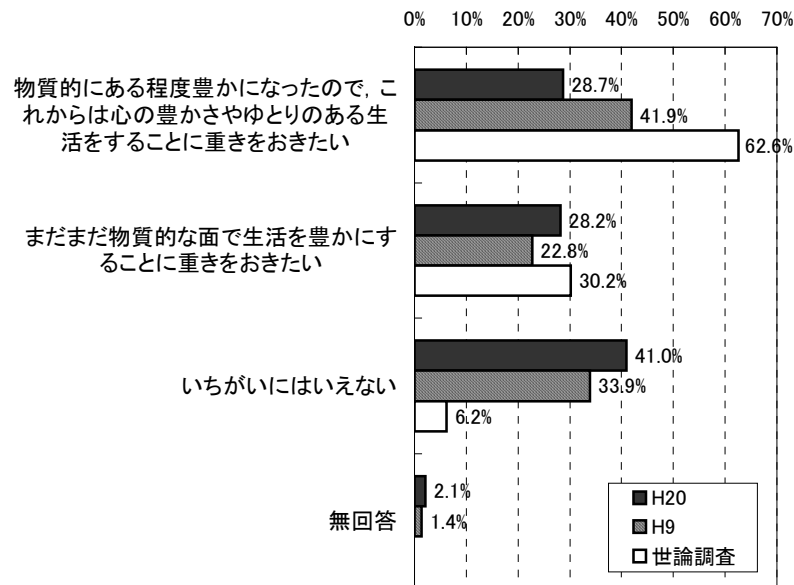
問4 今後の生活の仕方（物と心）

今後の生活の仕方について、あなたはどのようにお考えですか。あなたのお考えに近いものを1つ選び番号に○印をつけてください。

◆「物の豊かさ」と「心の豊かさ」のどちらに重きを置くのかはいちがいにいえない

母数＝4,828

問4 今後の生活の仕方（物と心）＜全体＞



＜全体的傾向及び他調査との比較＞

今回調査では、「心の豊かさ」が29%、「物の豊かさ」が28%、「いちがいにはいえない」が41%で、全体として、「物」と「心」がバランスしているといえる。

一方、前回調査と比べると、「心の豊かさ」が13ポイント減少しているとともに、世論調査と比べても「心の豊かさ」が34ポイント低い*。

また、次頁に示す世論調査の経年推移をみると、調査開始後概ね「物の豊かさ」が減り「心の豊かさ」が増加してきている。

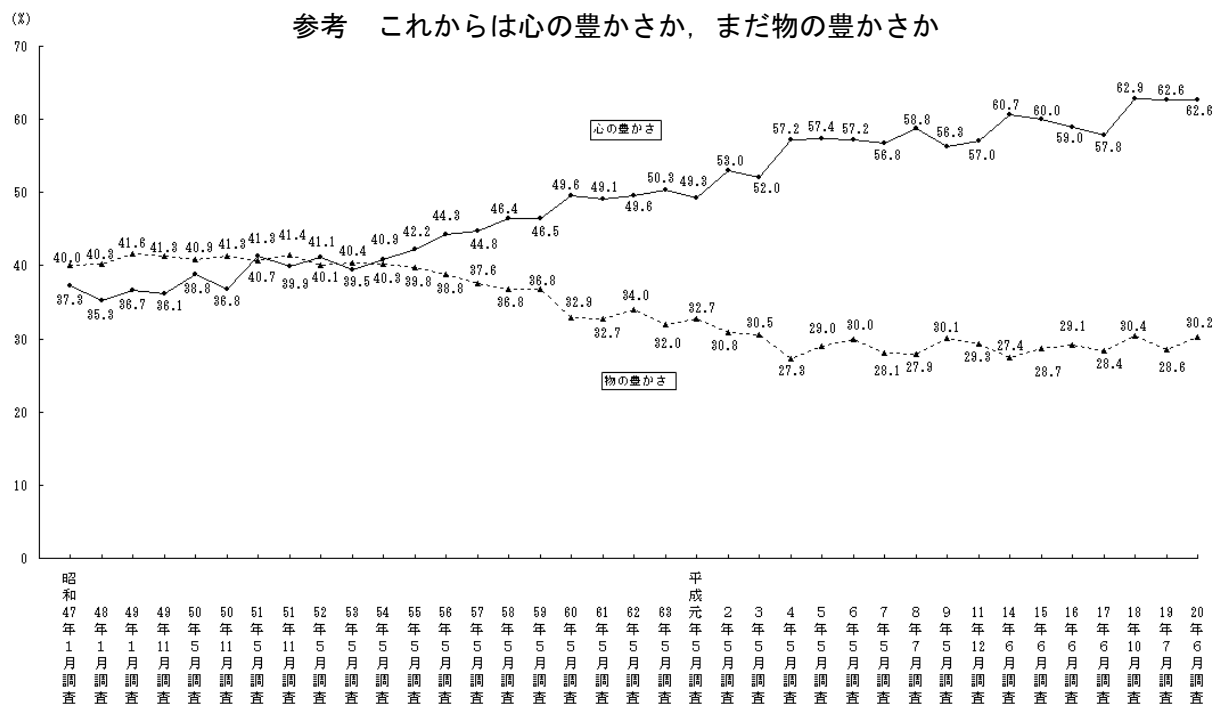
*世論調査は平成20年6月実施のため、この間の急激な社会経済情勢の変化が影響している可能性がある。

＜性別＞

性別では、男女間に特に目立った違いは見られない。

＜年代別＞

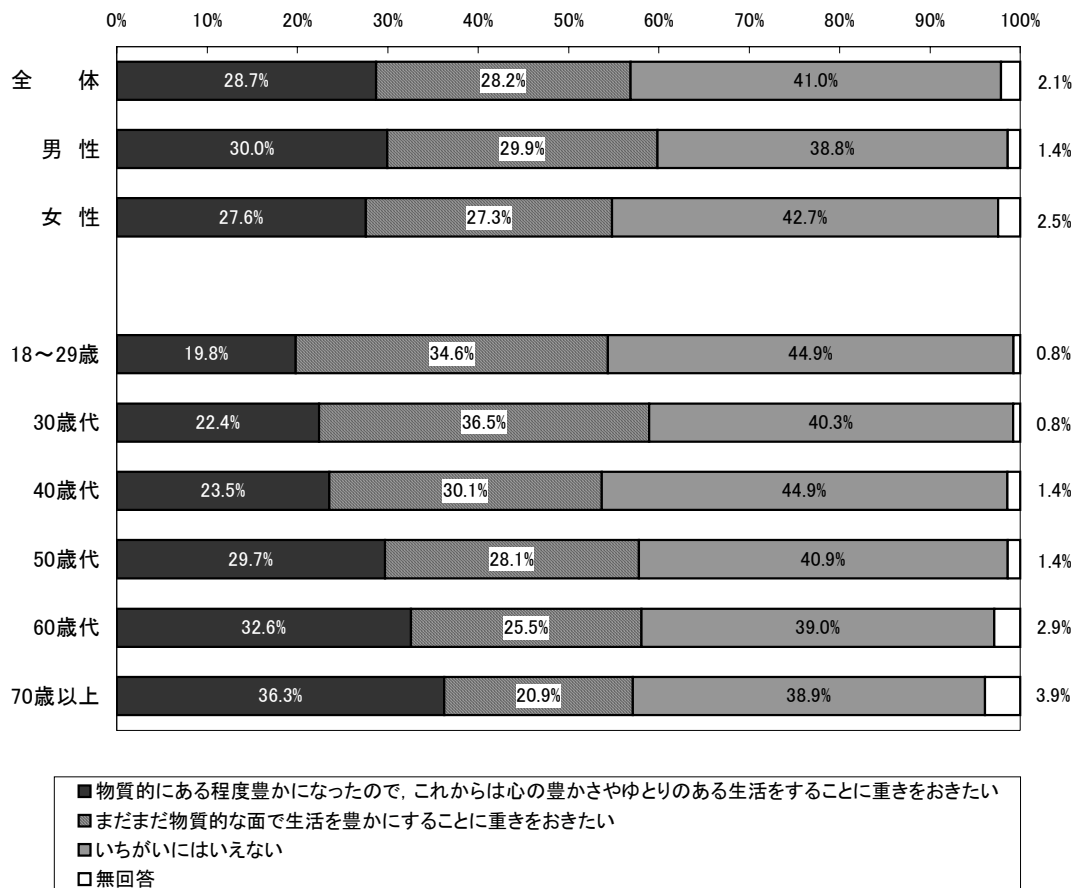
年代別では、年齢が高まるほど「心の豊かさ」に重きを置く傾向が見られる。



(注) 心の豊かさ → 「物質的にある程度豊かになったので、これからは心の豊かさやゆとりのある生活することに重きをおきたい」
物の豊かさ → 「まだまだ物質的な面で生活を豊かにすることに重きをおきたい」

資料：内閣府「国民生活に関する世論調査」（平成20年6月）

問4 今後の生活の仕方(物と心) ＜性別・年代別＞



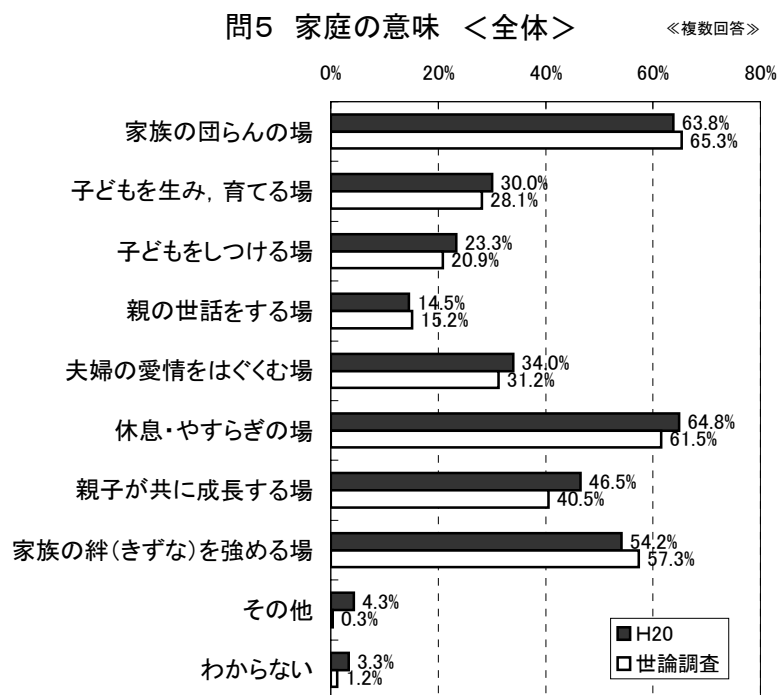
家族について

問5 家庭の意味

あなたにとって家庭はどのような意味をもっていますか。当てはまるものをすべて選び番号に○印をつけてください。

◆家庭の意味は「休息・やすらぎの場」(65%)であり、「団らん」の場(64%),「絆を強める場」(54%)が上位

母数=4,828



《全体的傾向及び他調査との比較》

家庭は「休息・やすらぎの場」(65%)であり、「団らん」の場(64%)、「絆を強める場」(54%)といった家族の関係性に関する項目が選択されており、「子どもを生み、育てる」、「子どもをしつける」、「親の世話をする」といった機能的な面は余り選択されていない。

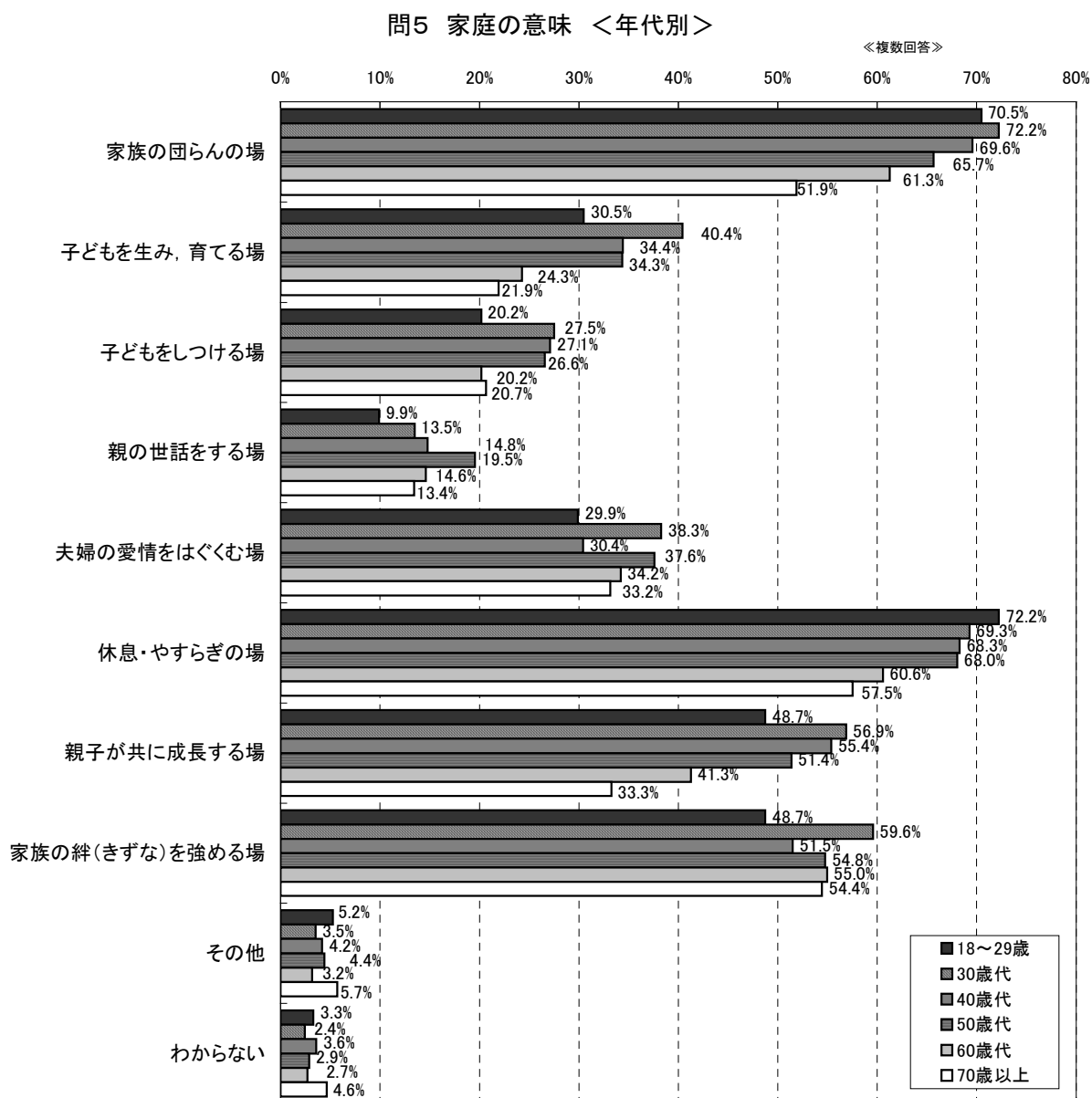
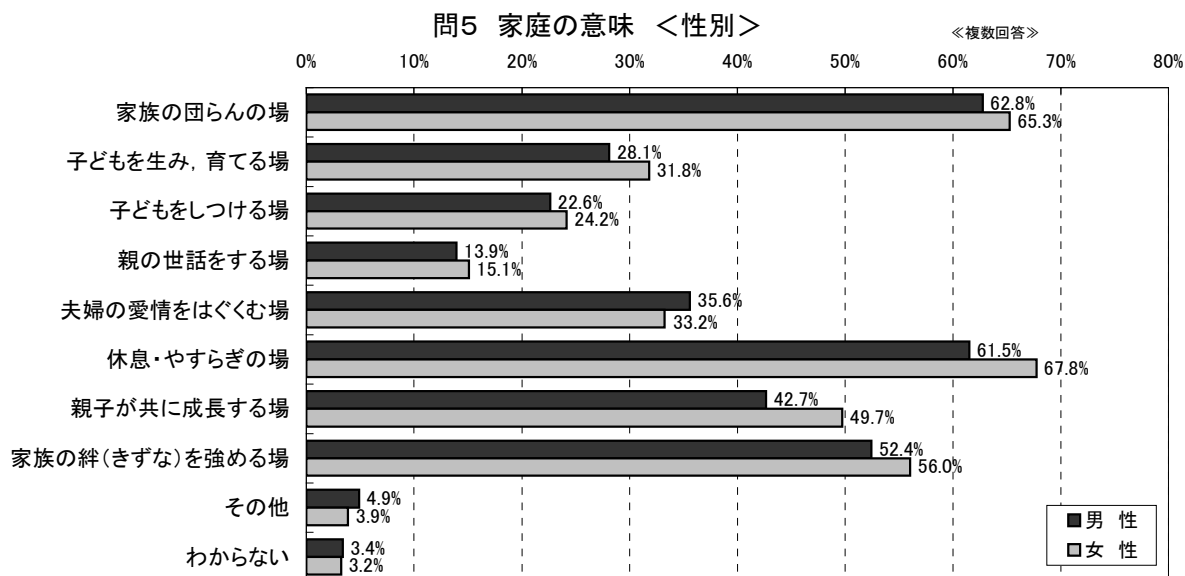
また、世論調査と比較しても大きな違いは見られない。

《性別》

「夫婦の愛情をはぐくむ場」のみ男性の選択が多いが、その他の項目は、いずれも女性の選択が多くなっている。

《年代別》

「休息・やすらぎの場」は、年齢が若いほど強く意識されている。また、「家族団らん」の場、「子どもを生み、育てる場」、「親子が共に成長する場」については、子育ての中心世代である30歳代が最も高くなっている。

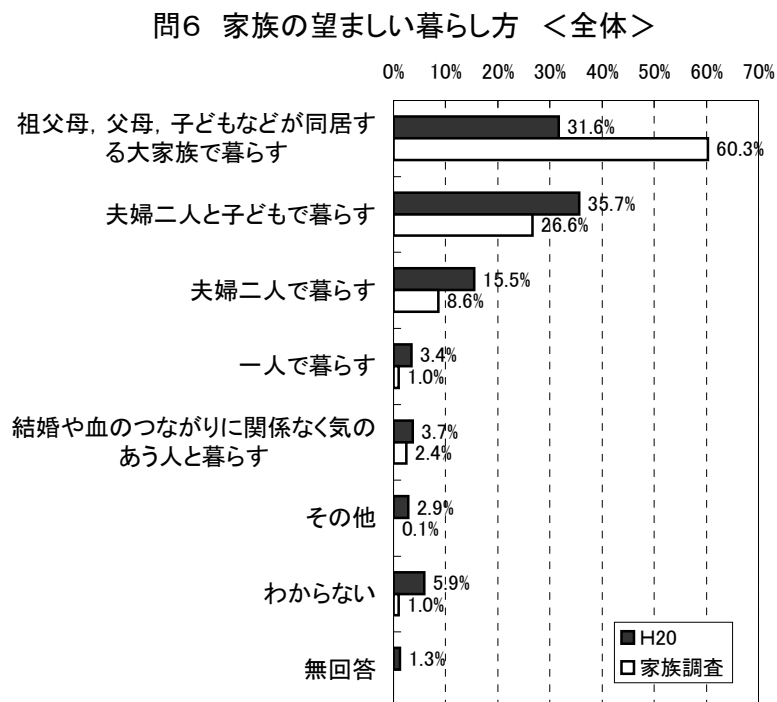


問6 家族の望ましい暮らし方

あなたが最も望ましいと思う暮らし方は次のどれですか。あなたのお考えに近いものを1つ
 選び番号に○印をつけてください。

◆「夫婦二人と子どもで暮らす」（36％）が最も多く、「大家族で暮らす」（32％）
 がこれに次いで多い

母数＝4,828



《全体的傾向及び他調査との比較》

今回調査では、「夫婦二人と子どもで暮らす」が最も多く 36％で、これに「夫婦二人と子ども」を加えた＜核家族＞を指向する層が 51％ある。一方、「祖父母、父母、子どもなどが同居する大家族で暮らす」は 32％にとどまる。

家族調査では、＜大家族＞に関する指向する層が 60％、「夫婦二人と子どもで暮らす」が 27％となっている*。

* 学生比率の高さや大都市であるという本市の都市特性のほか、調査方法の違い（家族調査は面接調査）が何らかの影響を及ぼしている可能性もある。

《性別》

男女別ではあまり違いはないが、「夫婦二人で暮らす」は、男性の方が 4 ポイント高くなっている。

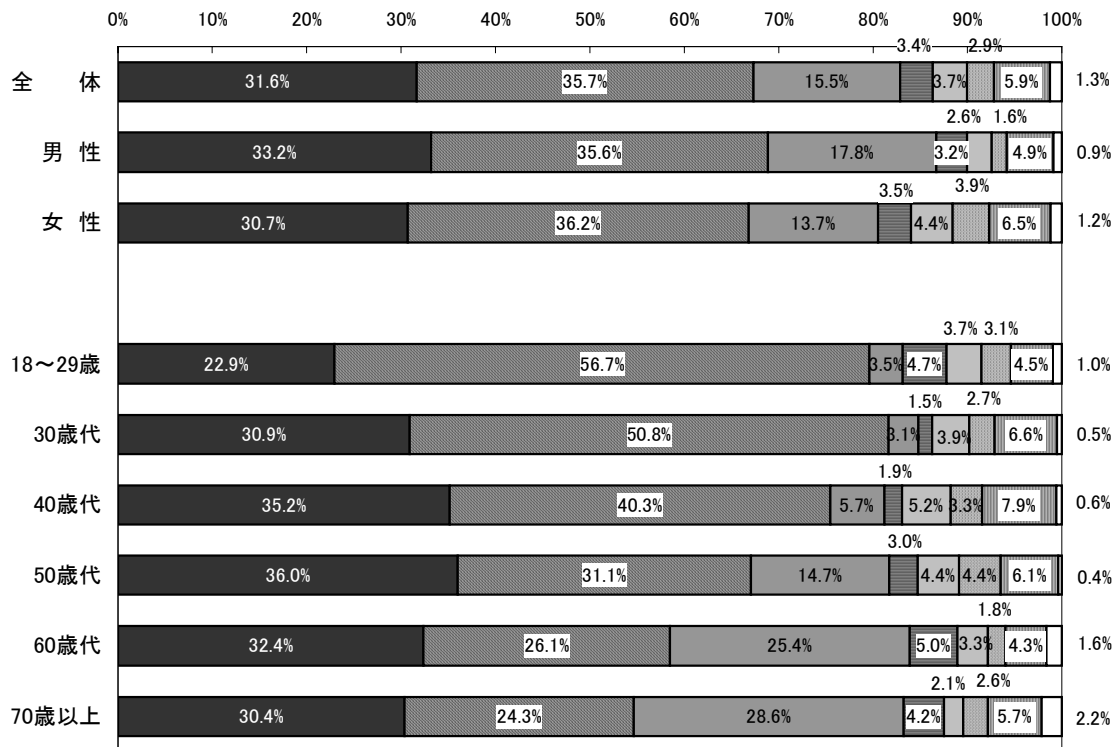
《年代別》

「夫婦二人と子ども」はほぼ年齢に比例し、若い層でその指向が強く、高齢になると減少する。逆に、「夫婦二人」は年齢が高まるほど増加する傾向にあり、高齢世帯は大家族と同時に夫婦のみの生活も望んでいることがわかる。

《世帯型別》

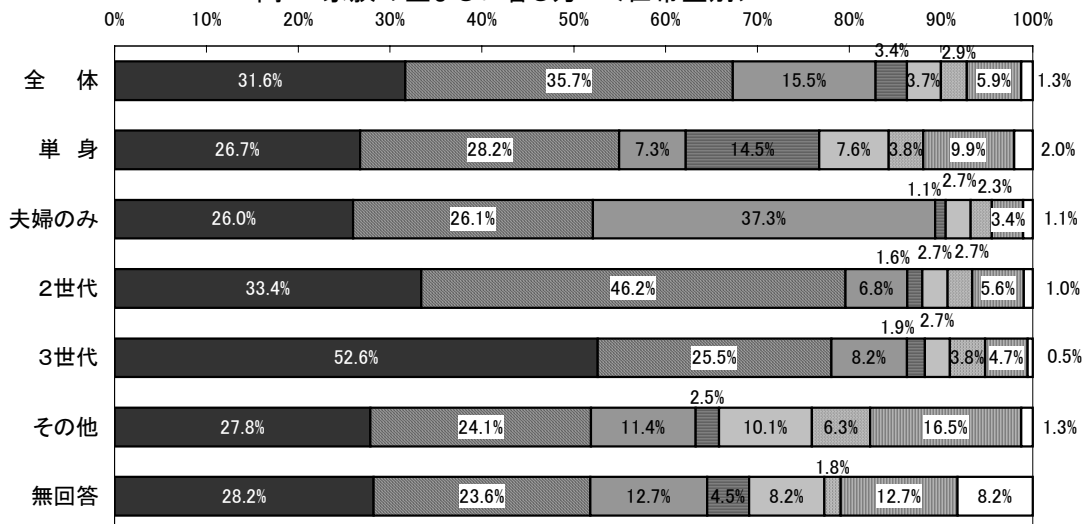
世帯型別では、単身世帯以外の世帯では、現状の世帯型と同じ型が望ましいとするものが最も多い。

問6 家族の望ましい暮らし方 <性別・年代別>



- 祖父母、父母、子どもなどが同居する大家族で暮らす
- 夫婦二人で暮らす
- 一人で暮らす
- 結婚や血のつながりに関係なく気のあう人と暮らす
- その他
- 無回答
- わからない

問6 家族の望ましい暮らし方 <世帯型別>



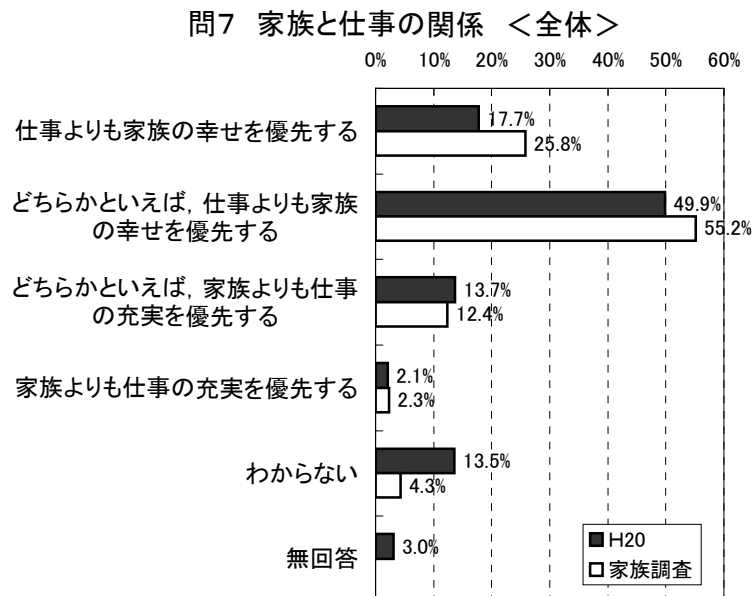
- 祖父母、父母、子どもなどが同居する大家族で暮らす
- 夫婦二人で暮らす
- 一人で暮らす
- 結婚や血のつながりに関係なく気のあう人と暮らす
- その他
- 無回答
- わからない

問7 家族と仕事の関係

家族と仕事の関係は、どうあるべきだと思いますか。あなたのお考えに近いものを1つ選び番号に○印をつけてください。

◆「仕事より家族の幸せを優先」が68%

母数=4,828



《全体的傾向及び他調査との比較》

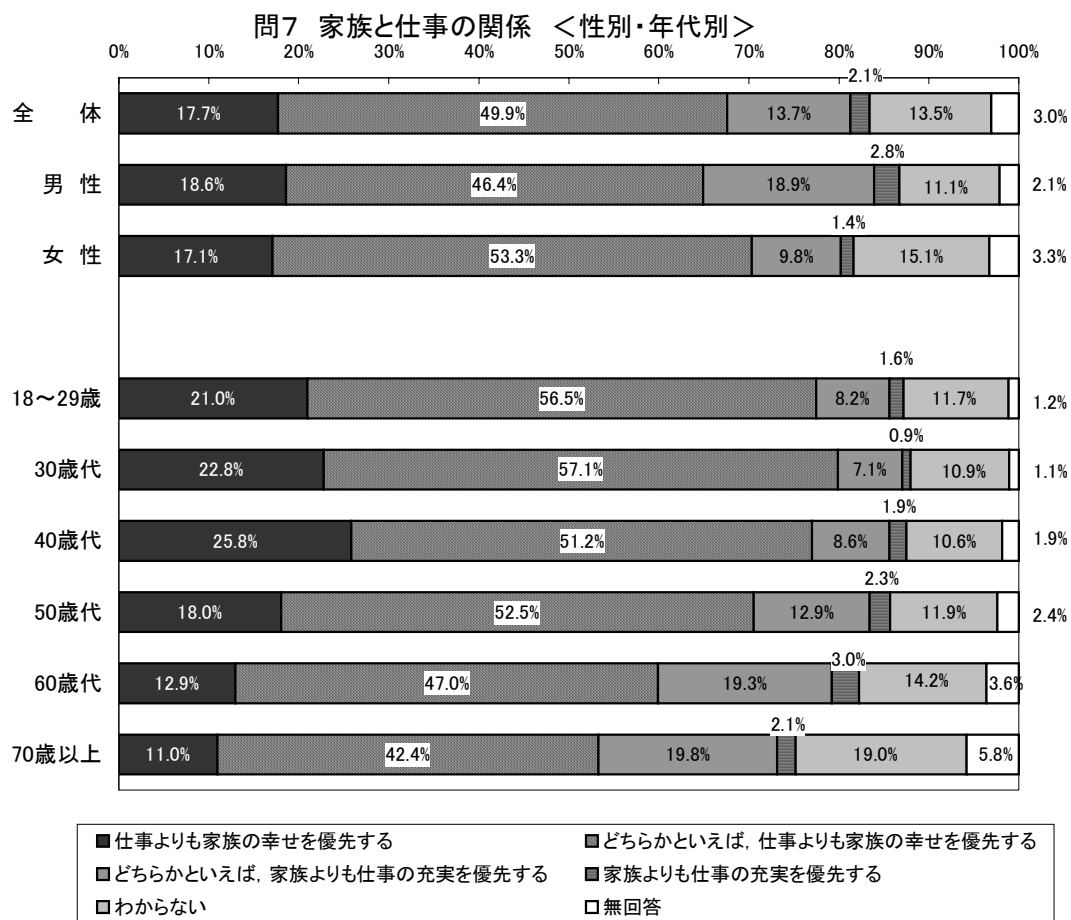
今回調査では、「どちらかといえば、仕事よりも家族の幸せを優先」する層が50%で最も多く、「仕事より家族の幸せを優先」(18%)とあわせると、68%が<家族優先>と答えている。家族調査の結果もほぼ同じ傾向となっている。

《性別》

性別では、男女とも基本的には同じ傾向であるが、女性の方が<家族優先>の割合が男性より5ポイント高く、逆に男性では<仕事優先>が11ポイント高くなっている。

《年代別》

年代別では、30歳代をピークとして年齢が高まるほど<家族優先>が減り、<仕事優先>が増加している。世代間に家族・仕事観の違いが見られる。



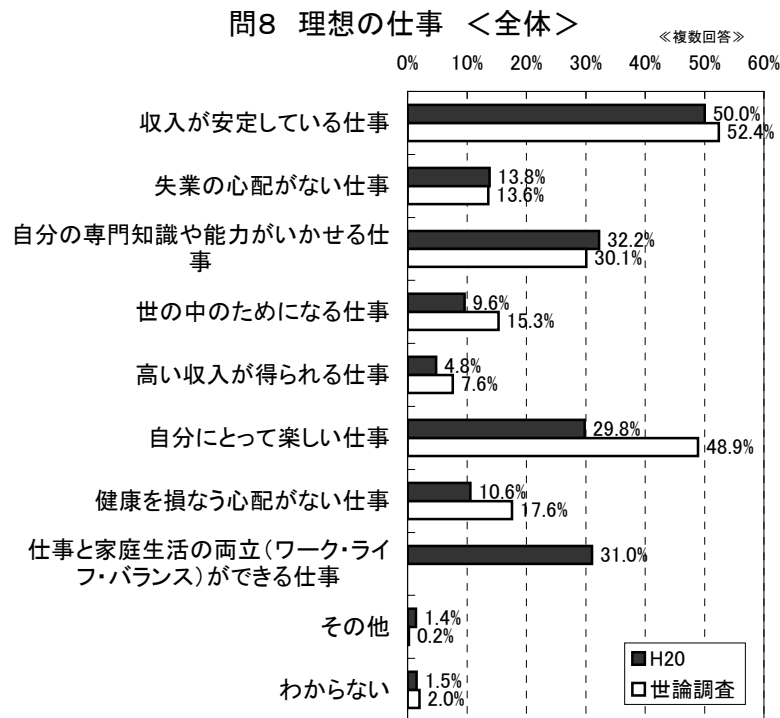
就労について

問8 理想の仕事

社会には、様々な仕事がありますが、あなたにとってどのような仕事が理想的だと思いますか。あなたのお考えに近いものを2つ以内で選び番号に○印をつけてください。

◆「収入の安定」(50%)が最も多いが、「専門知識や能力」(32%),「ワーク・ライフ・バランス」(31%),「楽しい仕事」(30%)も指向

母数=4,828



注) 棒及び数値のない項目は、当該調査で選択肢が設けられていない。

《全体的傾向及び他調査との比較》

「収入が安定している仕事」が50%で最も多く、経済的な条件の確保が基本となっている。これに、「専門知識や能力がいかせる仕事」(32%)、「仕事と家庭生活の両立(ワーク・ライフ・バランス)ができる仕事」(31%)、「自分にとって楽しい仕事」(30%)等が続いている。

世論調査には「ワーク・ライフ・バランス」の選択肢がないが*, 世論調査でも今回調査と同様に収入の安定が1位となっている。

* 「ワーク・ライフ・バランス」に関する選択肢は、今回調査で新たに設定したもの。

《性別》

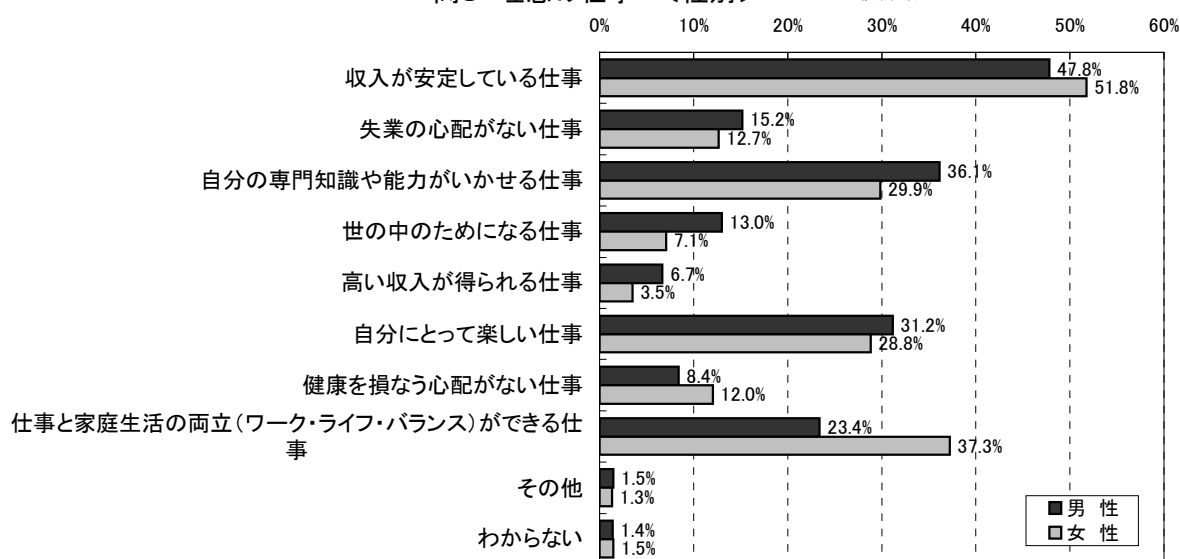
「ワーク・ライフ・バランス」は、女性の指向が強い。

《年代別》

30歳未満の若年層で「自分にとって楽しい仕事」が高くなっている。また「ワーク・ライフ・バランス」は30歳代が最も高く、年齢が高くなるほど選択率は低くなっていく。

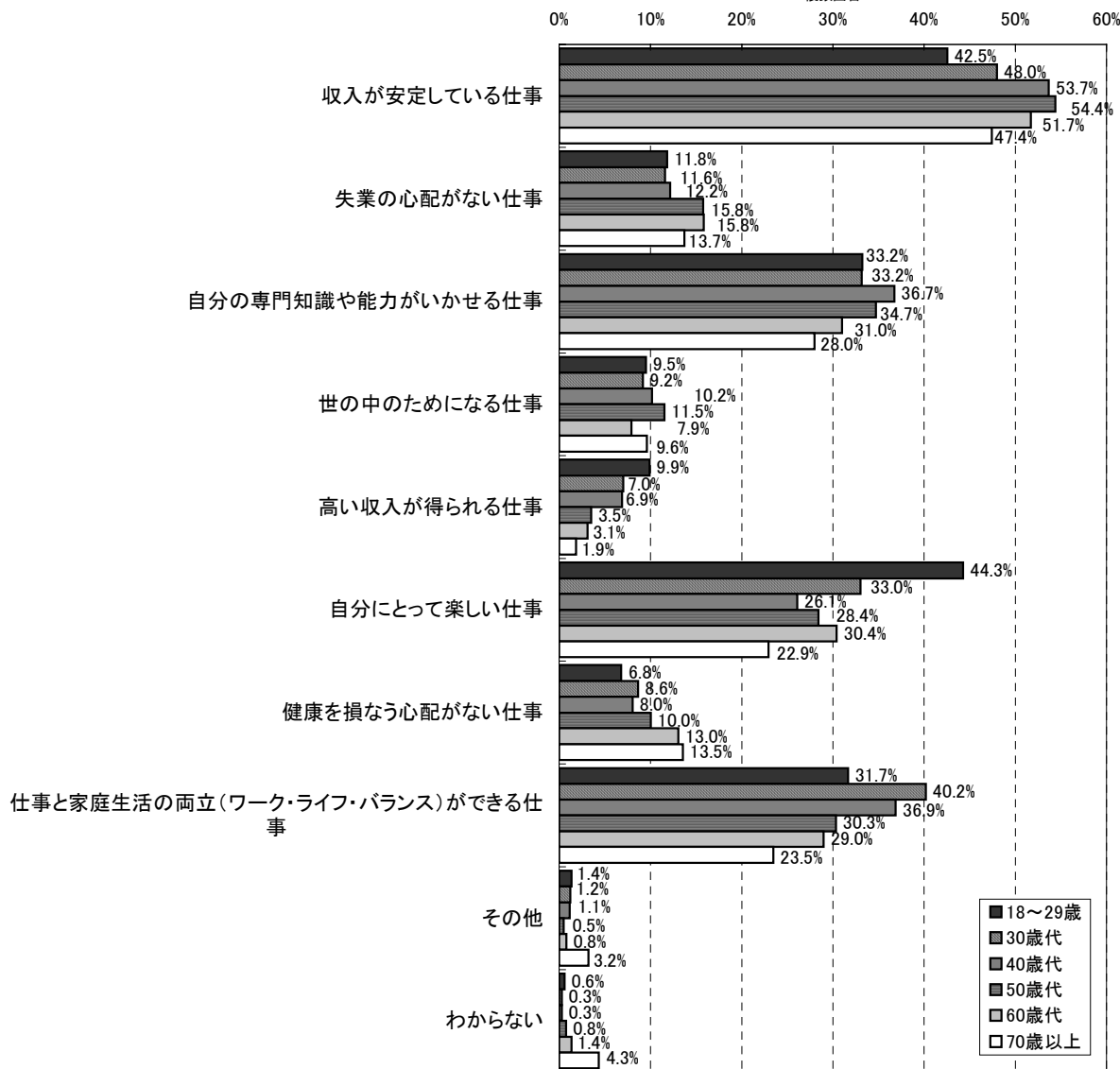
問8 理想の仕事 <性別>

<<複数回答>>



問8 理想の仕事 <年代別>

<<複数回答>>



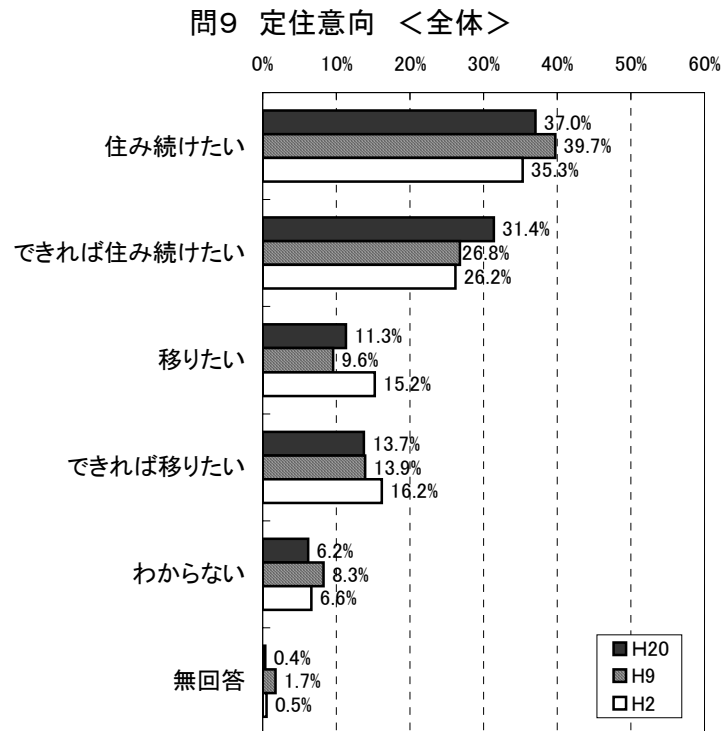
住まいについて

問9 定住意向

あなたは、今お住まいのところに将来もずっと住みたいと思われますか。次の項目の中から、あなたのお考えに近いものを1つ選び番号に○印をつけてください。

◆定住意向の合計は 68%

母数=4,828



《全体的傾向及び他調査との比較》

「住みたい」（37%）、「できれば住みたい」（31%）を加えると、68%が＜定住意向＞を持っている。

＜定住意向＞は前々回よりは7ポイント高くなっており、更に前回調査よりも2ポイント増加となっている。

《性別》

男女別ではあまり違いはない。

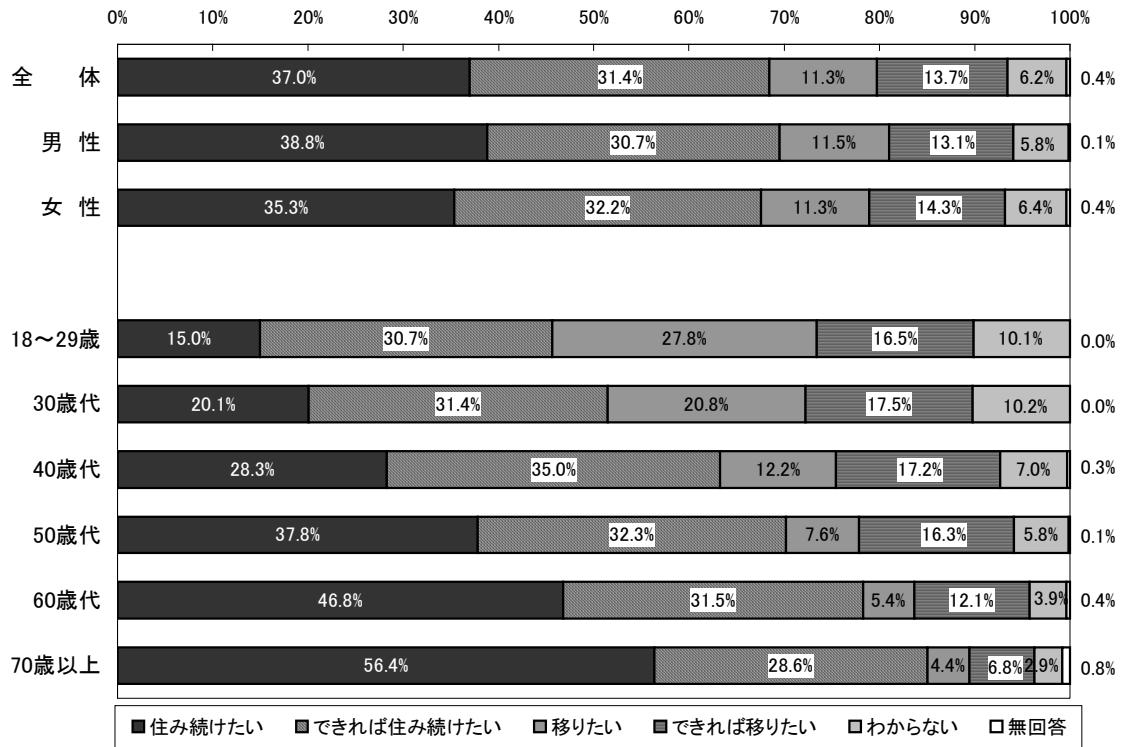
《年代別》

年齢とおおむね直線的に比例して「住みたい」の比率が高まり、「移りたい」は減少している。

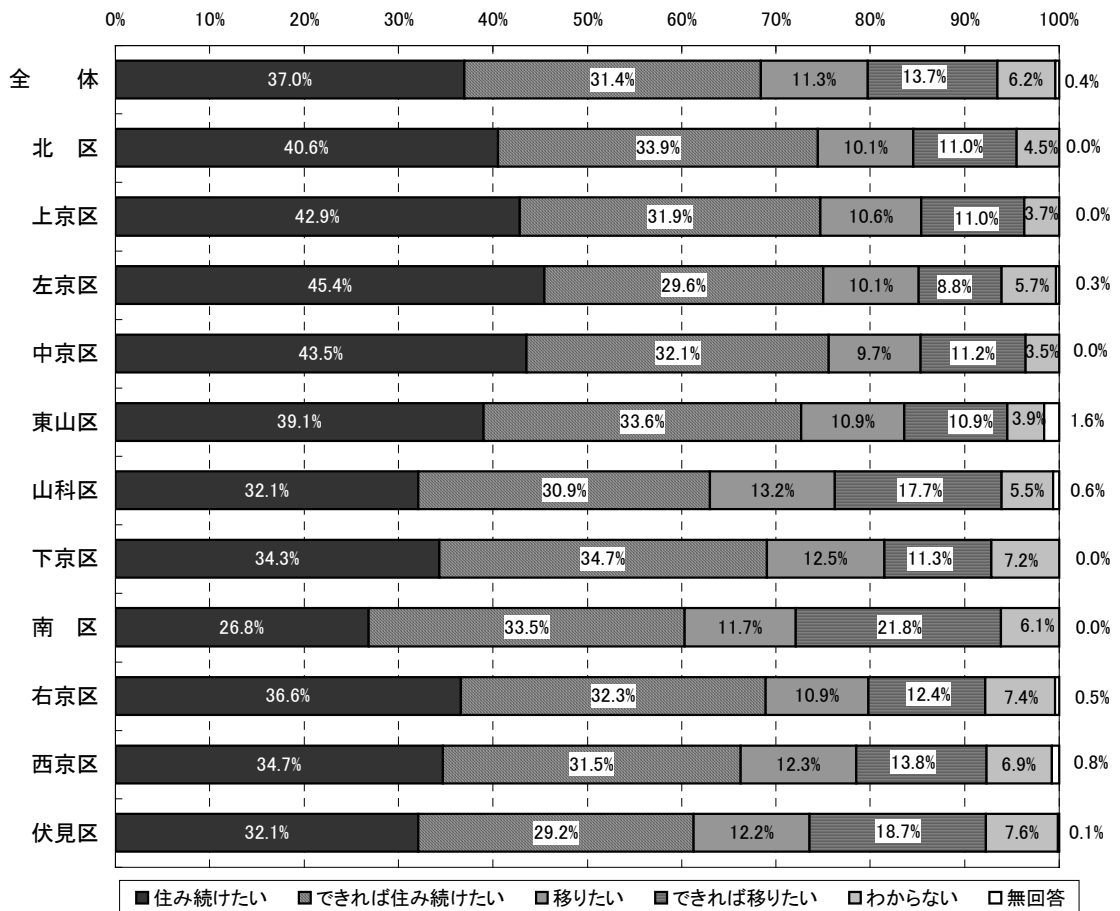
《行政区別》

行政区別には、北区、上京区、左京区、中京区、東山区で＜定住意向＞が全体（68%）を超えている。

問9 定住意向 <性別・年代別>



問9 定住意向 <行政区別>

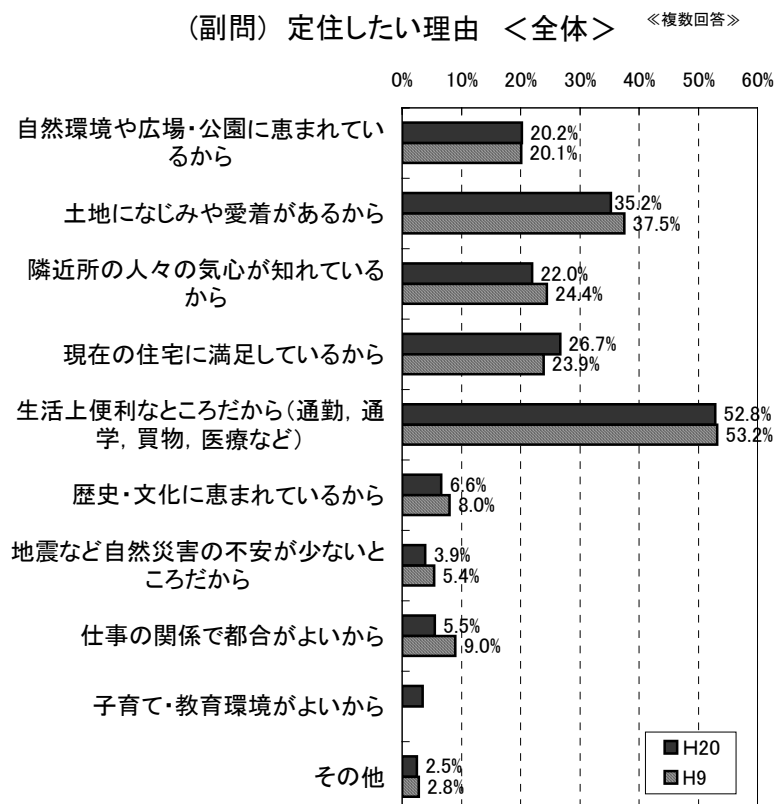


(副問) 定住したい理由

問9で「1 住み続けたい」又は「2 できれば住み続けたい」と答えられた方のみにおたずねします。それは、どのような理由からですか。次の項目の中から、当てはまるものを2つ以内で選び番号に○印をつけてください。

◆定住理由は「生活上便利なところ」(53%)、「土地へのなじみ・愛着」(35%)、「現在の住宅に満足」(27%)が上位

母数=3,303



注) 棒及び数値のない項目は、当該調査で選択肢が設けられていない。

《全体的傾向及び他調査との比較》

定住理由としては、「生活上便利なところ」(53%)や「土地へのなじみ・愛着」(35%)、「現在の住宅に満足」(27%)が上位3位であり、前回調査とはほとんど同じ結果となっている。なお、わずかながら住宅の満足度が向上している。

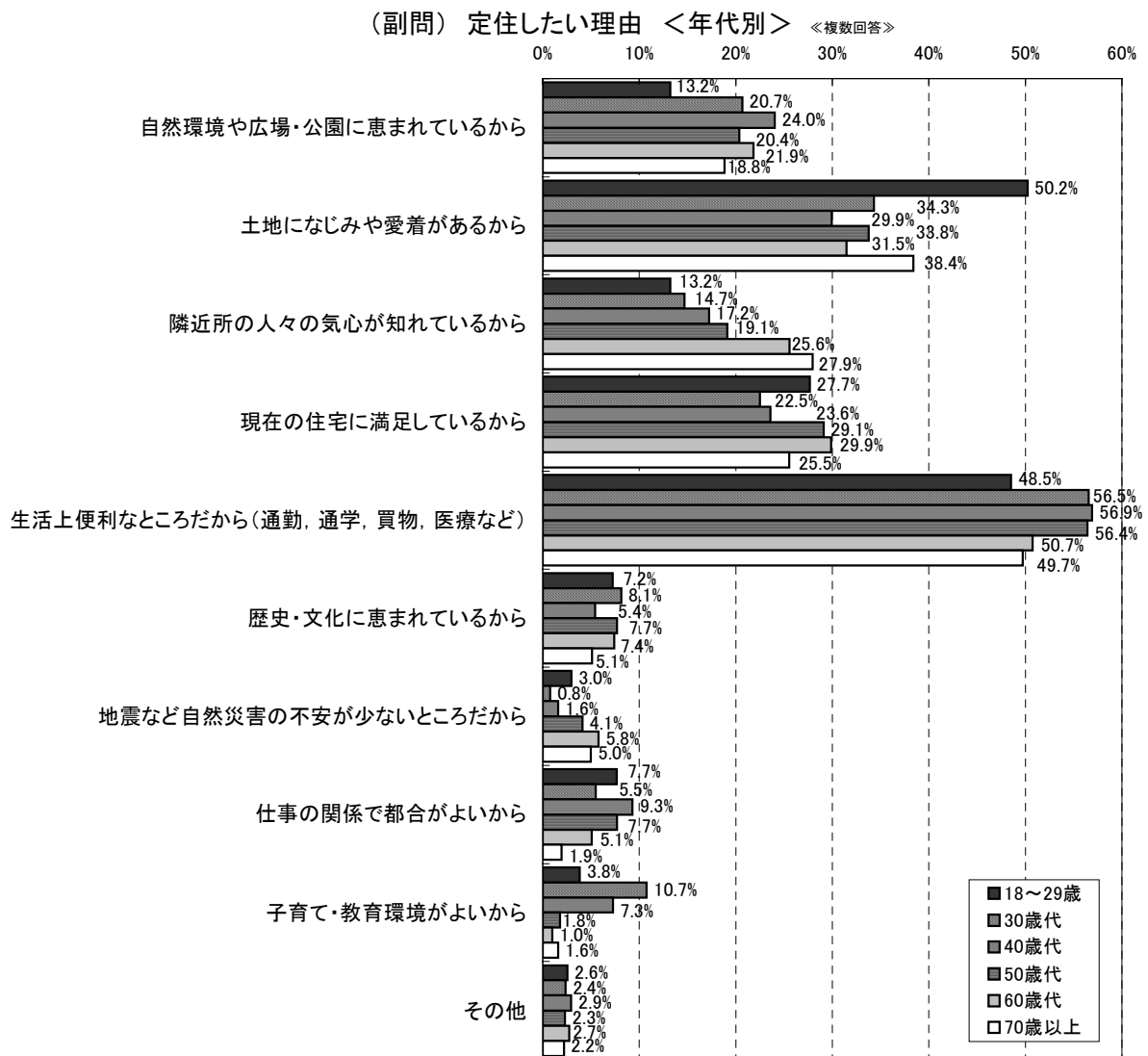
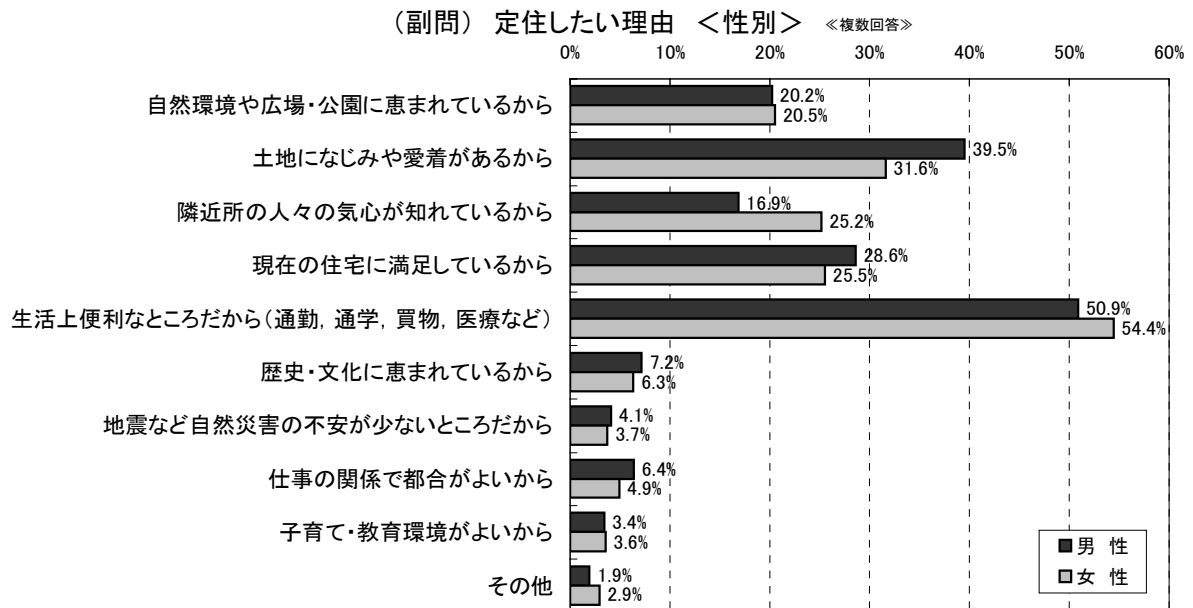
《性別》

男女とも上位3位の選択順位は同じであるが、第4位は、男性では「自然や環境や広場・公園に恵まれている」が、女性では「隣近所の気心が知れている」が選択されている。

《年代別》

「生活上便利」は、30～50歳代で更に高くなっている。また、30歳未満層で「土地になじみや愛着がある」が高くなっているのは特徴的である。

「隣近所の気心」は年齢が上昇するのに比例して高まっている。



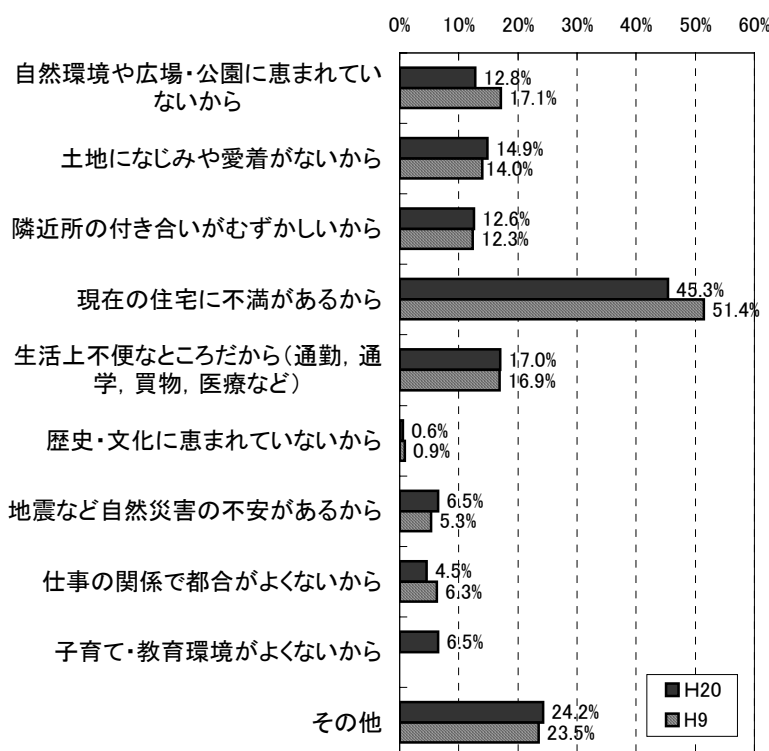
（副問）移転したい理由

問9で「3 移りたい」又は「4 できれば移りたい」と答えられた方のみにおたずねします。それは、どのような理由からですか。次の項目の中から、当てはまるものを2つ以内で選び番号に○印をつけてください。

◆移転したい理由は「住宅への不満」（45%）が中心

母数=1,209

（副問）移転したい理由 <全体> <<複数回答>>



注）棒及び数値のない項目は、当該調査で選択肢が設けられていない。

《全体的傾向及び他調査との比較》

移転したい理由の1位は「現在の住宅への不満」（45%）であるが、前回調査と比べると、やや減少している。また、「自然環境や広場・公園に恵まれていない」もやや減少している。

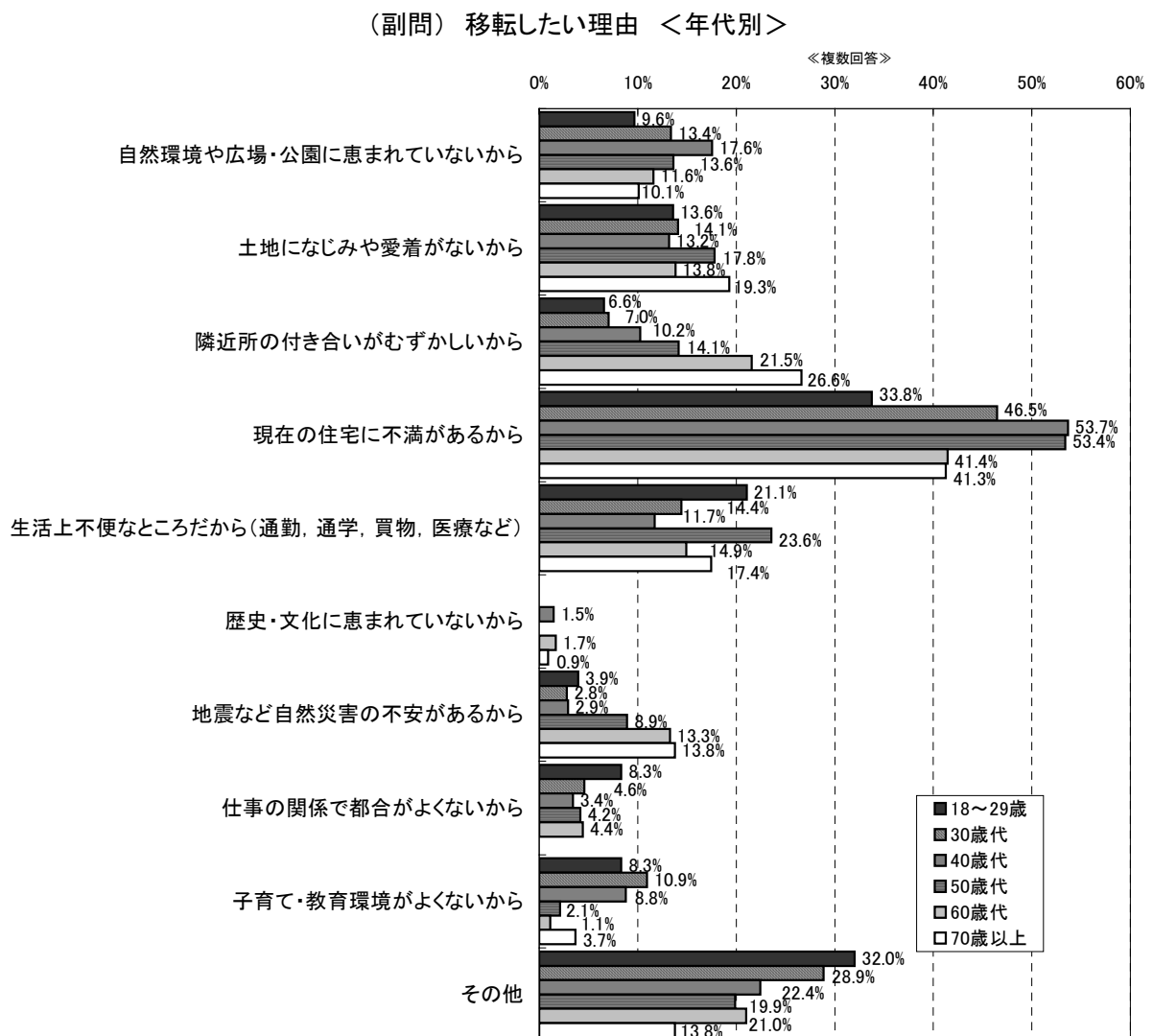
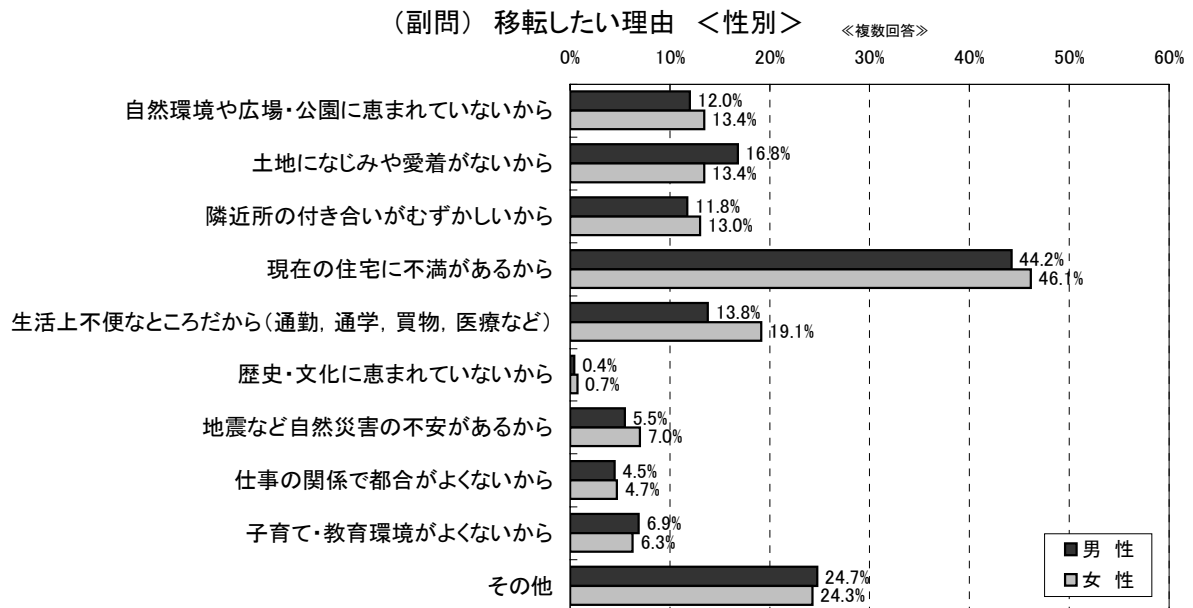
《性別》

性別にはあまり違いはないが、女性では「生活上不便」が男性よりやや高くなっている。

《年代別》

「住宅への不満」は40歳代、50歳代で最も高くなっている。

また、「隣近所の付き合いが難しい」は、前副問の定住理由と同じく年齢が上昇するのに比例して高まっている。

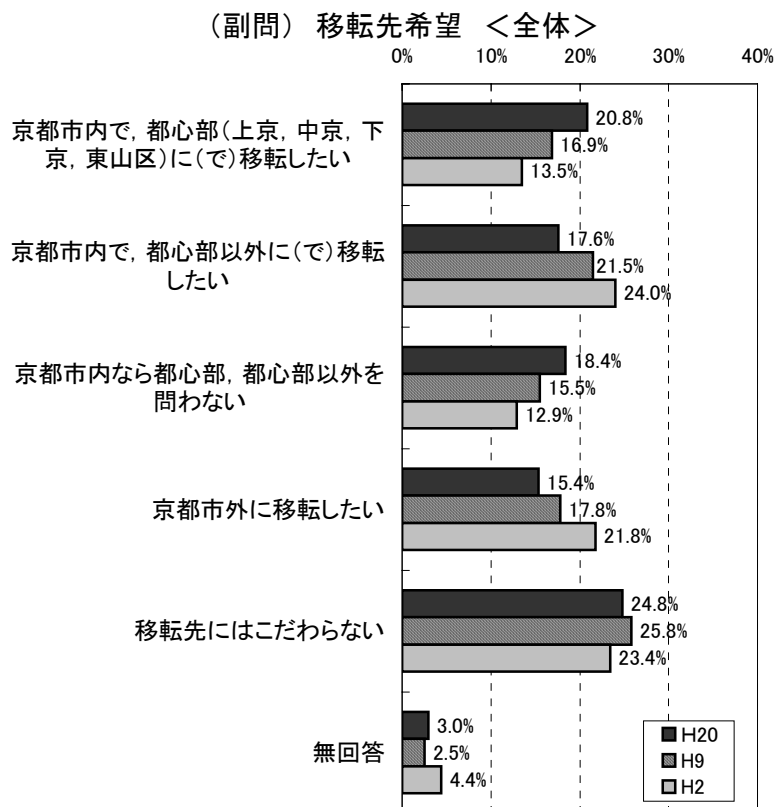


(副問) 移転先希望

問9で「3 移りたい」又は「4 できれば移りたい」と答えられた方のみにおたずねします。移転先をどのようにお考えですか。次の項目の中から、あなたのお考えに近いものを1つ選び番号に○印をつけてください。

◆移転先としては、市内指向が合計 57%

母数=1,209



《全体的傾向及び他調査との比較》

移転先の希望としては、「こだわらない」が最も多く 25%を占める。ついで、「市内都心部」21%、「市内なら都心部, 都心部以外を問わない」18%、「市内都心部以外」18%で、<市内指向>を合計すると 57%である。一方、「市外」は 15%にとどまっている。

前々回, 前回調査と比較すると, 特に「市内都心部」や「市内なら都心部, 都心部以外を問わない」が徐々に増加している。

《性別》

女性の方が, 市内指向がわずかに高い。

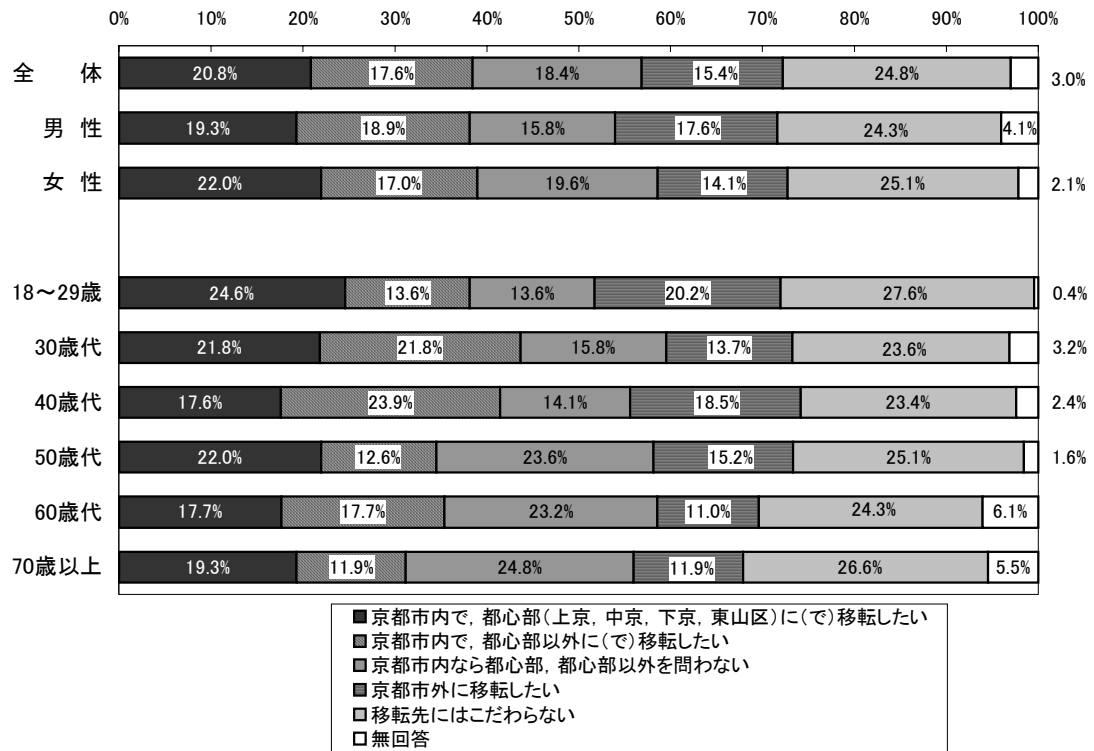
《年代別》

30~40 歳代は市内の都心部以外への指向がやや高い。

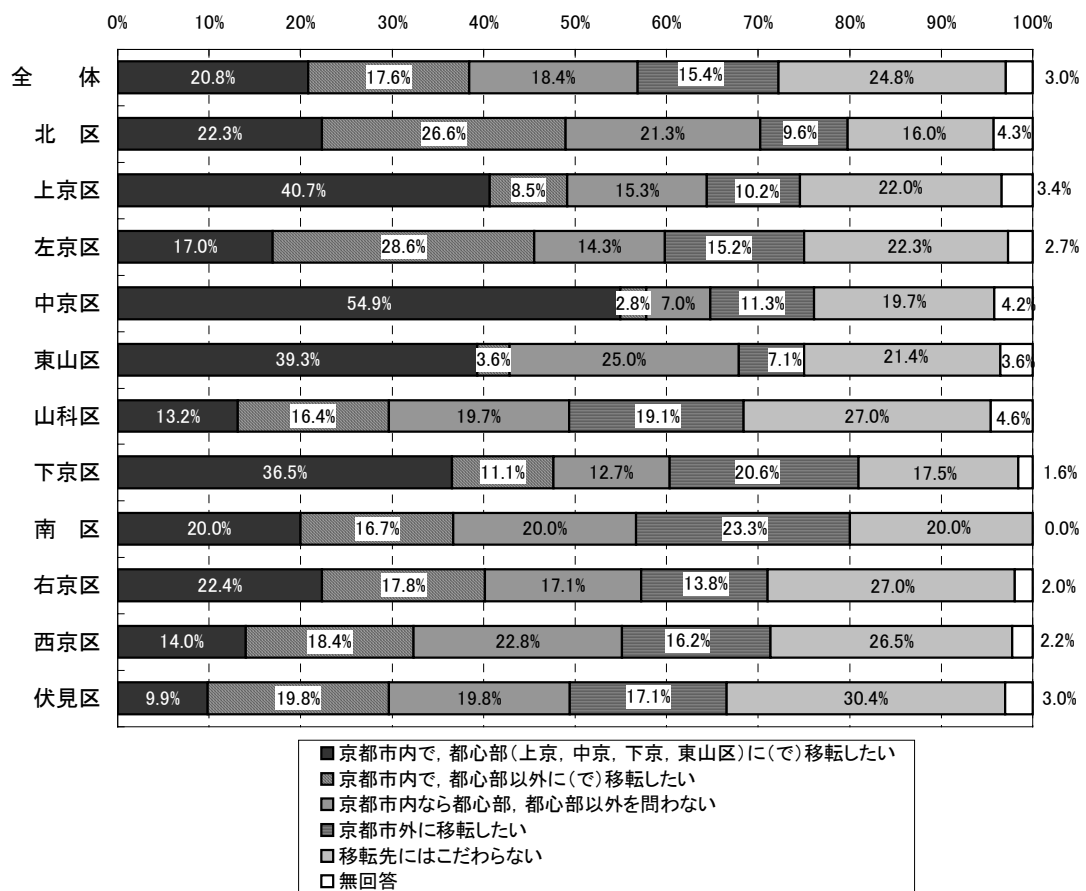
《行政区別》

都心区(上京, 中京, 下京, 東山)では都心部指向が高く, 北区や左京区では郊外部指向がやや高い。そのほかの区では特に移転先の指向は高くない。

(副問) 移転先希望 <性別・年代別>



(副問) 移転先希望 <行政区別>



身近な生活環境について

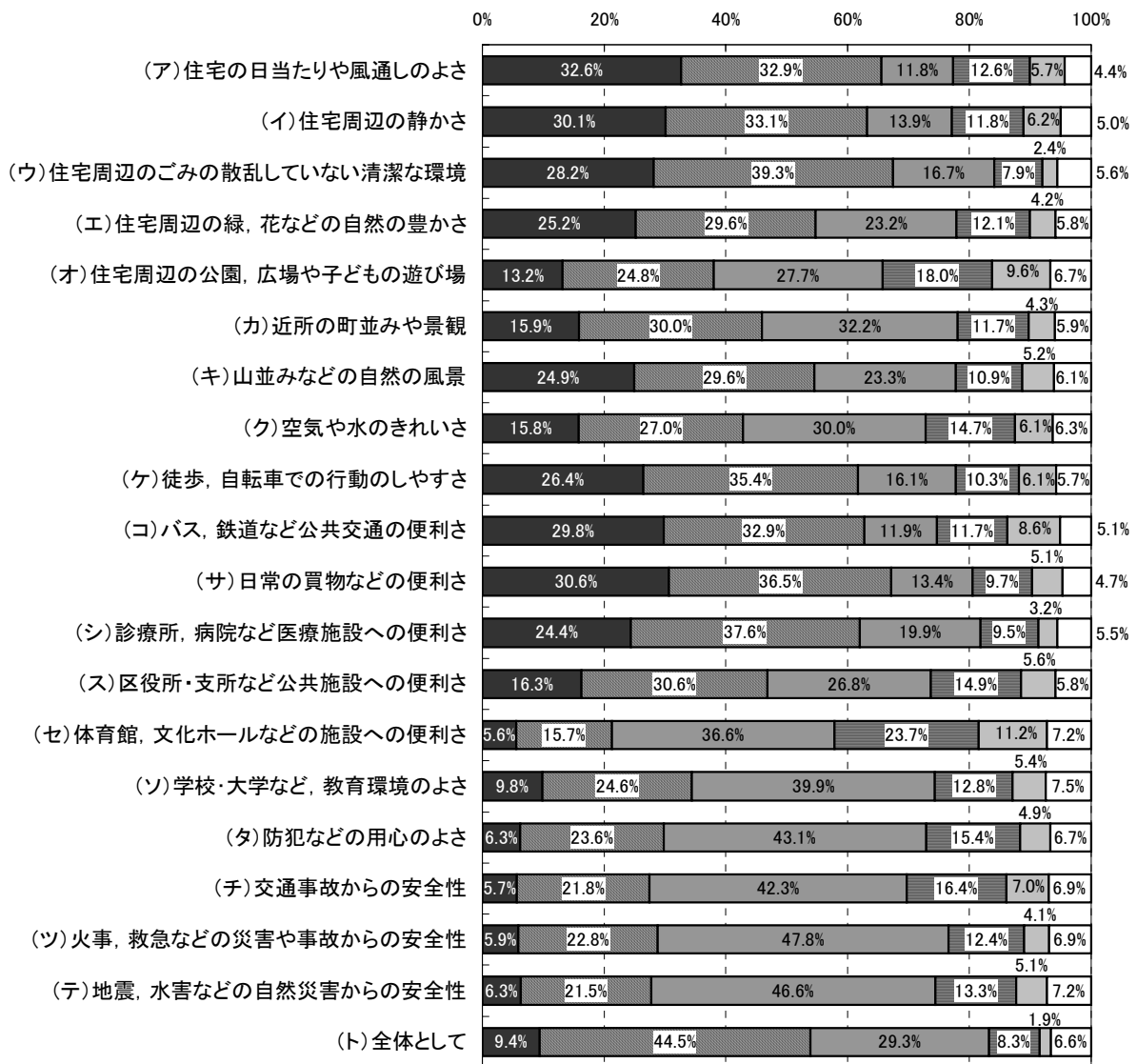
問 10 居住環境評価（快適性，利便性，安全性）

あなたの毎日の生活から見て，次の（ア）～（ト）の各項目について，どのように思いますか。それぞれ当てはまるものを1つ選び番号に○印をつけてください。

◆全体として，市民の54%は居住環境に満足している

母数＝4,828

問10 居住環境評価（快適性，利便性，安全性）＜全体＞



■満足 ■やや満足 ■どちらともいえない ■やや不満 □不満 □無回答

《全体的傾向及び他調査との比較》

居住環境の総合評価である「(ト) 全体として」では、居住環境への＜満足度＞（満足＋やや満足）は 54%となっている。この値は、前々回が 56%，前回は 50%であり、あまり違いはない。

個々の項目について、前回調査よりも 4 ポイント以上満足度が上昇したのは次のような項目であり、快適性についてはおおむね評価が上昇している。

＜快適性（ア～ク） ＝ 8 項目中 6 項目＞

（イ）住宅周辺の静かさ	+4.9 ポイント
（ウ）住宅周辺のごみの散乱していない清潔な環境	+10.5 ポイント
（エ）住宅周辺の緑、花などの自然の豊かさ	+4.9 ポイント
（オ）住宅周辺の公園、広場や子どもの遊び場	+4.4 ポイント
（カ）近所の町並みや景観	+6.3 ポイント
（ク）空気や水のきれいさ	+9.1 ポイント

＜利便性（ケ～ソ） ＝ 7 項目中 1 項目＞

（コ）バス、鉄道など公共交通の便利さ	+4.6 ポイント
--------------------	-----------

＜安全性（タ～テ） ＝ 4 項目中 1 項目＞

（ツ）火事、救急などの災害や事故からの安全性	+4.1 ポイント
------------------------	-----------

一方、＜満足度＞が 4 ポイント以上低下した項目はないが、次の 2 項目でわずかに低下している。

（ス）区役所・支所など公共施設への便利さ	-3.6 ポイント
（タ）防犯などの用心のよさ	-1.6 ポイント

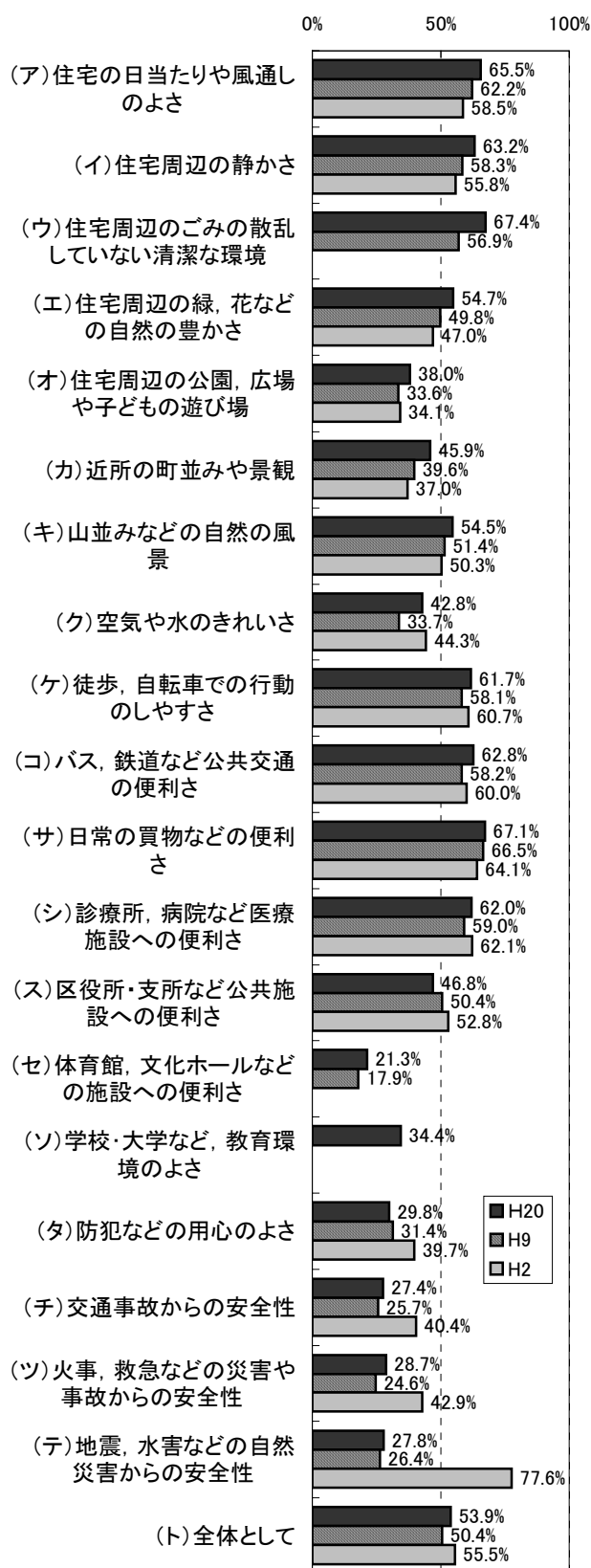
また、＜不満度＞（不満＋やや不満）は、いずれの項目も徐々に低下しており居住環境の改善が進んでいるとの評価と見ることができる。

《行政区別》

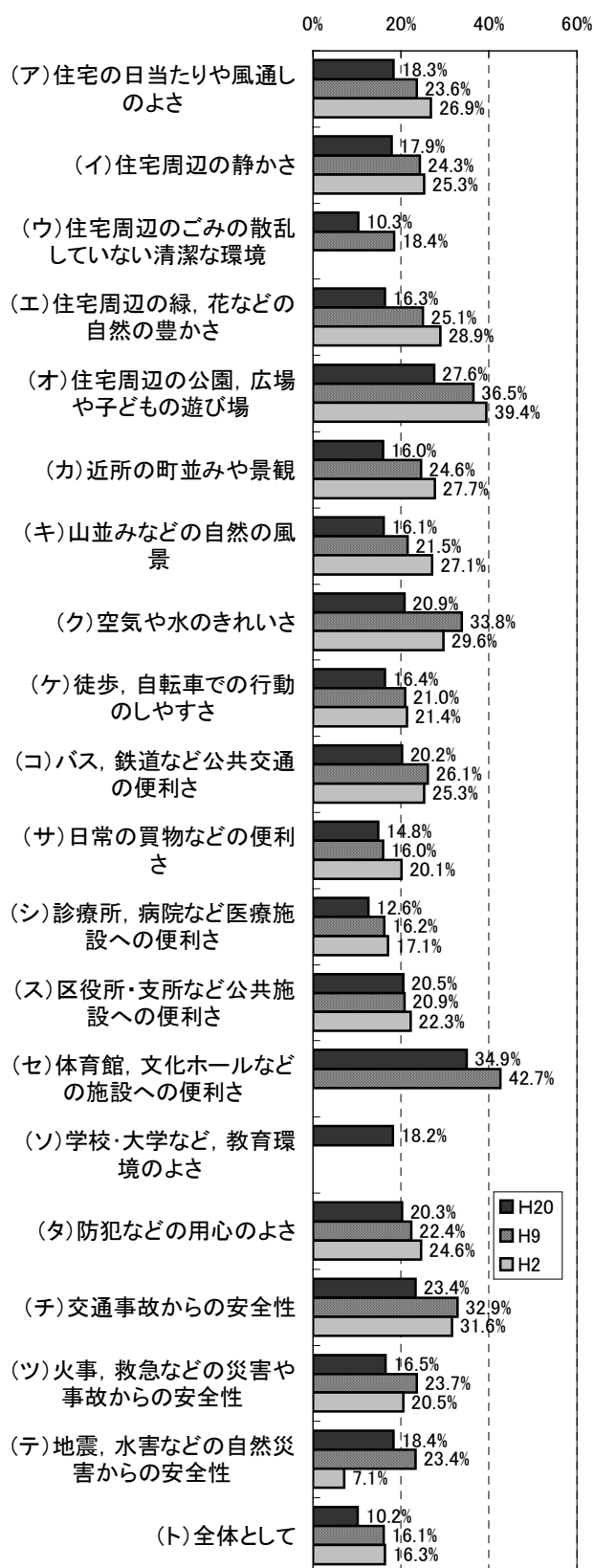
行政区別の上位 5 項目について見ると、上京区、中京区、下京区では「日常の買物などの便利さ」，「バス、鉄道など公共交通の便利さ」が 7～8 割前後の高い割合となっている一方、北区、左京区、西京区では、全体では上位に表れなかった「山並などの自然の風景」，「住宅周辺の緑、花などの自然の豊かさ」といった自然環境に関する項目について 7 割を超える割合となっており、満足度が高い結果となっている。

逆に、上京区、下京区において「山並などの自然の風景」，東山区において「住宅周辺の静かさ」に対する不満度が高くなっている。

問10 居住環境評価 満足度
(満足+やや満足) <全体>



問10 居住環境評価 不満度
(やや不満+不満) <全体>



注) 棒及び数値のない項目は、当該調査で選択肢が設けられていない。

問 10 居住環境評価（「満足度・不満度」上位 5 位） ＜行政区別＞

満足度（満足＋やや満足）

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
全 体	清潔な環境 67.4	日常の買物 67.1	日当たりや風とおし 65.5	静かさ 63.2	公共交通 62.8
北 区	清潔な環境 74.4	静かさ 72.4	自然の風景 71.3	日常の買物 67.0	公園、広場 66.8
上京区	日常の買物 80.6	医療施設 78.8	公共交通 75.8	徒歩・自転車 74.4	清潔な環境 73.3
左京区	自然の風景 84.1	自然の豊かさ 78.5	清潔な環境 74.3	静かさ 73.1	日当たりや風とおし 70.4
中京区	公共交通 88.5	日常の買物 82.9	医療施設 81.2	徒歩・自転車 77.1	清潔な環境 70.3
東山区	公共交通 68.8	医療施設 68.0	自然の風景 60.2	公共施設 58.6	清潔な環境 57.0
山科区	日当たりや風とおし 65.0	清潔な環境 63.8	静かさ 62.8	日常の買物 60.2	自然の風景 59.3
下京区	公共交通 81.9	日常の買物 78.1	医療施設 72.5	徒歩・自転車 71.7	清潔な環境 62.6
南 区	日当たりや風とおし 58.1	清潔な環境 53.1	静かさ 50.3	自然の豊かさ 35.2	公園、広場 31.3
右京区	日常の買物 74.4	清潔な環境 70.1	日当たりや風とおし 68.0	静かさ／公共交通 64.8	
西京区	日当たりや風とおし／静かさ 72.7		清潔な環境 71.6	自然の豊かさ 70.6	自然の風景 68.9
伏見区	日当たりや風とおし 65.9	日常の買物 63.8	清潔な環境 60.4	静かさ 60.2	医療施設 59.2

不満度（不満＋やや不満）

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
全 体	体育館、文化ホール 34.9	公園、広場 27.6	交通事故 23.4	空気や水 20.9	公共施設 20.5
北 区	体育館、文化ホール 36.8	公共施設 22.9	公共交通 21.3	公園、広場 20.9	日当たりや風とおし 20.2
上京区	自然の風景 27.8	体育館、文化ホール 24.9	空気や水 23.8	自然の豊かさ／公園、広場 21.6	
左京区	体育館、文化ホール 31.6	公共施設 21.5	公共交通 19.3	自然災害 17.2	日当たりや風とおし 17.1
中京区	公園、広場 38.2	空気や水 37.4	自然の風景 35.3	自然の豊かさ 34.4	交通事故 26.8
東山区	公園、広場 29.7	静かさ 27.3	体育館、文化ホール 26.6	交通事故 22.7	空気や水 21.9
山科区	体育館、文化ホール 35.8	公園、広場 32.9	公共交通 28.9	教育環境 28.5	交通事故 27.0
下京区	空気や水 41.5	自然の風景 40.0	公園、広場 34.3	体育館、文化ホール 31.7	自然の豊かさ 31.3
南 区	体育館、文化ホール 48.0	空気や水 43.6	公園、広場／教育環境 38.0		自然の風景 35.8
右京区	公園、広場 34.2	体育館、文化ホール 33.5	公共施設 25.4	交通事故 24.3	空気や水 21.4
西京区	体育館、文化ホール 35.7	公共交通 28.6	交通事故 20.9	防犯 20.7	徒歩・自転車 20.5
伏見区	体育館、文化ホール 44.2	公園、広場 29.9	交通事故 29.1	防犯 28.6	教育環境 28.1

（表内数値は％）

日当たりや風とおし	: 住宅の日当たりや風通しのよさ	日常の買物	: 日常の買物などの便利さ
静かさ	: 住宅周辺の静かさ	医療施設	: 診療所、病院など医療施設への便利さ
清潔な環境	: 住宅周辺のごみの散乱していない清潔な環境	公共施設	: 区役所・支所など公共施設への便利さ
自然の豊かさ	: 住宅周辺の緑、花などの自然の豊かさ	体育館、文化ホール	: 体育館、文化ホールなどの施設への便利さ
公園、広場	: 住宅周辺の公園、広場や子どもの遊び場	教育環境	: 学校・大学など、教育環境のよさ
町並みや景観	: 近所の町並みや景観	防犯	: 防犯などの用心のよさ
自然の風景	: 山並みなどの自然の風景	交通事故	: 交通事故からの安全性
空気や水	: 空気や水のきれいさ	火事、救急	: 火事、救急などの災害や事故からの安全性
徒歩・自転車	: 徒歩、自転車での行動のしやすさ	自然災害	: 地震、水害などの自然災害からの安全性
公共交通	: バス、鉄道など公共交通の便利さ		

地域での暮らしや活動について

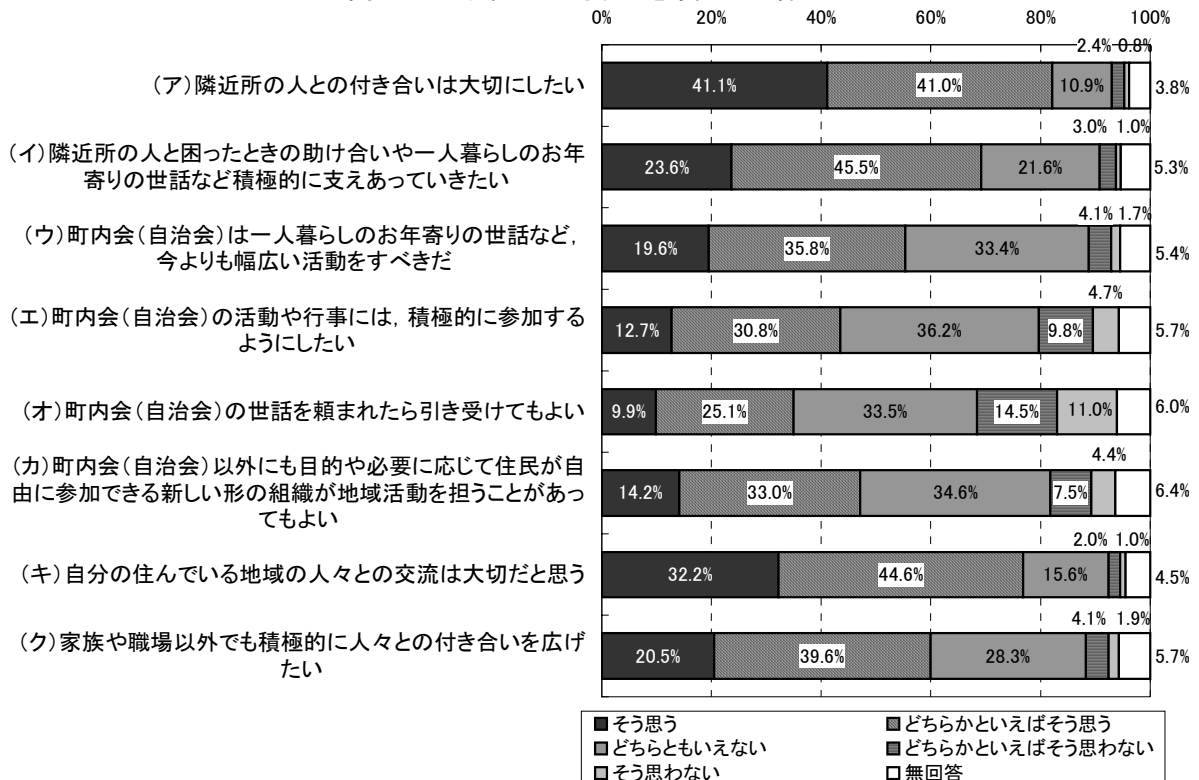
問 11 地域社会に対する態度

あなたは次の（ア）～（ク）の意見について、どのように思いますか。それぞれ当てはまるものを1つ選び番号に○印をつけてください。

◆「隣近所との付き合い」を大切にしたい人が82%

母数=4,828

問11 地域社会に対する態度 <全体>



《全体的傾向及び他調査との比較》

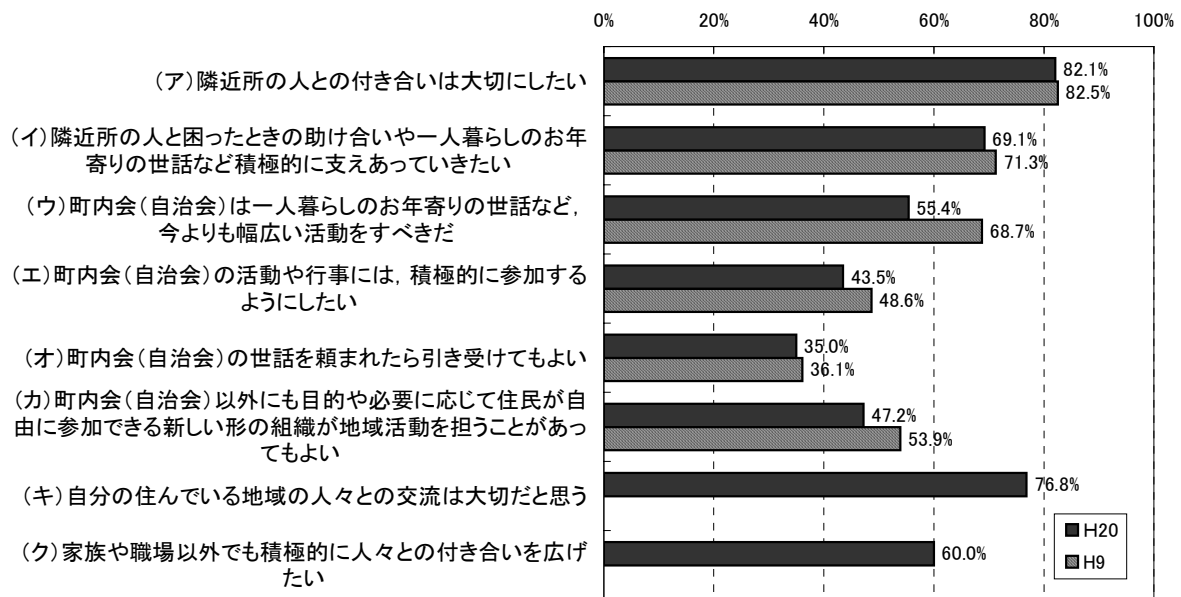
「（ア）隣近所の人との付き合いは大切にしたい」や「（キ）自分の住んでいる地域の人々との交流は大切だと思う」といった地域社会とのつながりについては、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計がそれぞれ82%、77%と高くなっている。

また、「（イ）隣近所の人と困ったときの助け合いや一人暮らしのお年寄りの世話など積極的に支えあっていきたい」も69%と肯定的であり、近隣での支え合いには積極的といえる。

一方、「（オ）町内会（自治会）の世話を頼まれたら引き受けてもよい」「（エ）町内会（自治会）の活動や行事には、積極的に参加するようにしたい」はそれぞれ35%、44%とやや低い。

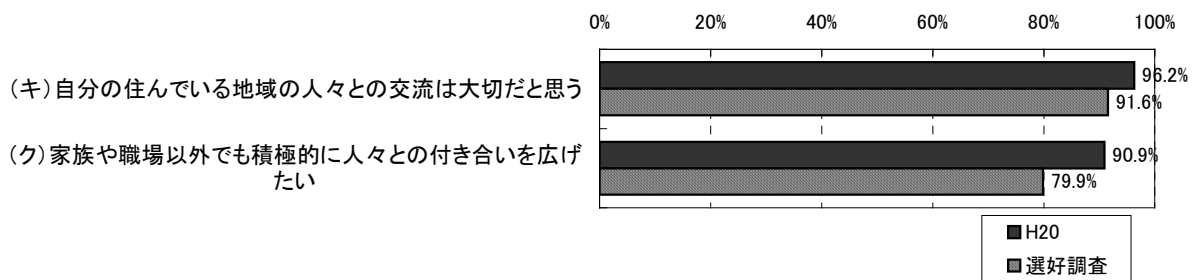
前回調査との比較では、「（ウ）町内会（自治会）は一人暮らしのお年寄りの世話など、今よりも幅広い活動をすべきだ」が13ポイント低下、「（エ）町内会（自治会）の活動や行事には、積極的に参加するようにしたい」が5ポイント低下となっている。

問11 地域社会に対する態度(そう思う+どちらかといえばそう思う) <全体>



注) 棒及び数値のない項目は、当該調査で選択肢が設けられていない。

問11 地域社会に対する態度(肯定の比率) <全体>



注) 選好調査においては、(キ)と(ク)の間があるが、選択肢に「どちらともいえない」がないことから、今回調査と直接比較できない。そのため、上図は、今回調査から「どちらともいえない」を除き、かつ、両調査から無回答を除いて、肯定と否定のみで集計したものである。

《選好調査との比較》

選好調査との比較では、「(キ) 地域の人々との交流」、「(ク) 家族や職場外のつきあい」のいずれも今回調査の方が肯定の比率がやや高くなっている。

《性別》

男女ともあまり違いはない。

《年代別》

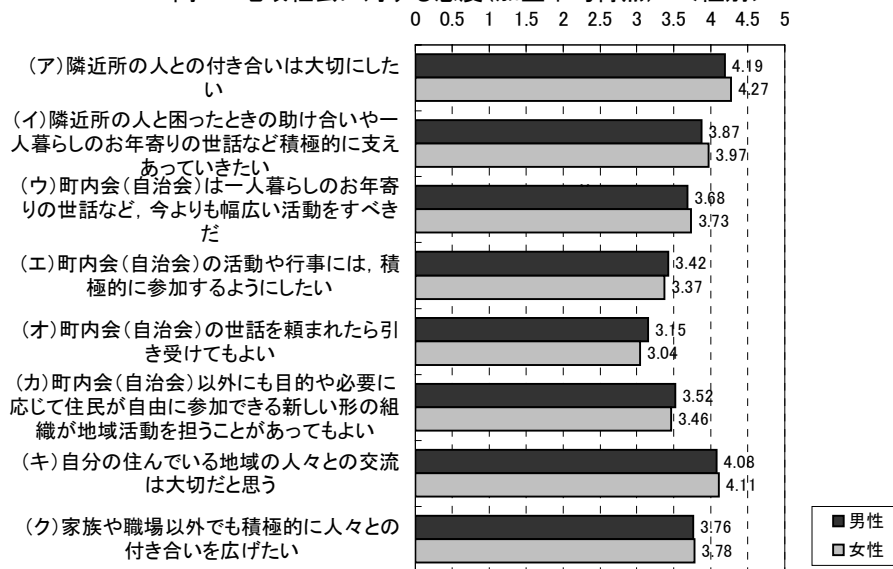
年代別では、各項目とも年齢がおおむね若くなるほど「そう思わない」とする層が多く、逆に年齢が高くなるほど「そう思う」層が多くなっている。

《行政区別》

行政区別には、ほぼ同じ傾向であり、あまり違いはない。

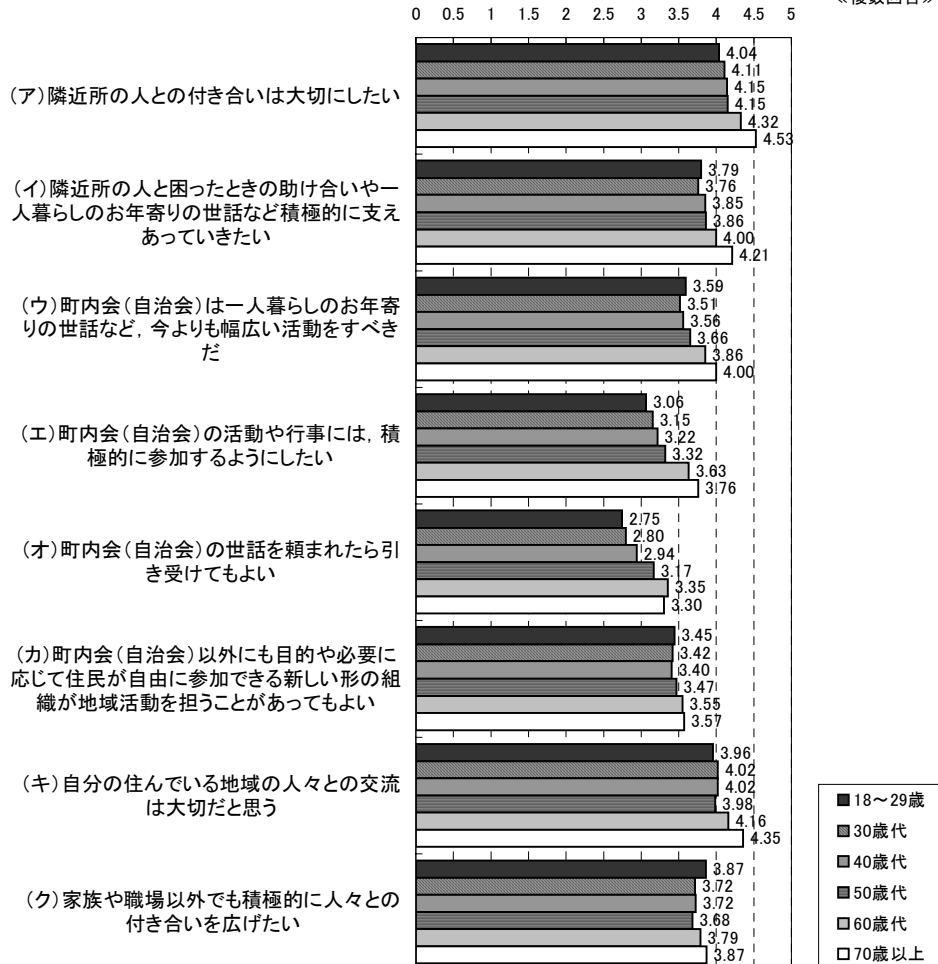
問11 地域社会に対する態度(加重平均得点) <性別>

《複数回答》



問11 地域社会に対する態度(加重平均得点) <年代別>

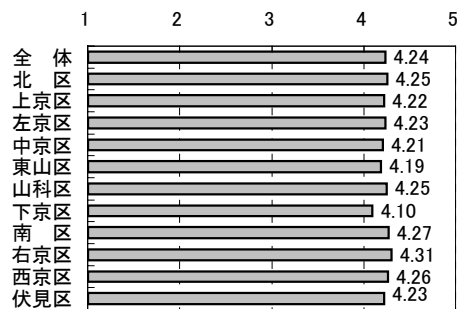
《複数回答》



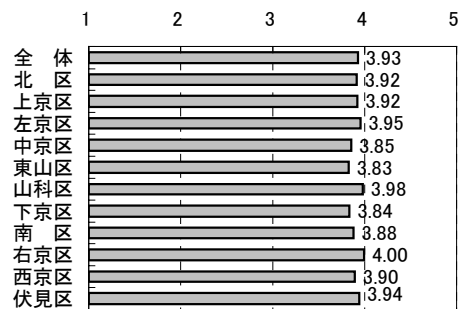
「加重平均得点」:「そう思う」5点,「どちらかといえばそう思」4点,「どちらともいえない」3点,「どちらかといえばそう思わない」2点,「そう思わない」1点として,それぞれの回答者数に点数を乗じ,その合計値を,無回答を除く総回答者数で除した値

問 11 地域社会に対する態度（加重得点平均） <行政区別>

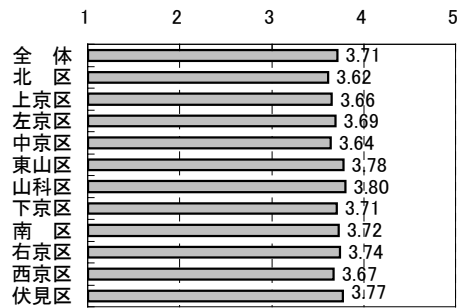
(ア) 隣近所の人との付き合いは大切
にしたい



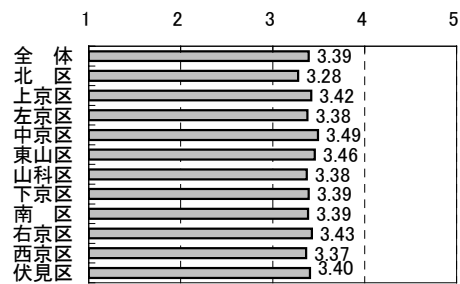
(イ) 隣近所の人と困ったときの助け
合いや一人暮らしのお年寄りの世話
など積極的に支えあっていきたい



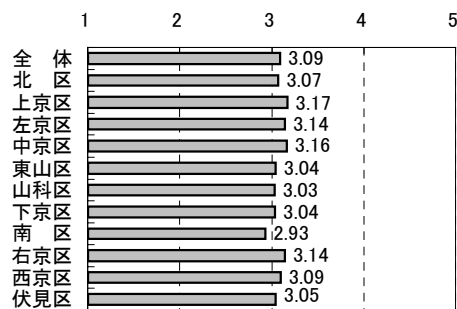
(ウ) 町内会(自治会)は一人暮らしの
お年寄りの世話など、今よりも幅広い
活動をすべきだ



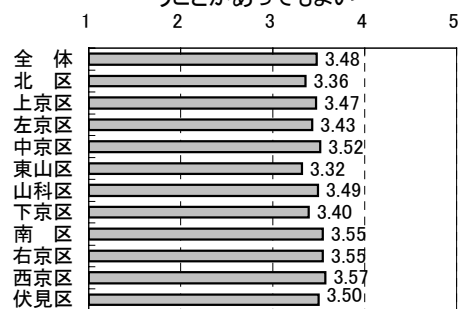
(エ) 町内会(自治会)の活動や行事
には、積極的に参加するようにした
い



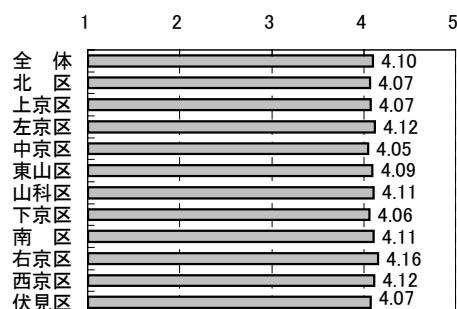
(オ) 町内会(自治会)の世話を頼ま
れたら引き受けてもよい



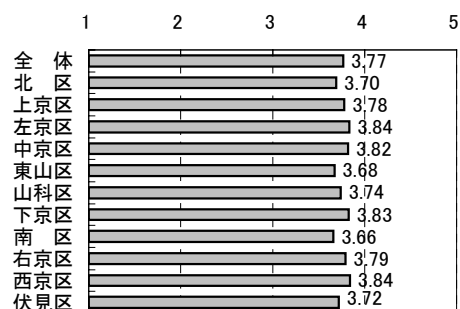
(カ) 町内会(自治会)以外にも目的
や必要に応じて住民が自由に参加で
きる新しい形の組織が地域活動を担
うことがあってもよい



(キ) 自分の住んでいる地域の人々
との交流は大切だと思う



(ク) 家族や職場以外でも積極的に
人々との付き合いを広げたい

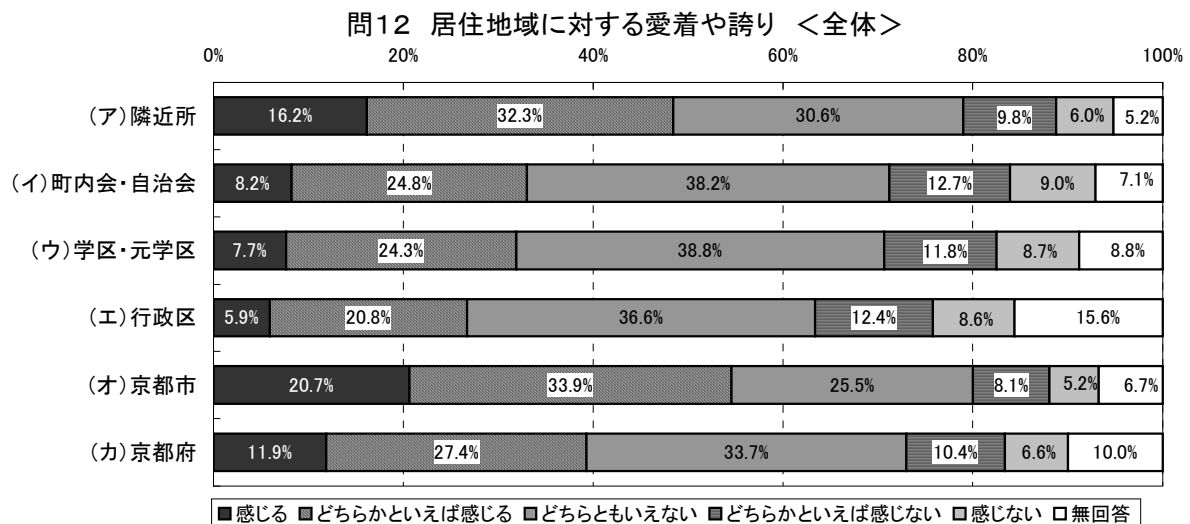


問 12 居住地域に対する愛着や誇り

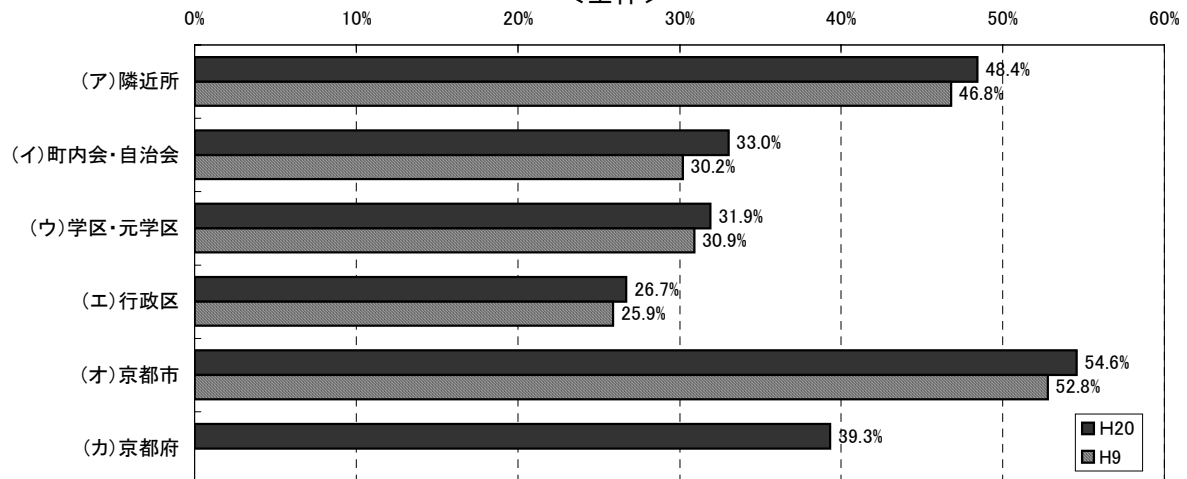
あなたは、お住まいの地域について、親しみや愛着、誇りのようなものを感じていますか。次の（ア）～（カ）の各項目について、それぞれ当てはまるものを1つ選び番号に○印をつけてください。

◆愛着や誇りを感じているのは「京都市」（55%）が最も多く、「隣近所」（49%）がこれに次ぐ

母数＝4,828



問12 居住地域に対する愛着や誇り（そう思う＋どちらかといえばそう思う） <全体>



《全体的傾向及び他調査との比較》

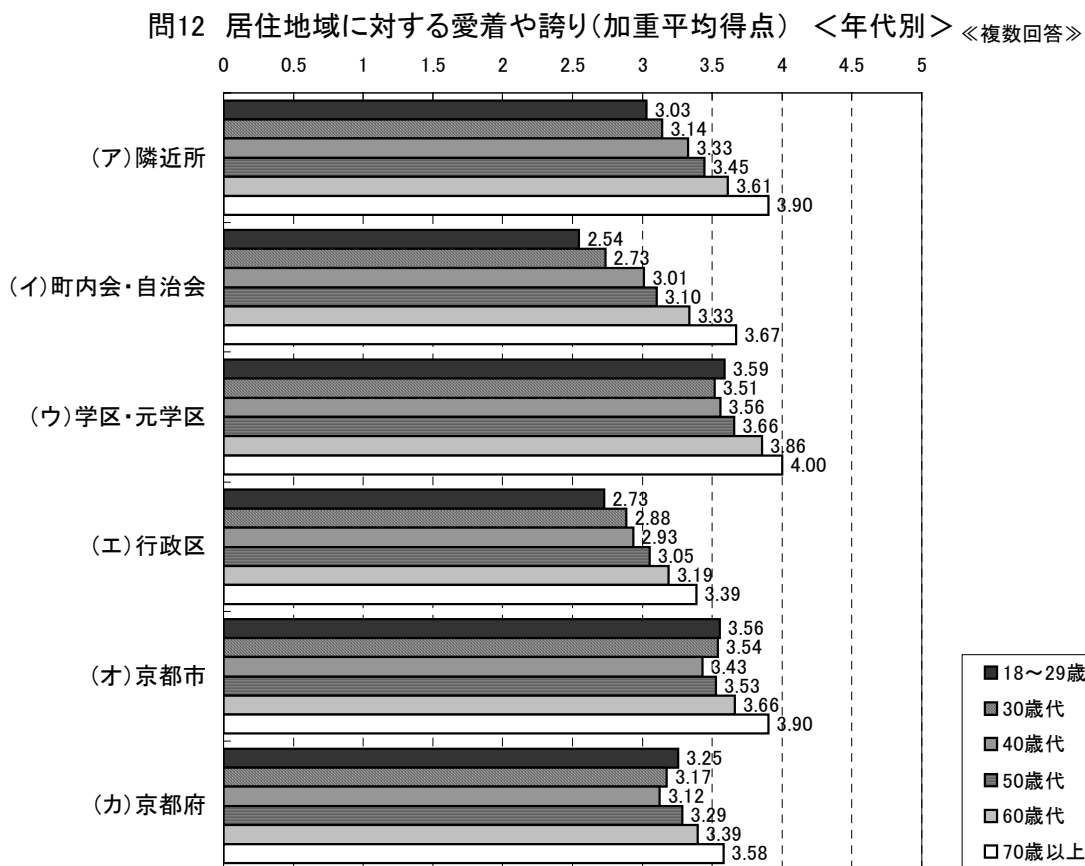
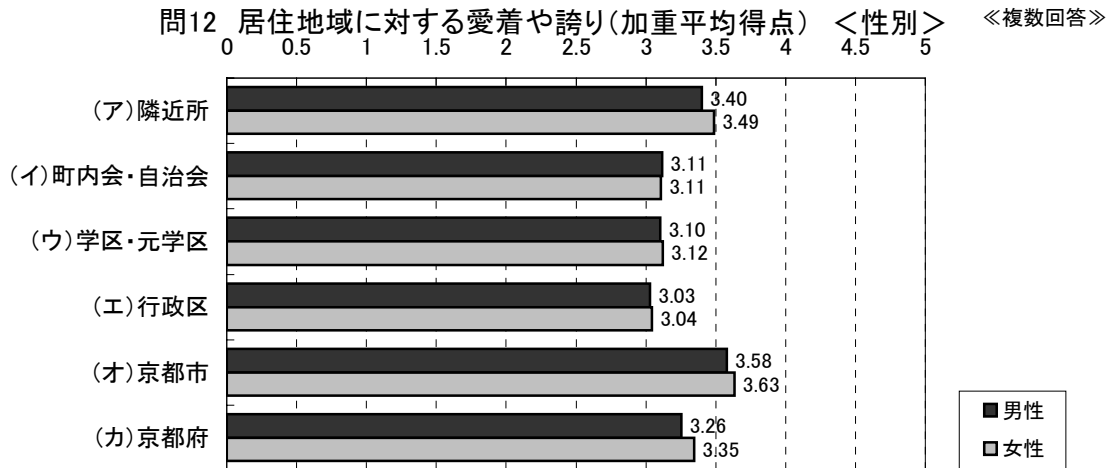
「京都市」に愛着や誇りを感じる層が半数を超えているほか、「隣近所」に愛着や誇りを感じる層も多い。前回調査と比べると、全体的に愛着や誇りを感じる層は微増している。

《性別》

男女間では、あまり違いはない。

《年代別》

年代別では、隣近所、町内会及び行政区については、年齢が高くなるにつれて愛着や誇りを感じる層が多くなっている。一方、学区・元学区、京都市及び京都府では18～29歳代の方が30歳や40歳代よりも愛着や誇りを感じる層が多くなっている。

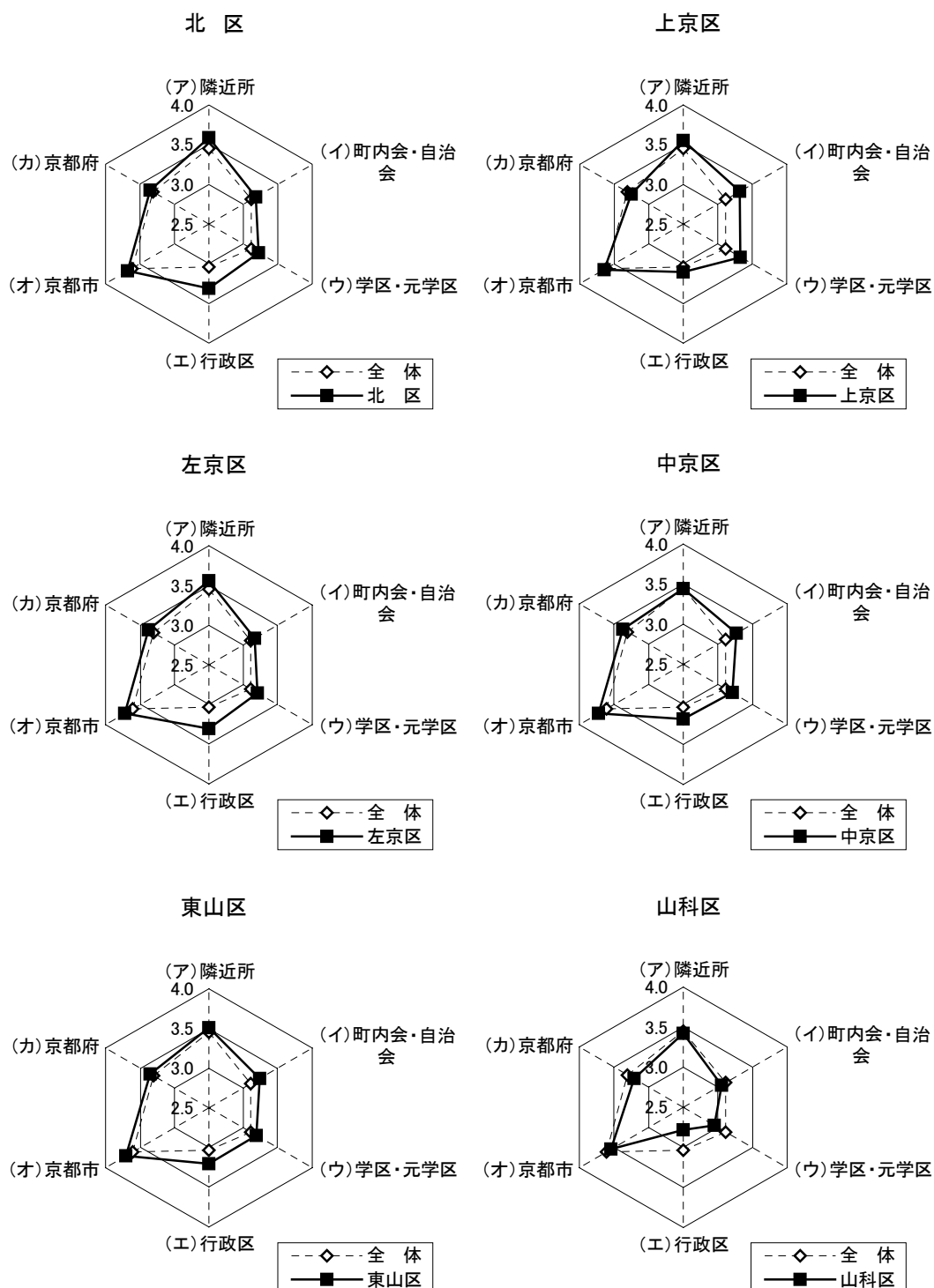


「加重平均得点」:「そう思う」5点,「どちらかといえばそう思」4点,「どちらともいえない」3点,「どちらかといえばそう思わない」2点,「そう思わない」1点として,それぞれの回答者数に点数を乗じ,その合計値を,無回答を除く総回答者数で除した値

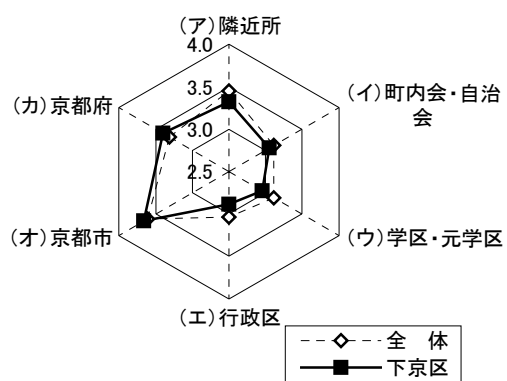
問 12 居住地域に対する愛着や誇り（加重平均得点） <行政区別>

《行政区別》

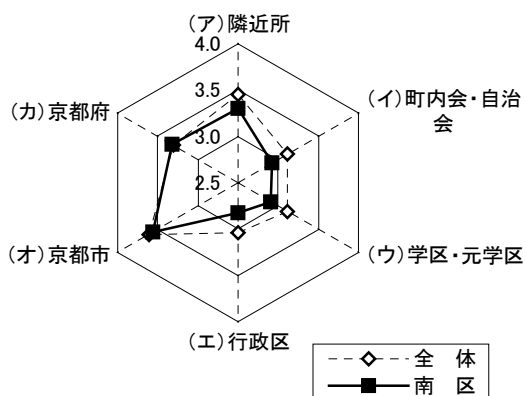
「隣近所」，「京都市」，「京都府」については，各行政区ともあまり違いはないが，「町内会・自治会」，「学区・元学区」，「行政区」については，行政区ごとにやや違いがある。



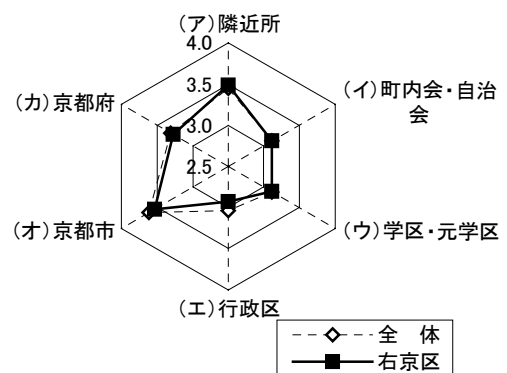
下京区



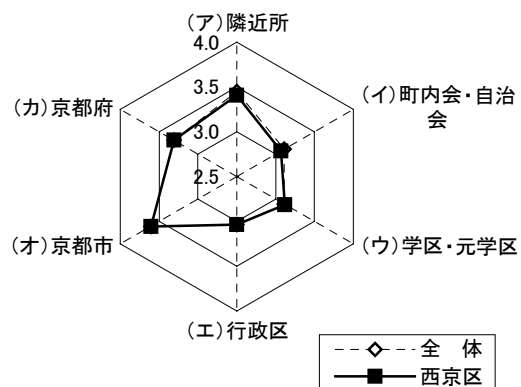
南区



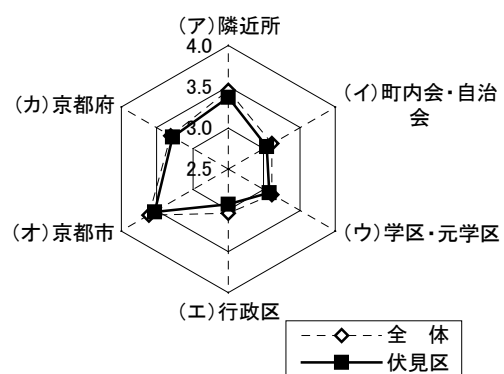
右京区



西京区



伏見区



問 13 地域活動評価

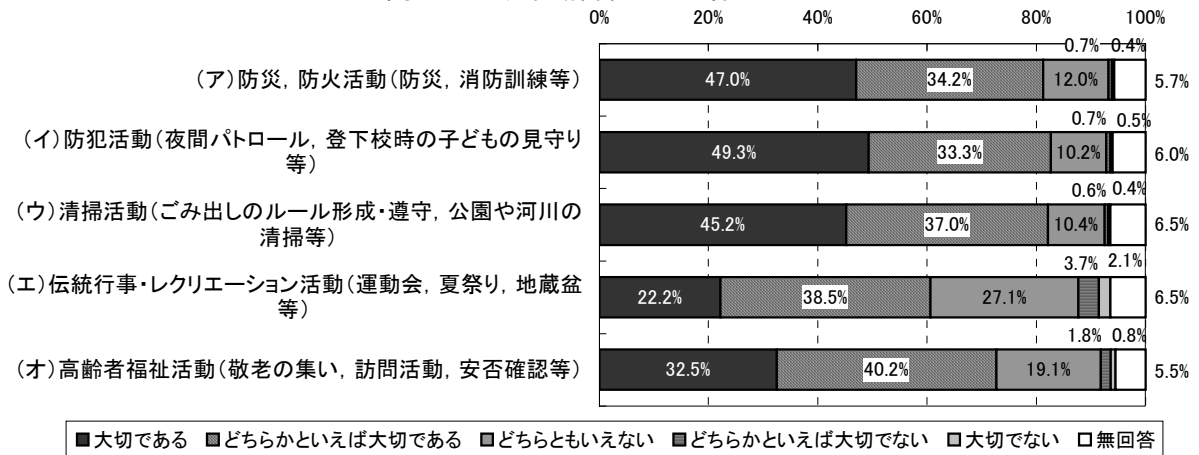
次の地域活動について、あなたはどのように感じておられますか。次の（ア）～（オ）の各項目について、それぞれ当てはまるものを1つ選び番号に○印をつけてください。

◆地域活動では、「防犯」（83％）＊、「清掃」（82％）＊、「防災」（81％）＊などを大切と感じる人が多い

＊比率は「大切である」「どちらかといえば大切である」の合計

母数＝4,828

問13 地域活動評価 ＜全体＞



《全体的傾向》

地域活動について、「大切である」＋「どちらかといえば大切である」の合計では、「防犯」（83％）、「清掃」（82％）、「防災」（81％）で大切と感じられている割合が高く、安全・安心や地域環境は重視されている。その他の項目についても「大切である」の合計が6割を超えている。なお、「伝統行事・レクリエーション活動」については、他と比べると「どちらともいえない」とする層が27%と多くなっている。

《性別》

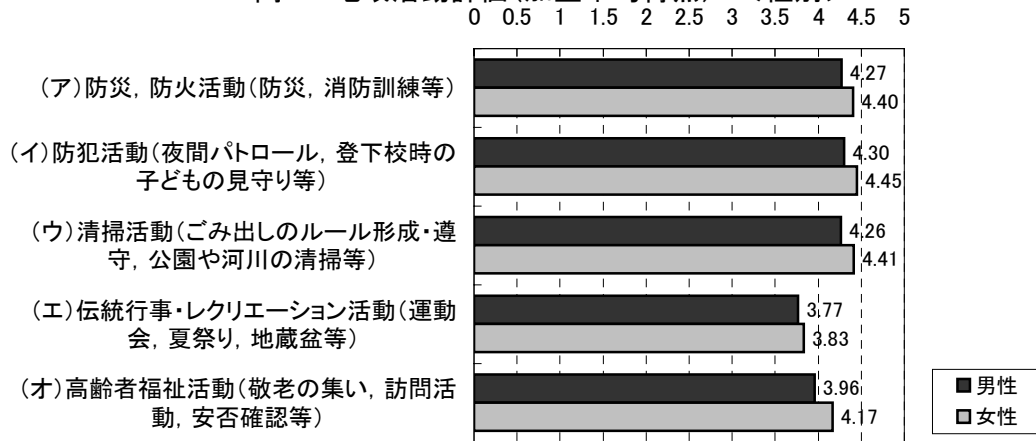
いずれの項目も女性の方が大切との評価がわずかに高い。

《年代別》

年代による違いはそれほど見られないが、70歳以上の層では、いずれの項目も評価がわずかに高くなっている。

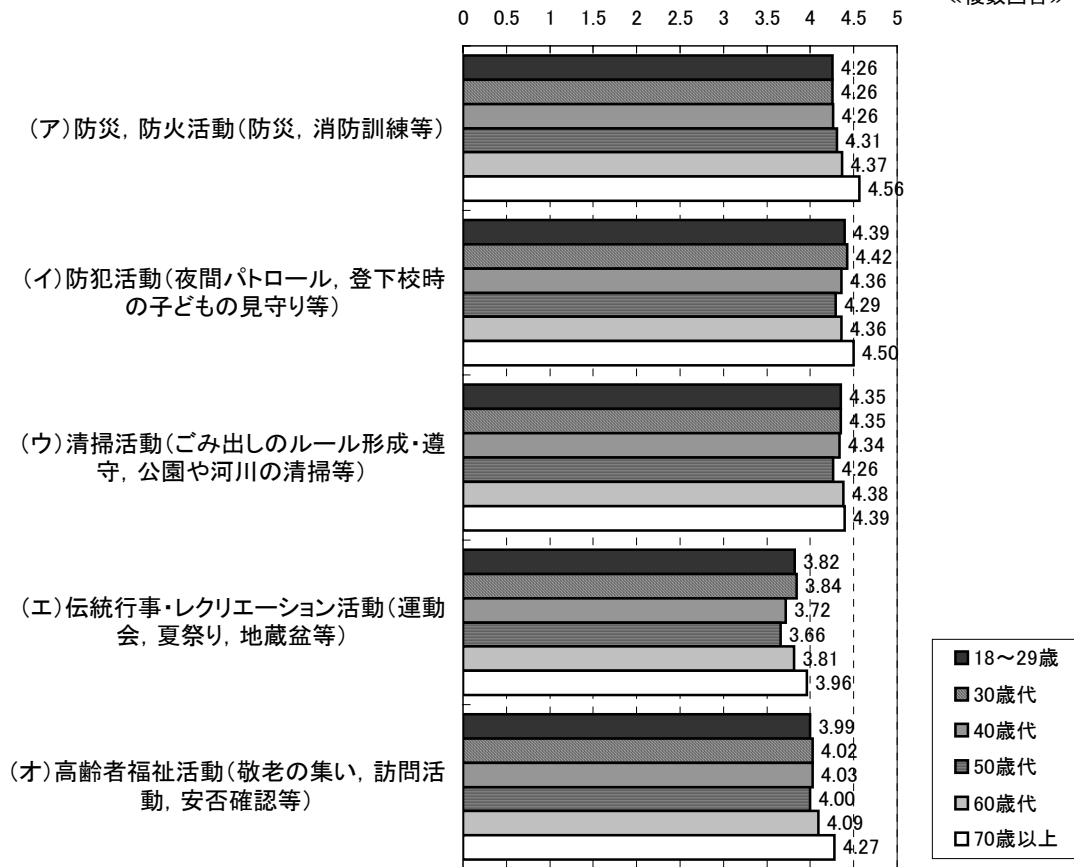
問13 地域活動評価(加重平均得点) <性別>

《複数回答》



問13 地域活動評価(加重平均得点) <年代別>

《複数回答》



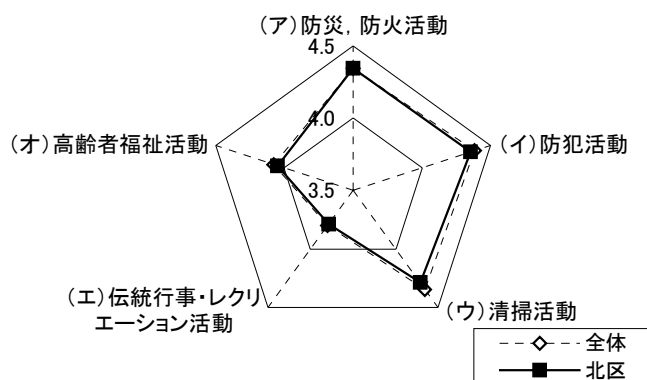
「加重平均得点」:「そう思う」5点,「どちらかといえばそう思」4点,「どちらともいえない」3点,「どちらかといえばそう思わない」2点,「そう思わない」1点として,それぞれの回答者数に点数を乗じ,その合計値を,無回答を除く総回答者数で除した値

問 13 地域活動評価（加重平均得点） <行政区別>

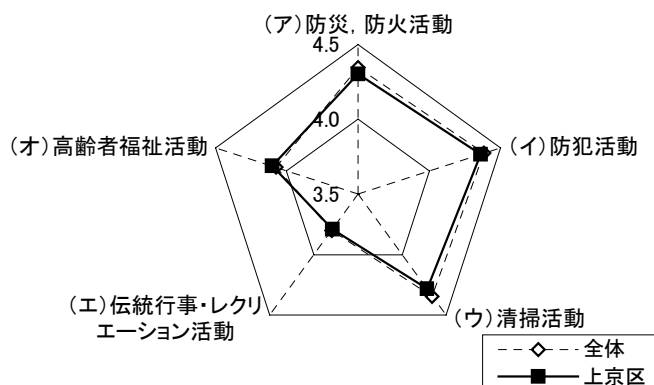
《行政区別》

各行政区ともあまり違いはなく、いずれも「防犯活動」、「清掃活動」、「防災、防火活動」が高くなっている。

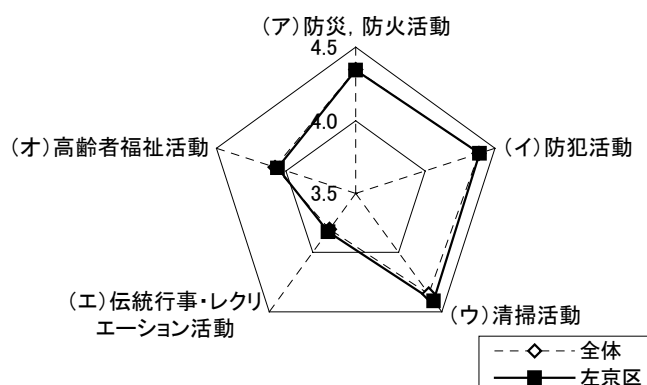
北 区



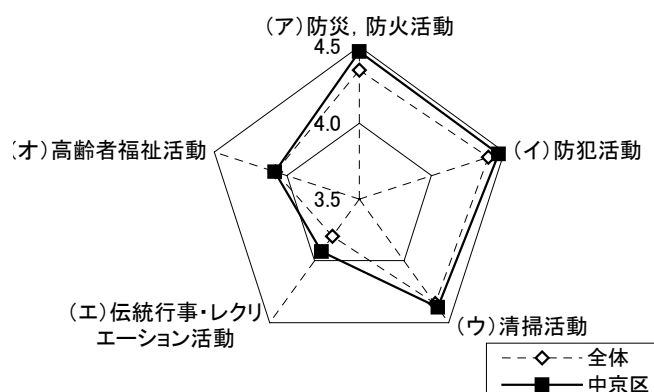
上京区



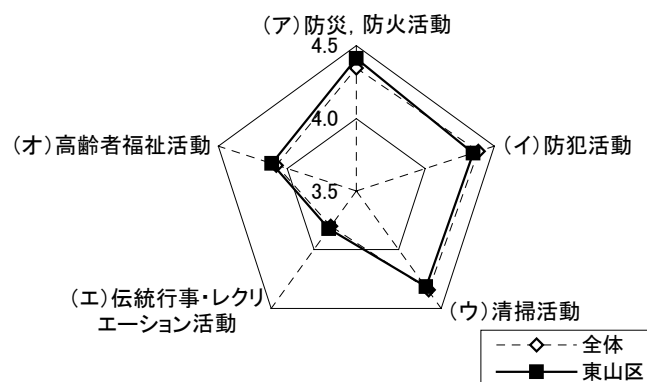
左京区



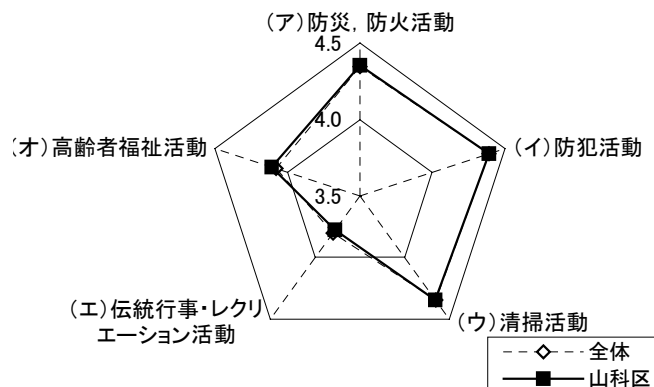
中京区



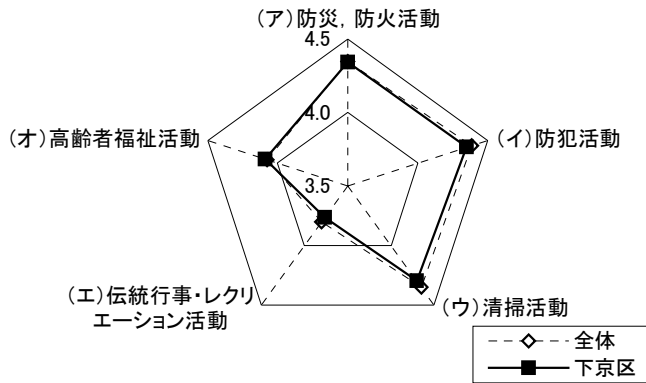
東山区



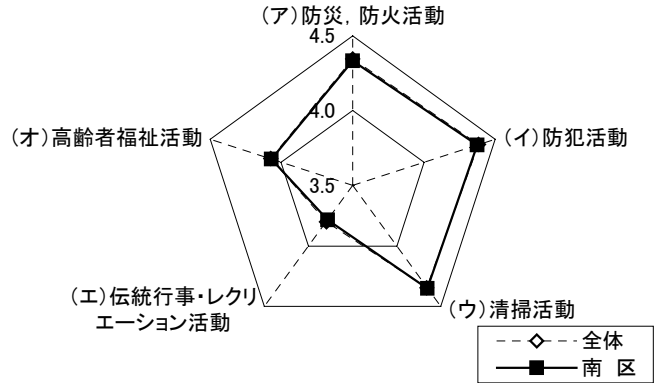
山科区



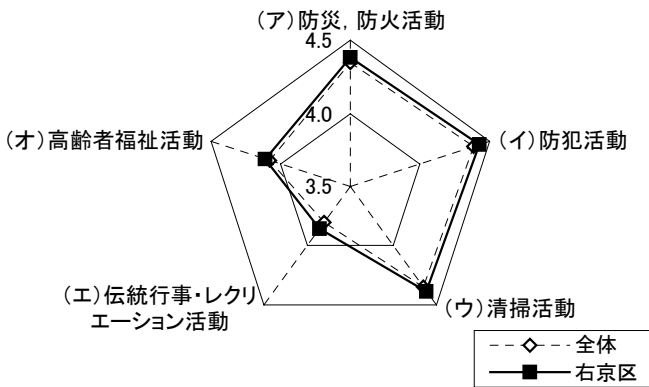
下京区



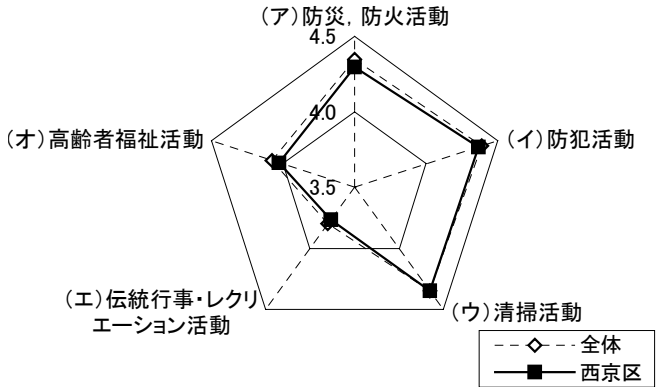
南区



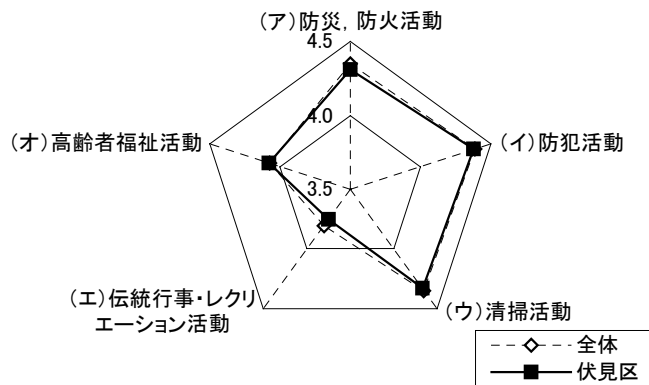
右京区



西京区



伏見区



市政への市民参加について

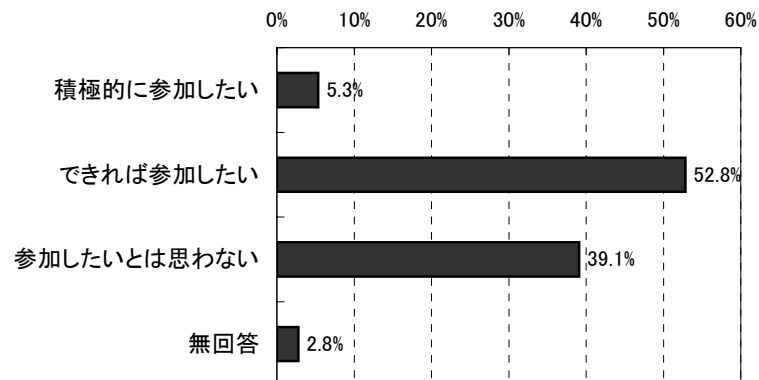
問 14 市政への参加希望

あなたは、市政への参加について、どうお考えですか。次の項目の中から、あなたのお考えに近いものを1つ選び番号に○印をつけてください。

◆58%の市民が市政に参加希望

母数=4,828

問14 市政への参加希望 <全体>



《全体的傾向》

市政への参加希望としては、「できれば参加したい」が最も多く 53%となっており、「積極的に参加したい」の5%を加えると、58%の市民が市政への参加希望があるといえる。

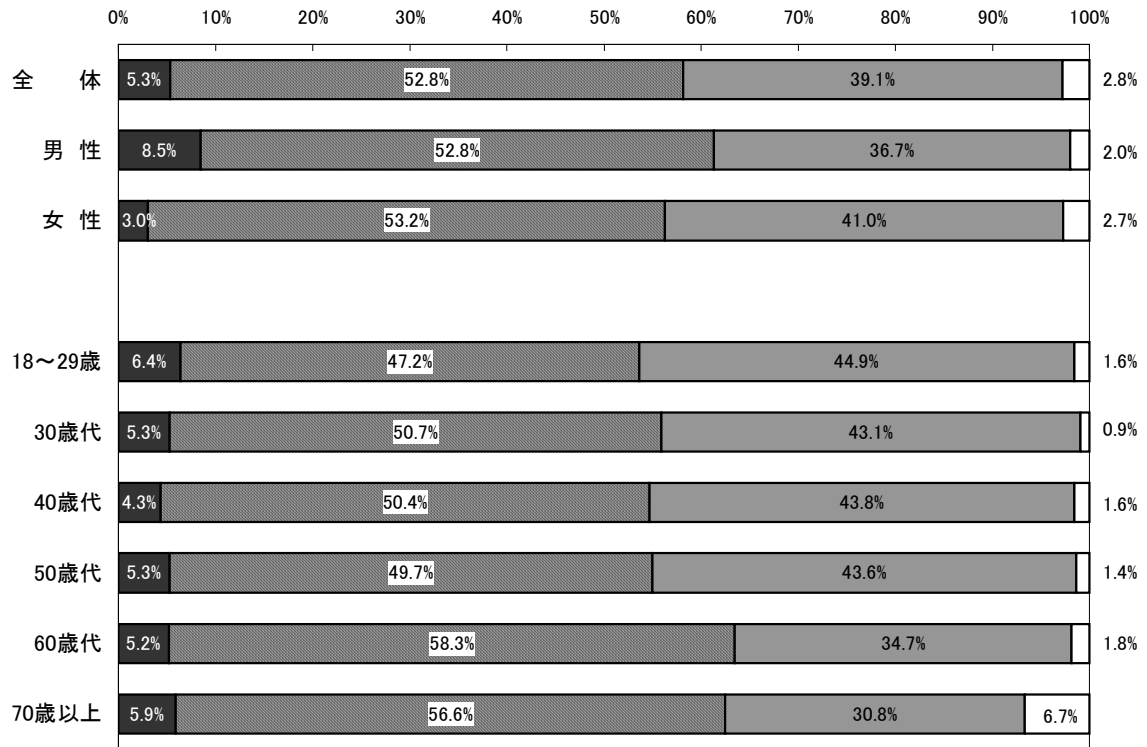
《性別》

男性の方が、5ポイント程度参加希望が高い。

《年代別》

年代別では、50歳代まではどの年齢層もほぼ同じ参加希望であるが、60歳代以上で参加希望がやや高くなっている。

問14 市政への参加希望 <性別・年代別>



■ 積極的に参加したい ■ できれば参加したい ■ 参加したいとは思わない □ 無回答

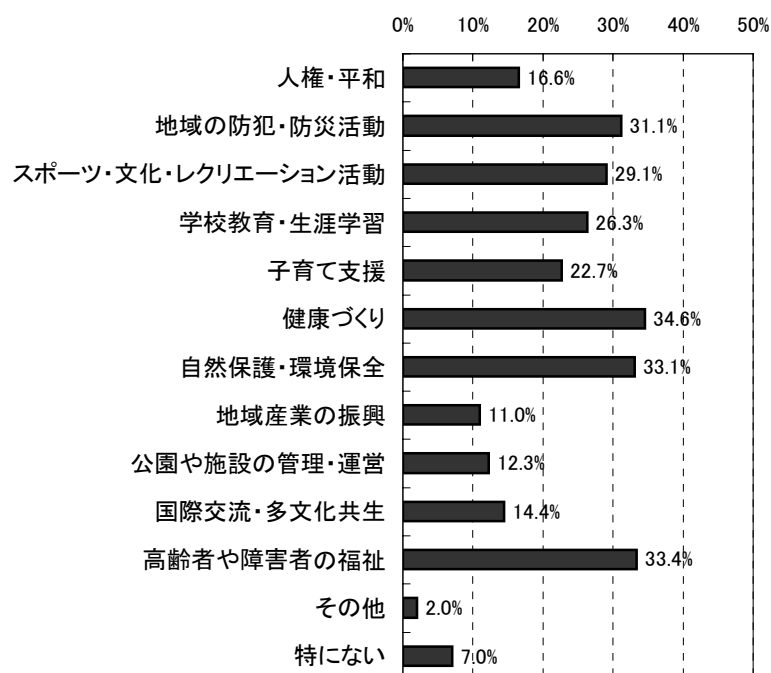
（副問） 市政への参加希望分野

問 14 で市政への参加について「1 積極的に参加したい」又は「2 できれば参加したい」とお答えの方のみにおたずねします。あなたは、まちづくりや地域の身近な課題に関して、ご自身の持つ知識や経験をどのような分野に生かすことができると思いますか。次の項目の中から、当てはまるものをすべて選び番号に○印をつけてください。

◆「健康」（35%）、「福祉」（33%）、「環境」（33%）、「防犯」（31%）、「スポーツ・文化」（29%）などで参加希望が高い

母数=2,807

（副問） 市政への参加希望分野 <全体>



《全体的傾向》

市政への参加希望分野としては、「健康づくり」が最も多く 35%で、これに「高齢者や障害者の福祉」、「自然保護・環境保全」の 33%が続いている。一方、「地域産業の振興」（11%）や「公園や施設の管理・運営」（12%）、「国際交流・多文化共生」（14%）等は低い値にとどまっている。

《性別》

参加希望が 30%を超えるのは、男性では「地域の防犯・防災活動」、「スポーツ・文化・レクリエーション活動」、「自然保護・環境保全」であり、女性では「子育て支援」や「健康づくり」、「高齢者や障害者の福祉」となっている。

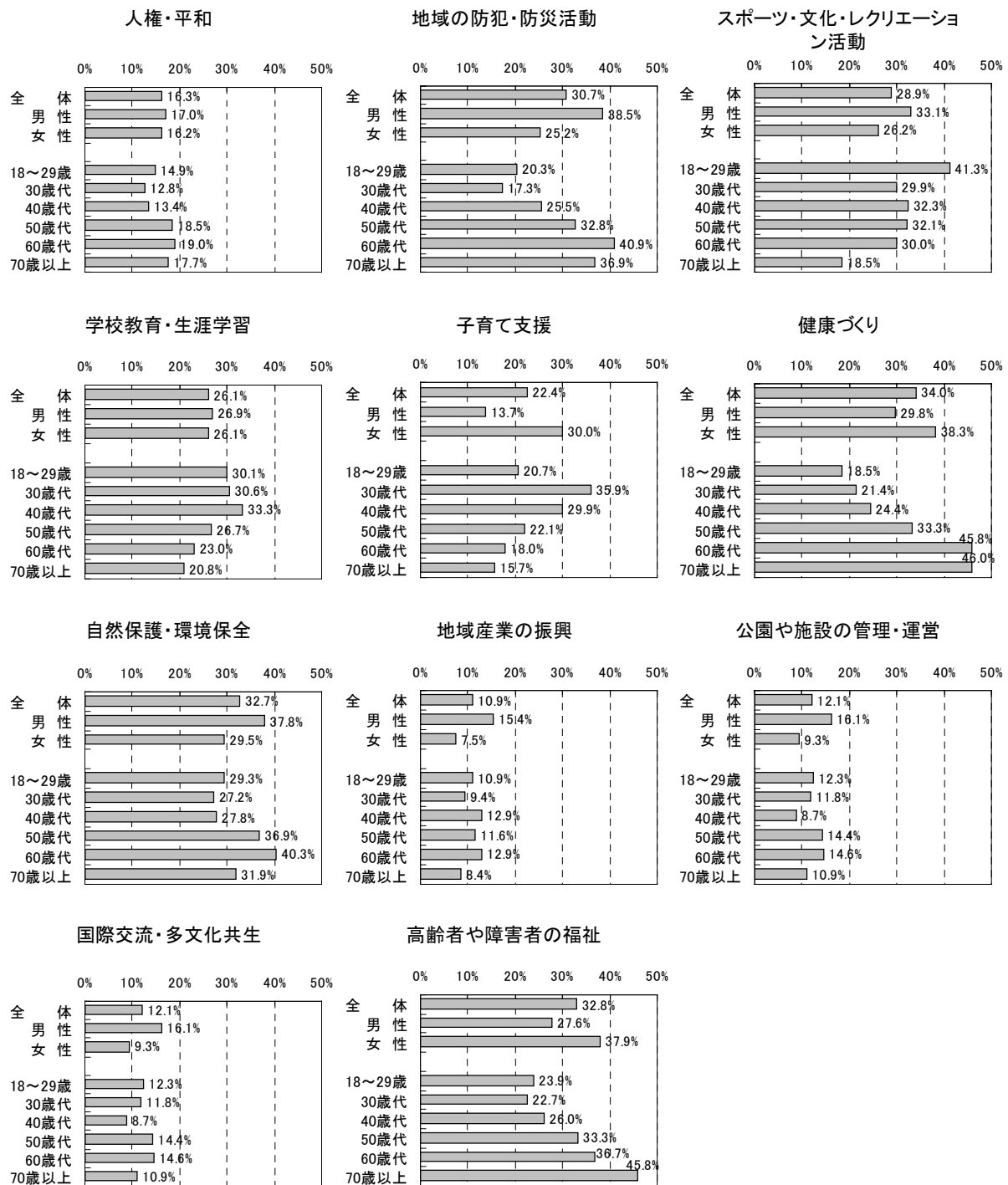
《年代別》

「健康づくり」については、高齢になるほど参加希望が多くなっている。また、「地域の防犯・防災活動」や「高齢者や障害者の福祉」についても、おおむね高齢になるほど参加希望が多くなっている。

また、「子育て支援」については、当然ながら子育て世代である 30 歳代で参加希望がピークとなっている。

また、「スポーツ・文化・レクリエーション活動」は若年層の参加希望が高い。

(副問) 市政への参加希望分野 <性別・年代別>



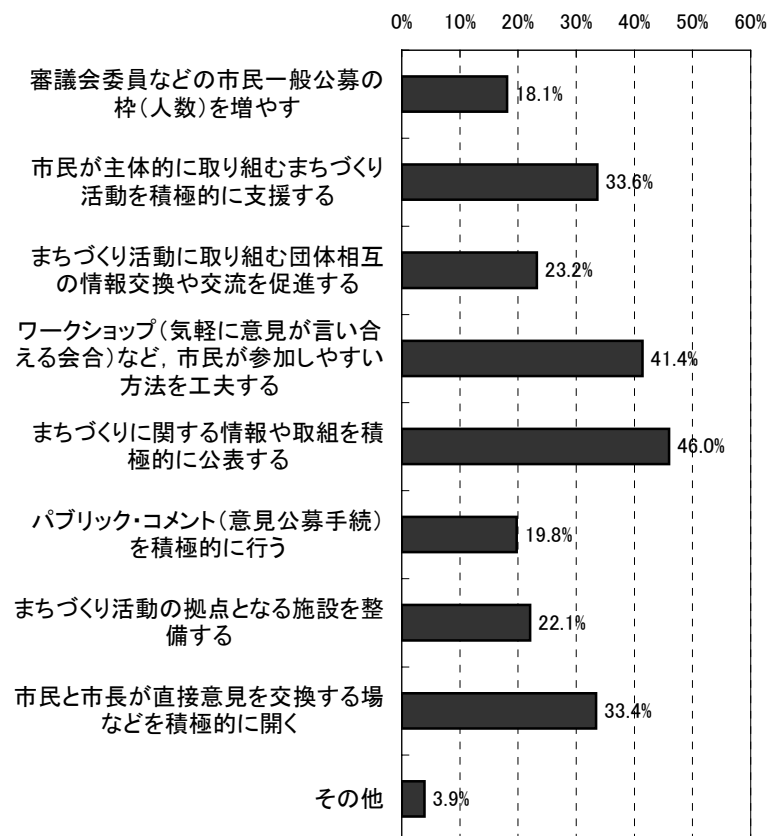
問 15 市政への有効な参加手法

市民と行政との協働のまちづくりをより活発にしていくために、あなたはどのような取組・手法が有効だと思いますか。次の項目の中から、当てはまるものをすべて選び番号に○印をつけてください

◆市民参加の有効な手法として、「まちづくり情報の公表」(46%)、「参加しやすい方法の工夫」(41%)、「市民主体の活動を支援」(34%)、「市民と市長が直接意見を交換する場」(33%)などの意見が多い

母数=4,828

問15 市政への有効な参加手法 <全体>



《全体的傾向》

市政への有効な参加手法としては、「まちづくり情報の公表」が46%と最も多く、「参加しやすい方法の工夫」(41%)、「まちづくり活動の支援」(34%)、「市民と市長が直接意見交換する場」(33%)が続いている。

《性別》

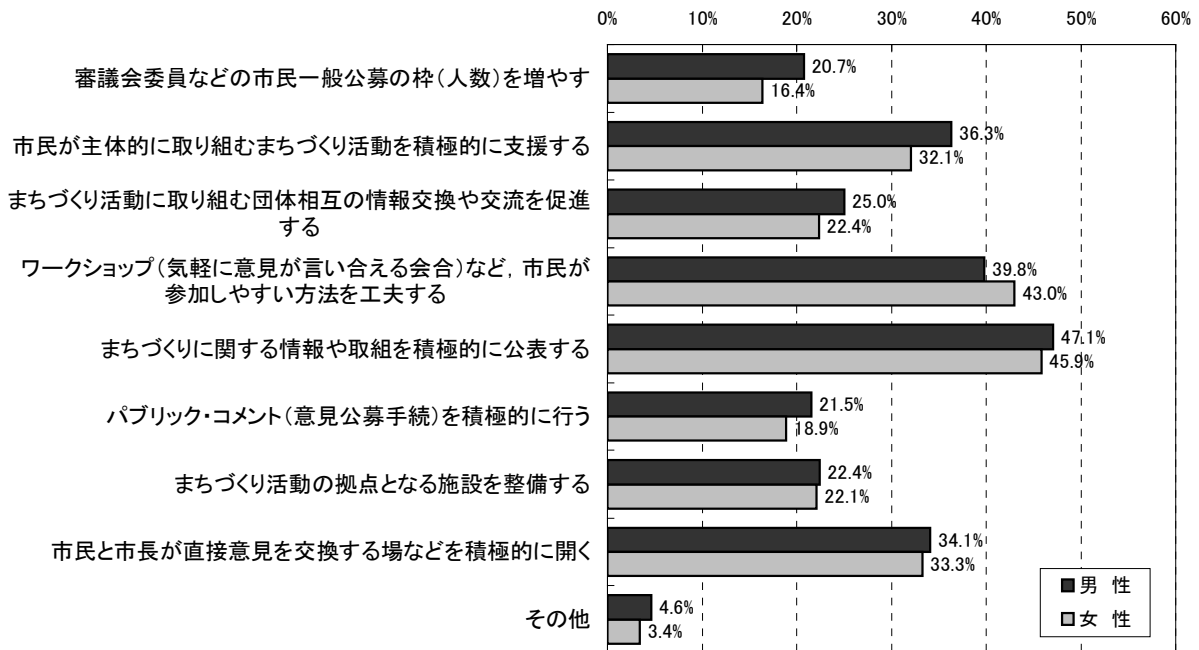
男女間ではあまり違いはない。

《年代別》

「まちづくり情報の公表」は30歳代～50歳代の中堅層で多い。次に多い「ワークショップなど市民が参加しやすい方法」については、50歳代で最も多い。また、30歳未満層では、「まちづくり活動の支援」がわずかに多くなっている。

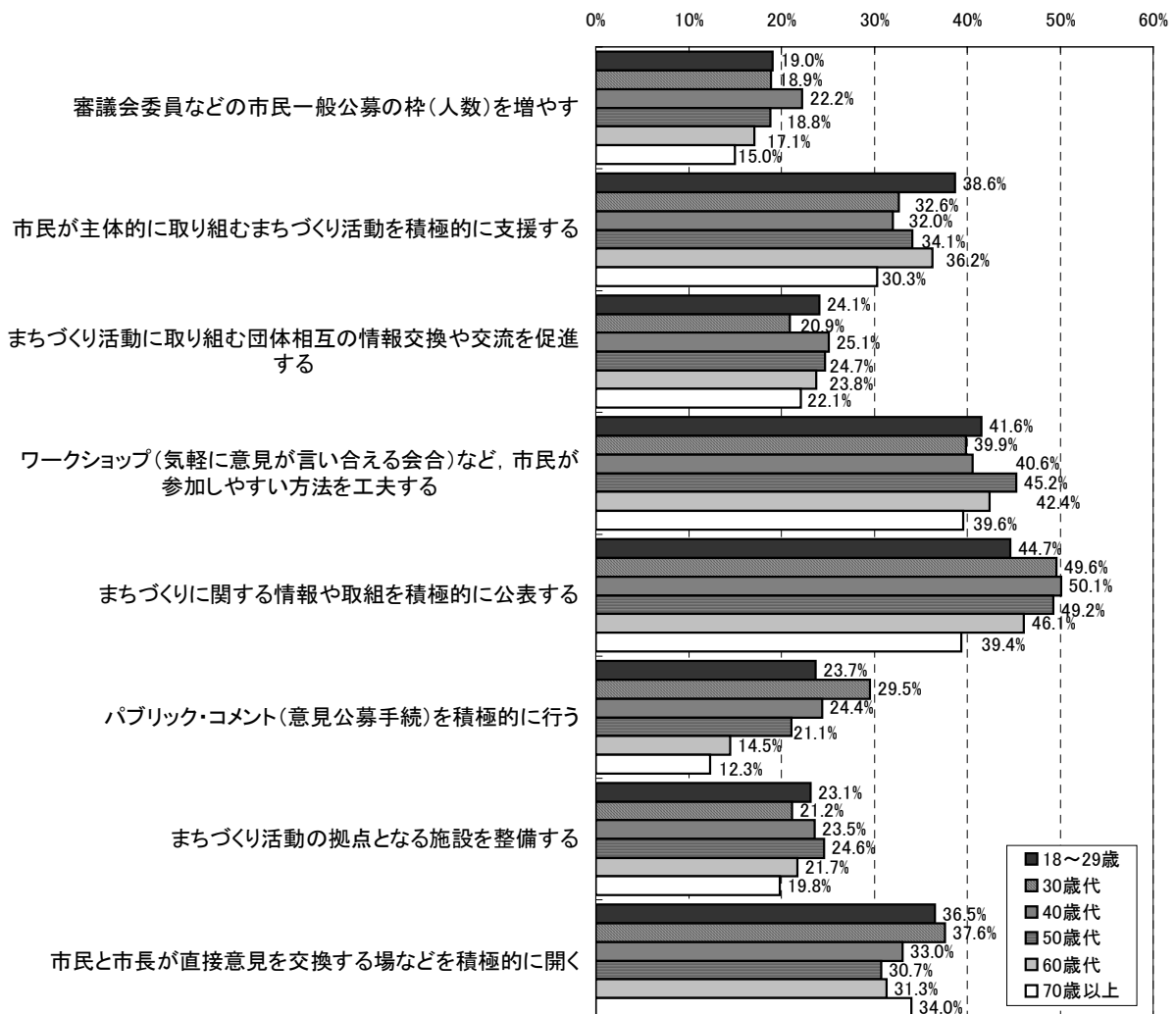
問15 市政への有効な参加方法 <性別>

《複数回答》



問15 市政への有効な参加方法 <年代別>

《複数回答》



京都の持つ都市の魅力やイメージについて

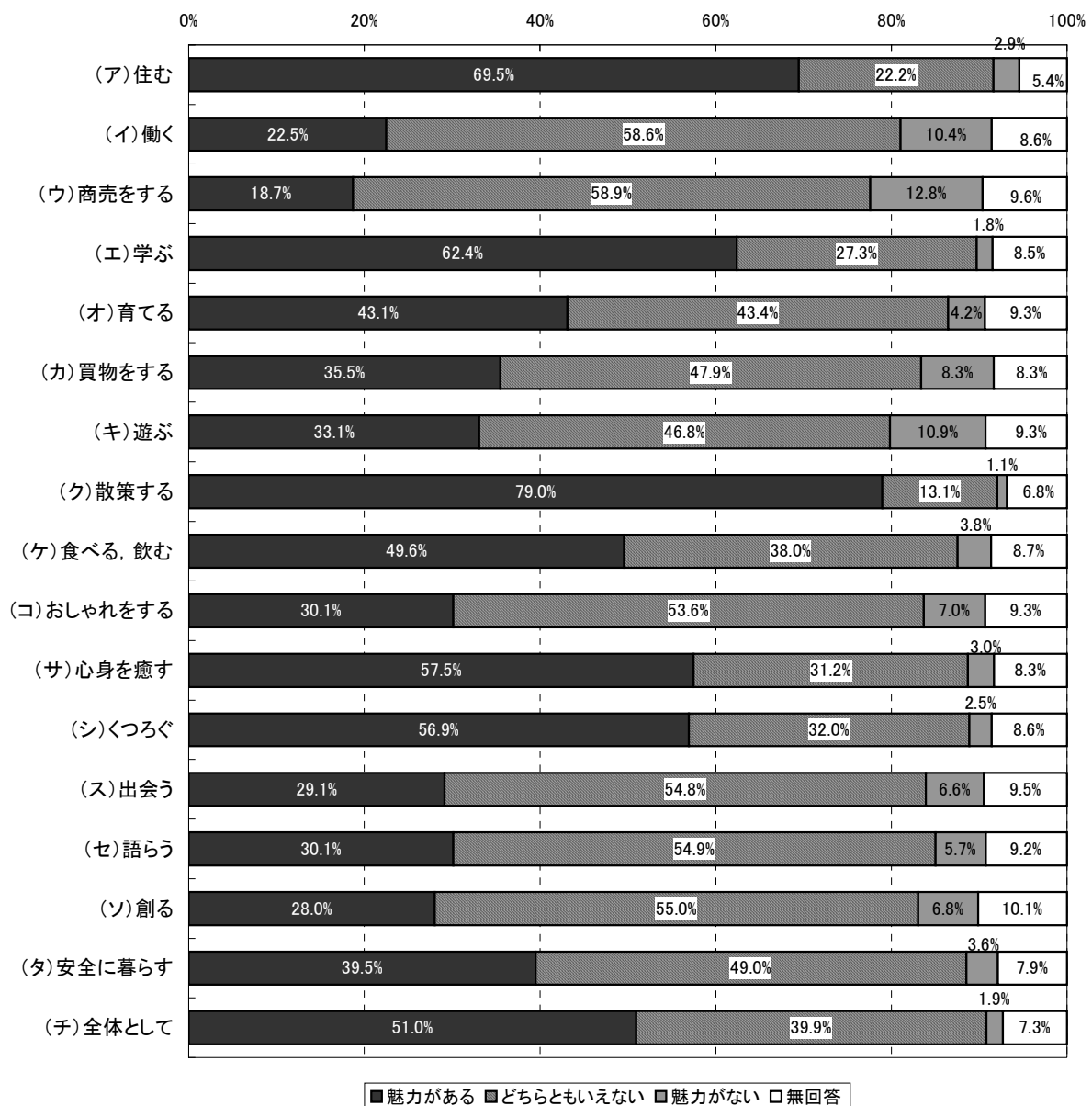
問 16 京都の持つ都市の魅力

現在の京都で生活する場合、あなたは、次の（ア）～（チ）のようなことについて、京都が魅力あるまちだと思いますか。それぞれ当てはまるものを1つ選び番号に○印をつけてください。

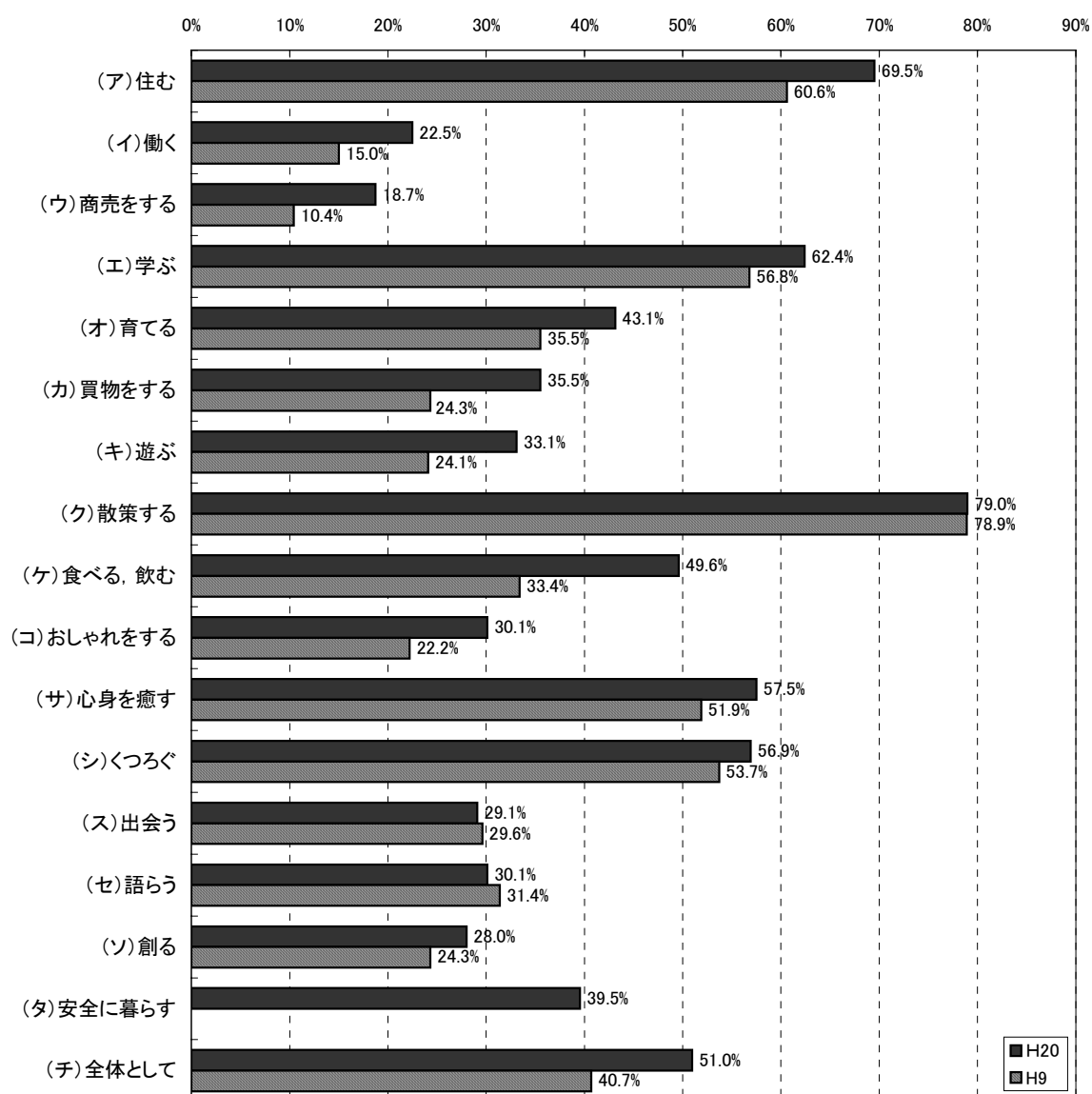
◆京都の魅力では、「散策」（79%）、「住む」（70%）、「学ぶ」（62%）、「心身を癒す」（58%）、「くつろぐ」（57%）が上位

母数＝4,828

問16 京都の持つ都市の魅力 ＜全体＞



問16 京都の持つ都市の魅力(魅力がある) <全体>



注) 棒及び数値のない項目は、当該調査で選択肢が設けられていない。

《全体的傾向及び他調査との比較》

京都の魅力として、「散策」、「住む」、「学ぶ」、「心身を癒す」、「くつろぐ」が上位5位を占め、暮らしに関する魅力が高い一方、「働く」、「商売する」など産業に関する魅力が低い。

前回調査と比較すると、大半の項目において魅力があると答えた割合が増加しているほか、「全体として」魅力的と答えた人が10ポイント高くなっており、京都に対する魅力が増している傾向にある。

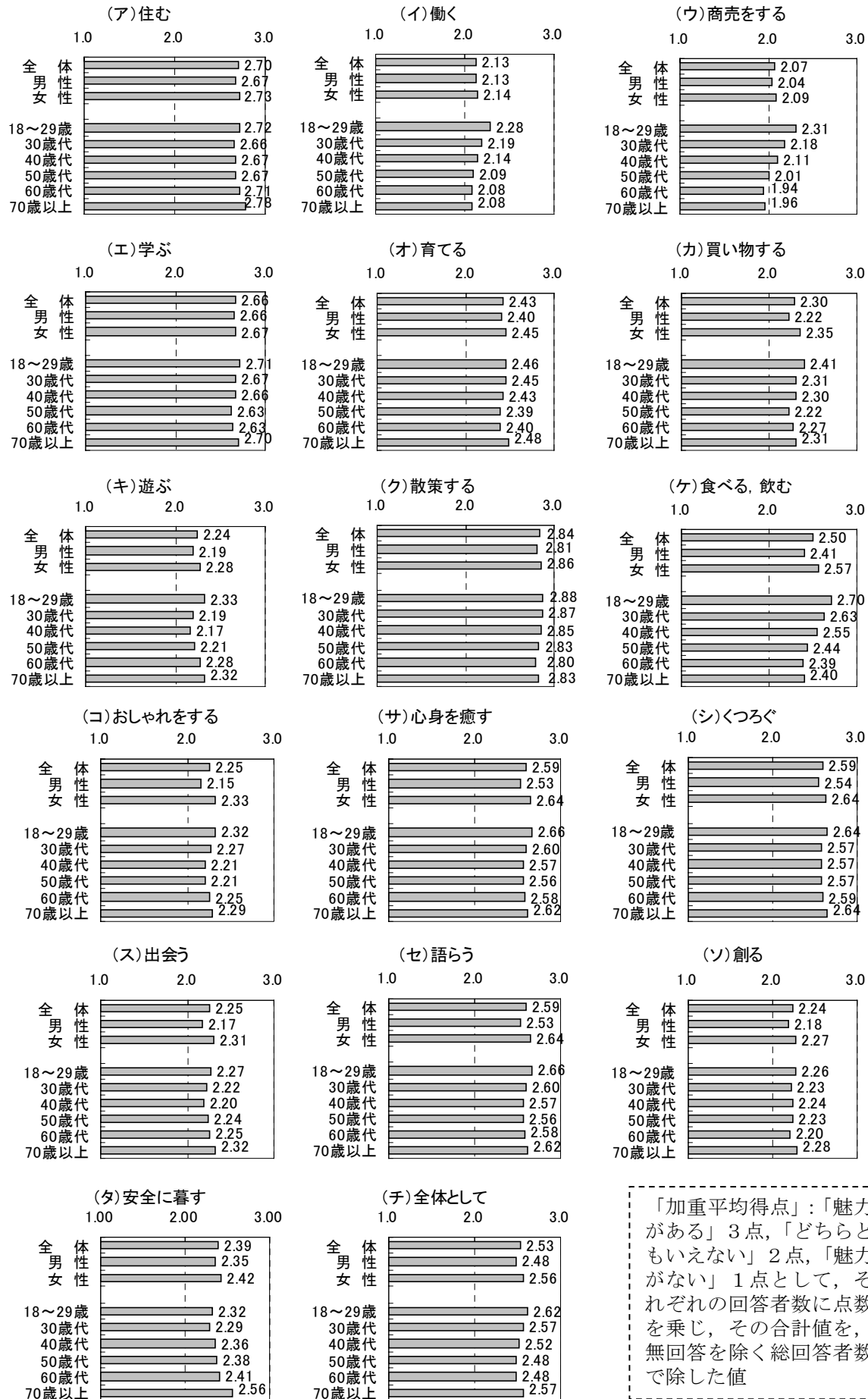
《性別》

すべての項目において、女性の方が男性より高いポイントとなっている。

《年代別》

年代別の特徴として、「商売をする」と「食べる, 飲む」の商業サービスにおいて、おおむね若い世代ほど魅力があると評価する傾向が現れている。

問 16 京都の持つ都市の魅力 <性別・年代別> ≪加重平均得点≫



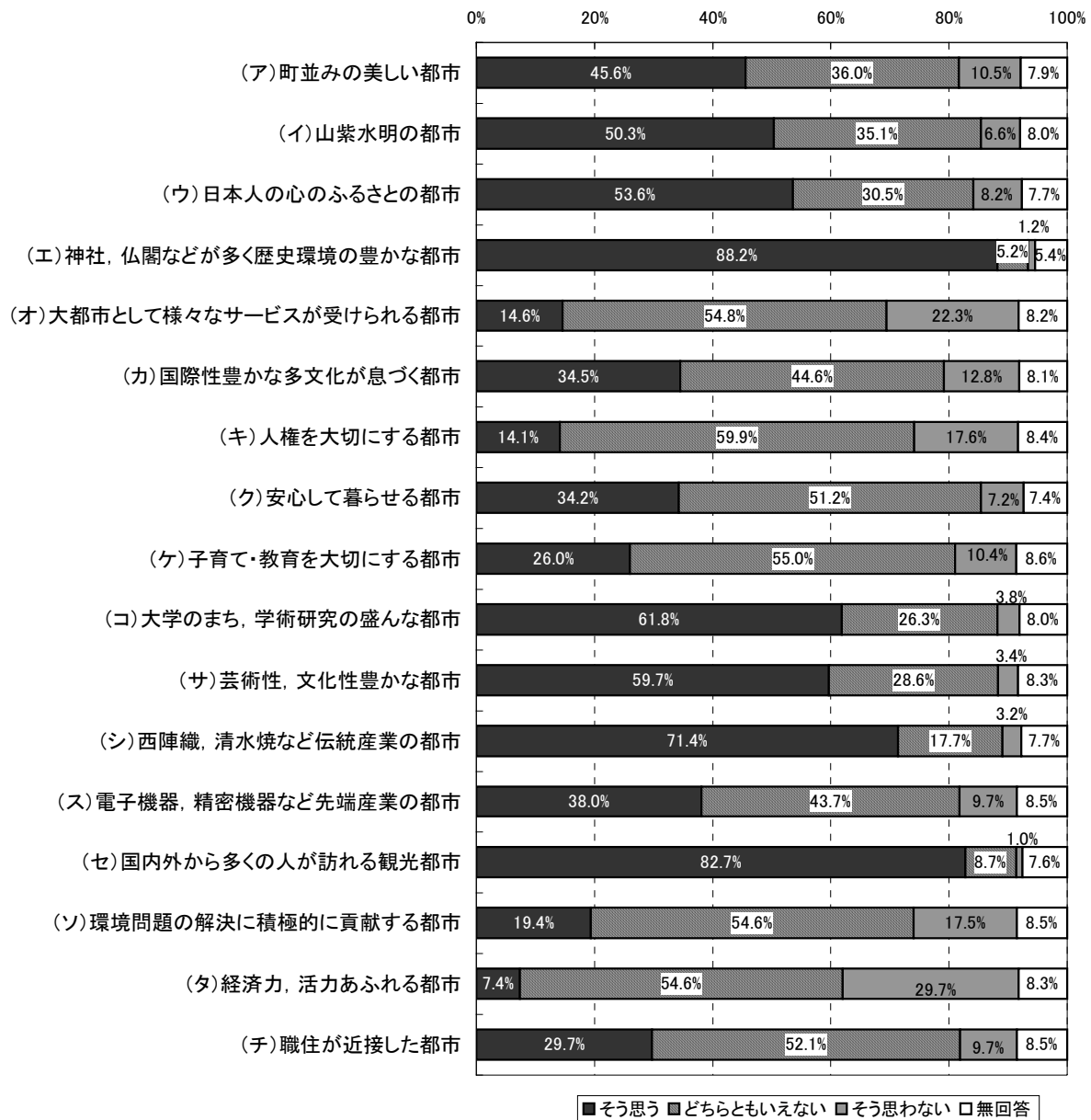
問 17 京都の持つ都市のイメージ（現在）

「現在の京都」に関する次の（ア）～（チ）のイメージについて、あなたはどのように思われますか。それぞれ当てはまるものを1つ選び番号に○印をつけてください。

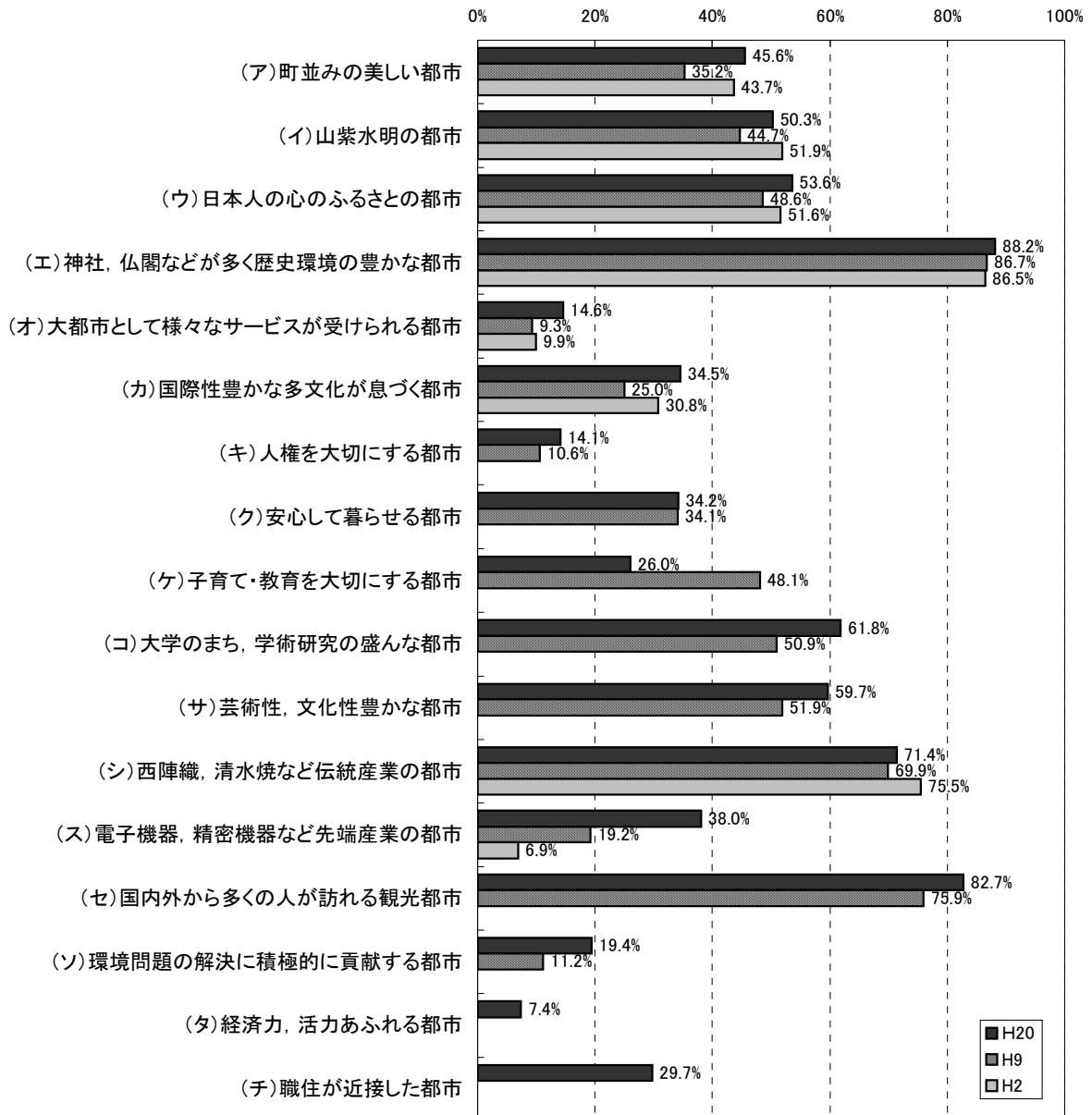
◆京都の現在のイメージでは、「歴史環境の豊かな都市」（88%）、「観光都市」（83%）、「伝統産業の都市」（71%）が上位

母数＝4,828

問17 京都の持つ都市のイメージ（現在）＜全体＞



問17 京都の持つ都市のイメージ(現在) (「そう思う」) <全体>



注) 棒及び数値のない項目は、当該調査で選択肢が設けられていない。

《全体的傾向及び他調査との比較》

「歴史環境の豊かな都市」、「観光都市」、「伝統産業の都市」といった歴史を背景としたイメージは、7割以上の人が「そう思う」と答えており、京都の代表的なイメージといえる。

前回調査と比較すると、「町並みの美しい都市」「学術研究の盛んな都市」「先端産業の都市」の項目ではそれぞれ10ポイント、11ポイント、19ポイント高くなっている一方、「子育て・教育を大切にする都市」は22ポイント低下している。

《性別》

男女別では、あまり違いはない。

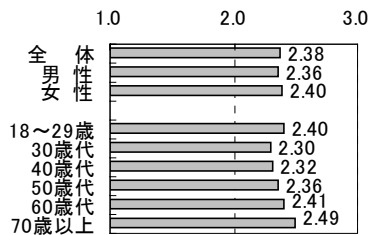
《年代別》

全体に得点の高い「歴史環境豊かな都市」、「観光都市」、「伝統産業の都市」、「学術研究の盛んな都市」は年代別の違いがほとんどなく、世代を超えた共通イメージになっている。その他の項目については、おおむね30～40歳代の得点が低く、年齢が高いほど得点が高い傾向にある。

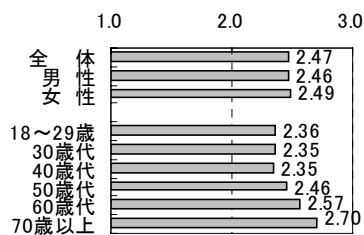
問 17 京都の持つ都市のイメージ（現在） <性別・年代別>

《加重平均得点》

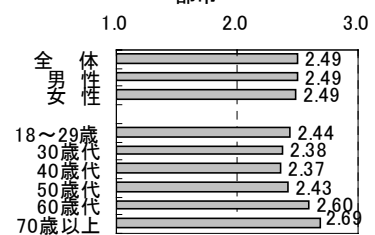
(ア) 町並みの美しい都市



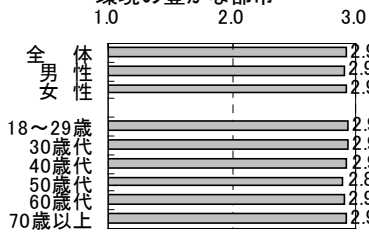
(イ) 山紫水明の都市



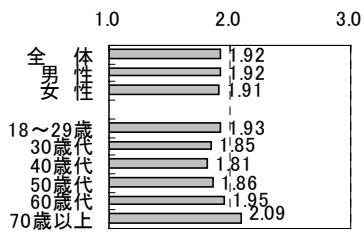
(ウ) 日本人の心のふるさとの都市



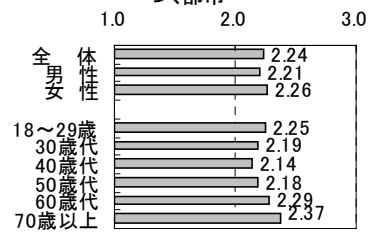
(エ) 神社、仏閣などが多く歴史環境の豊かな都市



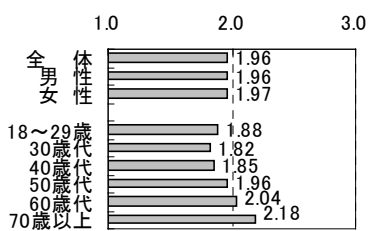
(オ) 大都市として様々なサービスが受けられる都市



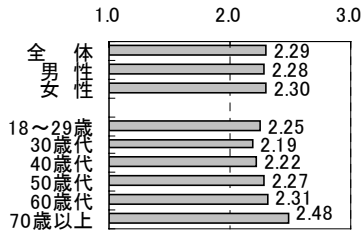
(カ) 国際性豊かな多文化が息づく都市



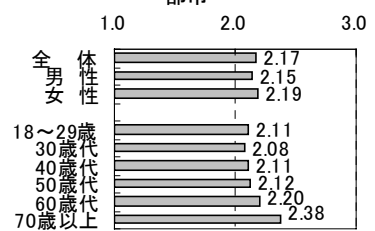
(キ) 人権を大切にする都市



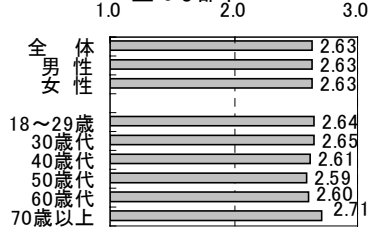
(ク) 安心して暮らせる都市



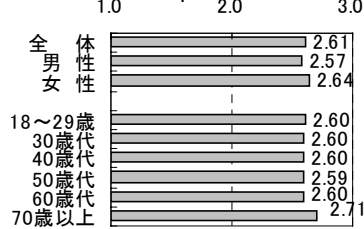
(ケ) 子育て・教育を大切にする都市



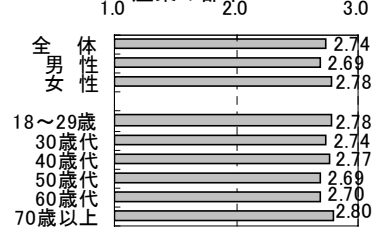
(コ) 大学のまち、学術研究の盛んな都市



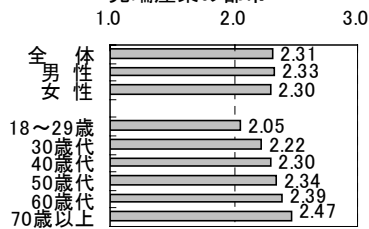
(サ) 芸術性、文化性豊かな都市



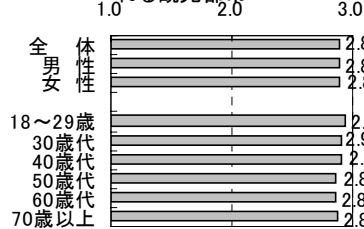
(シ) 西陣織、清水焼など伝統産業の都市



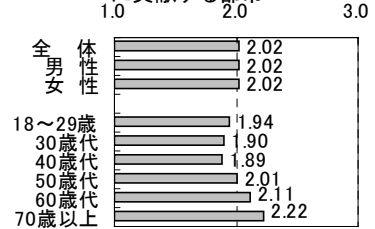
(ス) 電子機器、精密機器など先端産業の都市



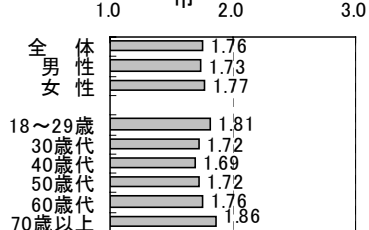
(セ) 国内外から多くの人が訪れる観光都市



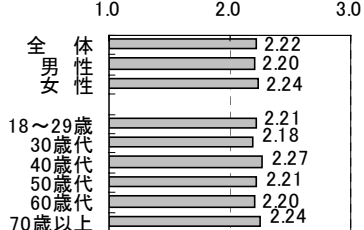
(ソ) 環境問題の解決に積極的に貢献する都市



(タ) 経済力、活力あふれる都市



(チ) 職住が近接した都市



「加重平均得点」：「そう思う」3点、「どちらともいえない」2点、「そう思わない」1点として、それぞれの回答者数に点数を乗じ、その合計値を、無回答を除く総回答者数で除した値

問 18 京都の持つ都市のイメージ（将来）

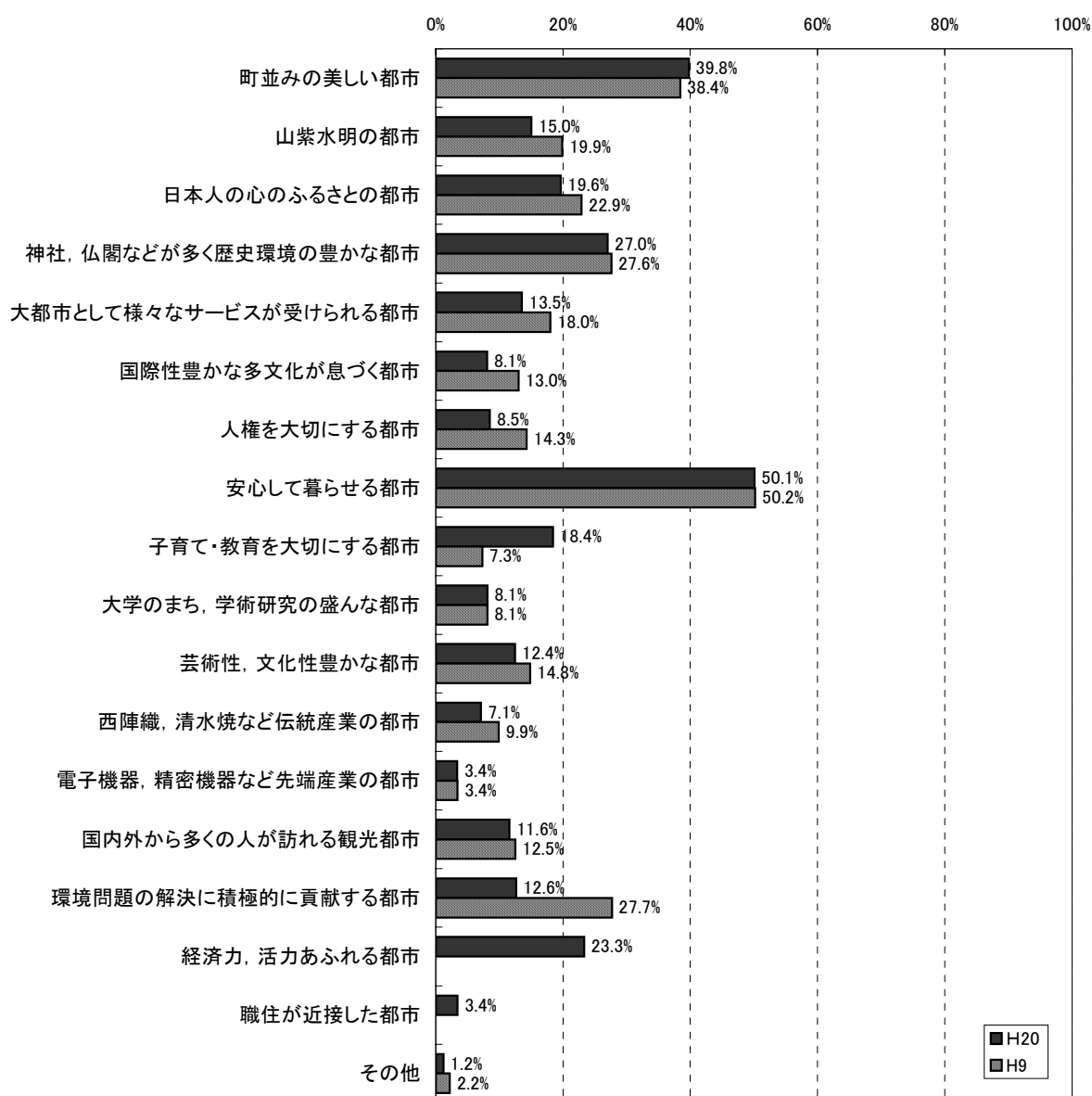
「将来の京都」について、あなたが特にこうあってほしいと思われるイメージはどれですか。次のイメージの中から、あなたのお考えに近いものを3つ以内で選び番号に○印をつけてください。

◆京都の将来のイメージでは、「安心して暮らせる都市」（50%）, 「町並みの美しい都市」（40%）, 「歴史環境の豊かな都市」（27%）が上位

母数=4,828

問18 京都の持つ都市のイメージ(将来) <全体>

《複数回答》



注) 棒及び数値のない項目は、当該調査で選択肢が設けられていない。

《全体的傾向及び他調査との比較》

京都の将来のイメージについては、半数の人が「安心して暮らせる都市」に、4割の人が「町並みの美しい都市」になって欲しいと考えている。

前回調査と比較すると、「子育て・教育を大切にする都市」が10ポイント以上増加している。一方、「環境問題の解決に積極的に貢献する都市」は15ポイント減少している。

なお、前回調査では設けていなかった選択肢である「経済力、活力あふれる都市」が23%と高位となっている。

《性別》

男女別では、それほど大きな違いはないが、「安心して暮らせる都市」で11ポイント女性が男性を上回っているほか、「子育て・教育を大切にする都市」でもわずかに女性の方が多い。一方、「日本人の心のふるさとの都市」はわずかに男性の方が多い。

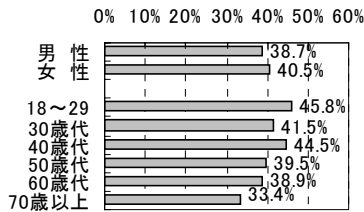
《年代別》

年代別の特徴として、高齢の世代ほど「山紫水明の都市」「心のふるさとの都市」を望む声が高い傾向がある。また、30歳代を中心とした子育て世代で「子育て・教育を大切にする都市」を望む声が特に高い。

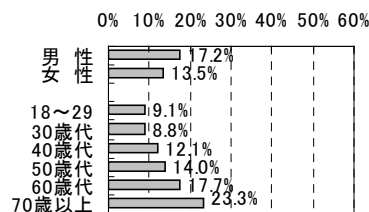
問 18 京都の持つ都市のイメージ（将来） <性別・年代別>

《複数回答》

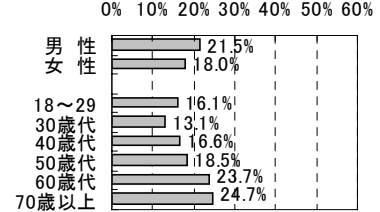
(ア) 町並みの美しい都市



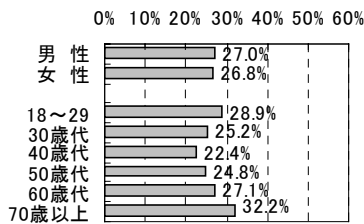
(イ) 山紫水明の都市



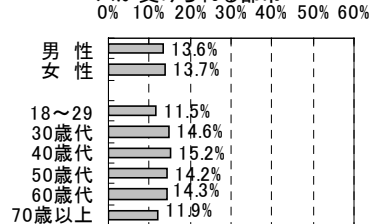
(ウ) 日本人の心のふるさとの都市



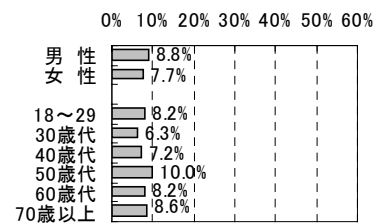
(エ) 神社、仏閣などが多く歴史環境の豊かな都市



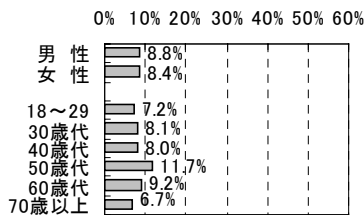
(オ) 大都市として様々なサービスが受けられる都市



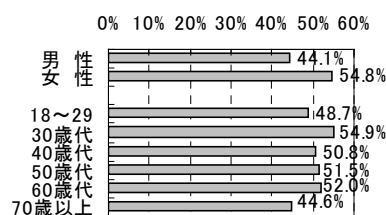
(カ) 国際性豊かな多文化が息づく都市



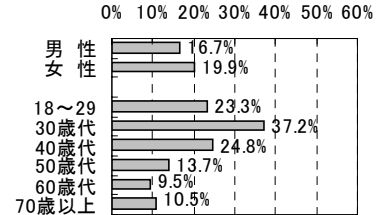
(キ) 人権を大切にする都市



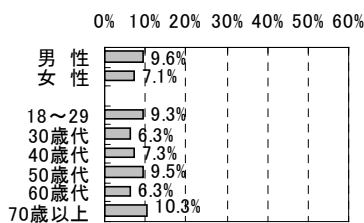
(ク) 安心して暮らせる都市



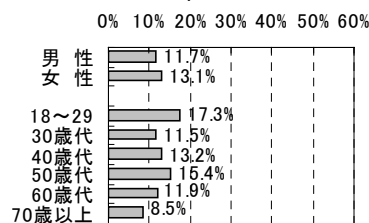
(ケ) 子育て・教育を大切にする都市



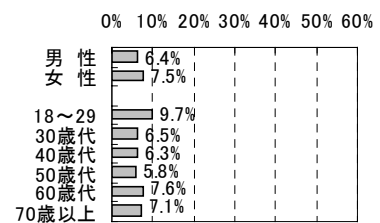
(コ) 大学のまち、学術研究の盛んな都市



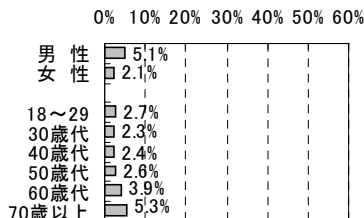
(サ) 芸術性、文化性豊かな都市



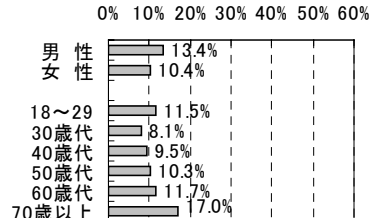
(シ) 西陣織、清水焼など伝統産業の都市



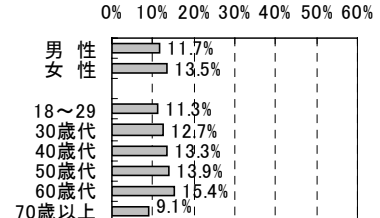
(ス) 電子機器、精密機器など先端産業の都市



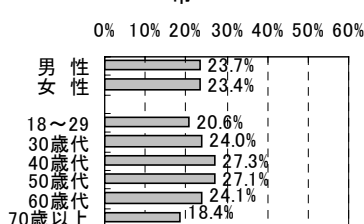
(セ) 国内外から多くの人が訪れる観光都市



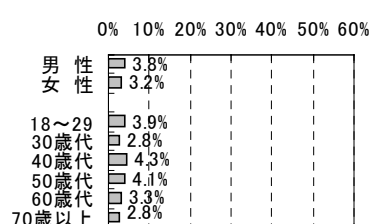
(ソ) 環境問題の解決に積極的に貢献する都市



(タ) 経済力、活力あふれる都市



(チ) 職住が近接した都市



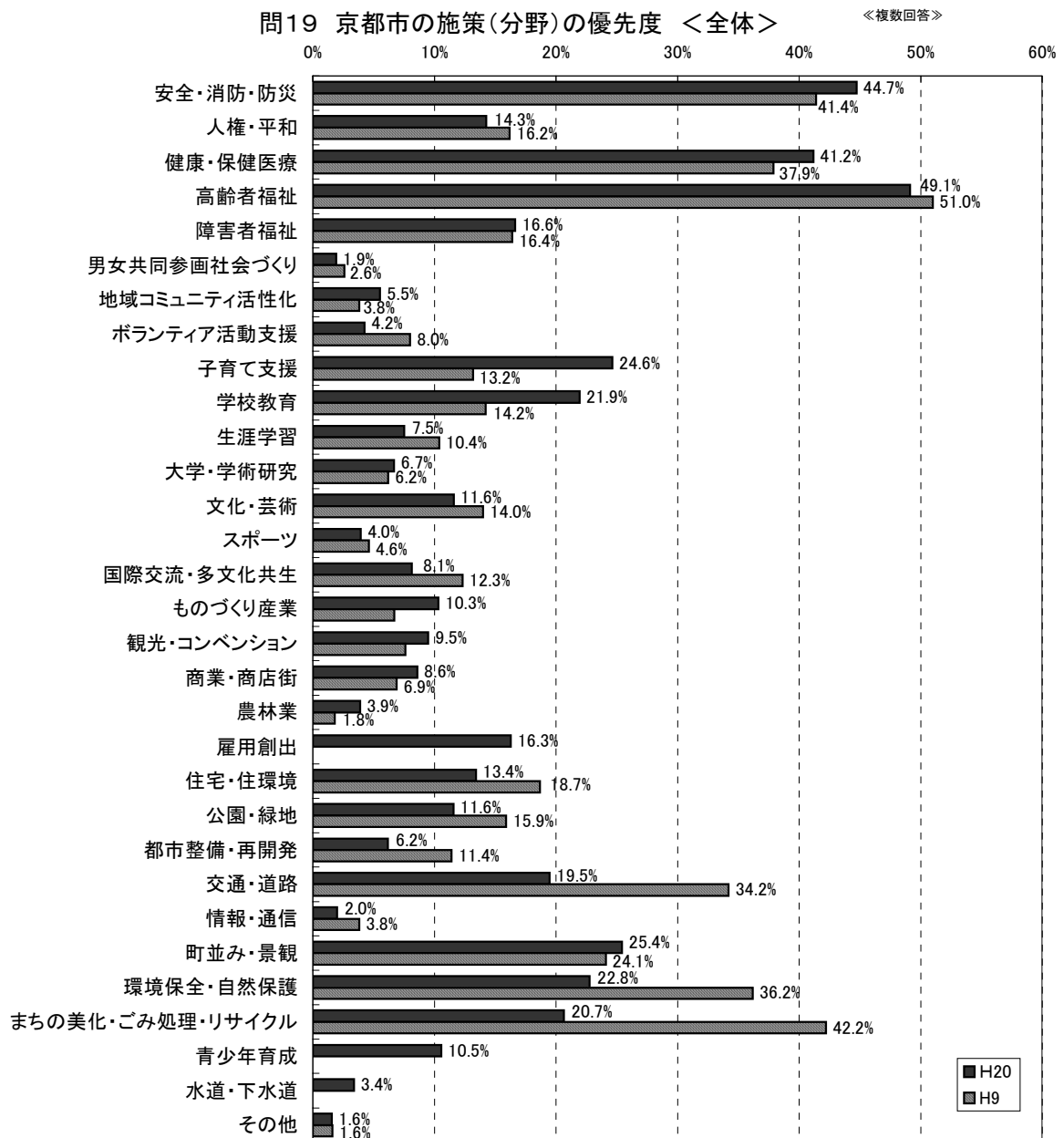
京都が今後力を入れるべき施策について

問19 京都市の施策（分野）の優先度

あなたは、京都市が今後、どのような分野の施策に力を入れていくべきだと思いますか。次の項目の中から、あなたが特に重要だと思われるものを5つ以内で選び番号に○印をつけてください。

◆今後力を入れるべき施策では、「高齢者福祉」(49%)、「安全・消防・防災」(45%)、「健康・保健医療」(41%)が上位

母数＝4,828



注）棒及び数値のない項目は、当該調査で選択肢が設けられていない。

《全体的傾向及び他調査との比較》

今後の施策の優先度では、「高齢者福祉」「安全・消防・防災」「健康・保健福祉」が重要と考える人が特に多く、いずれも40%を超える。

次いで、「町並み・景観」「子育て支援」「環境保全・自然保護」「学校教育」と続いている。

前回調査と比較すると、「子育て支援」、「学校教育」において10ポイント前後増加している一方、「交通道路」、「環境保全・自然環境」、「まちの美化・ごみ処理・リサイクル」では、大きくポイントを下げている。

《性別》

男女別では、20%以上選択されている項目についてみると、「健康・保健医療」「高齢者福祉」「子育て支援」について女性の方が男性よりわずかに多くなっている。

《年代別》

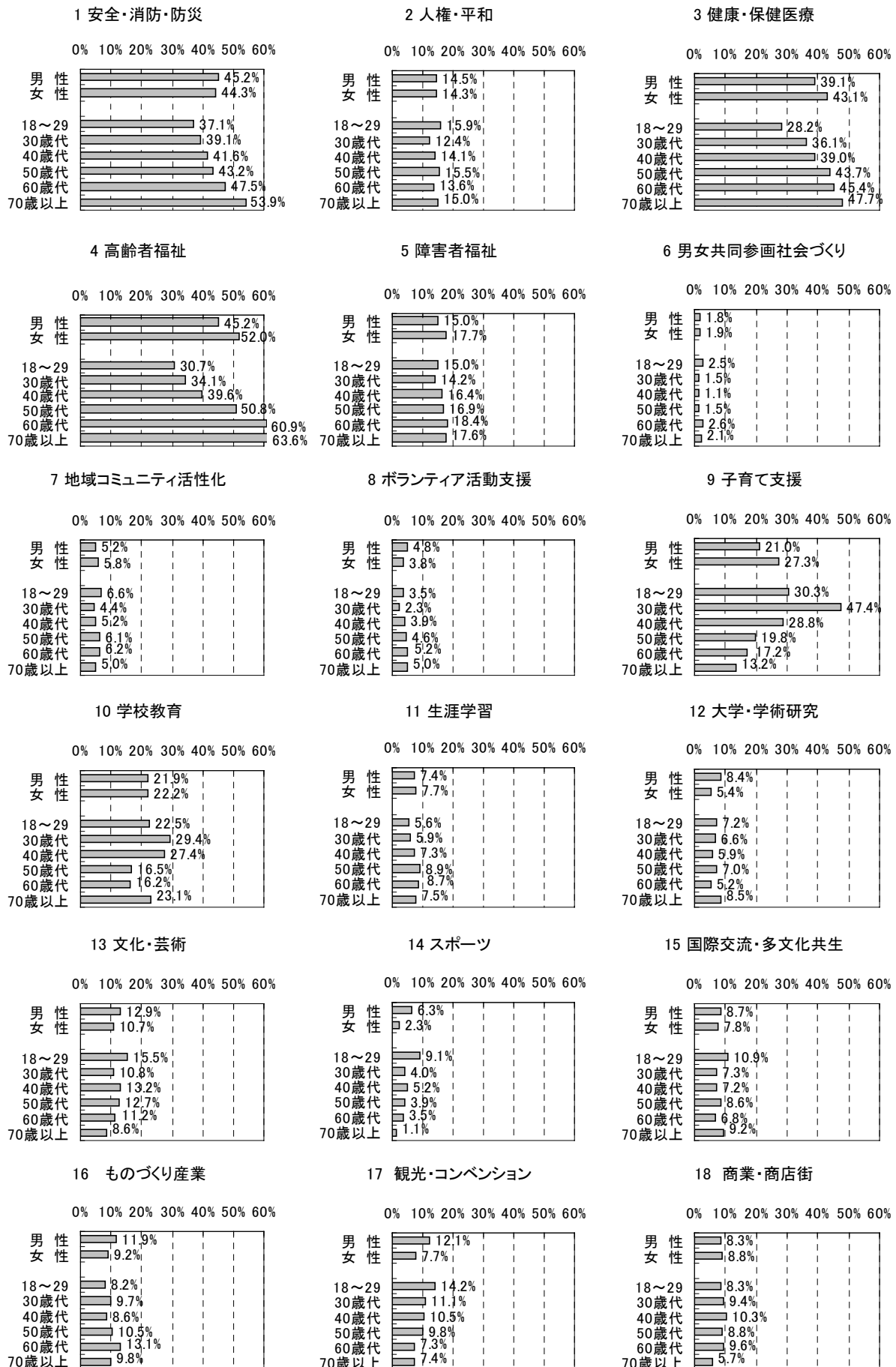
年代別の特徴として、「安全・消防・防災」「健康・保健医療」「高齢者福祉」については、高齢の世代ほど重要と答え、「子育て支援」「学校教育」については30歳代を中心とする子育て世代が重要と答えている。

一方、「町並み・景観」については、おおむね若年層ほど重要とする比率が高い傾向がある。

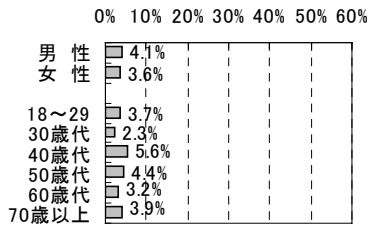
問 19 京都市の施策（分野）の優先度

<性別・年代別>

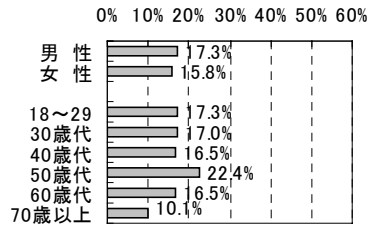
《複数回答》



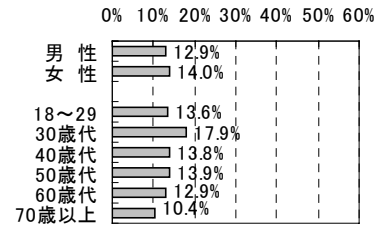
19 農林業



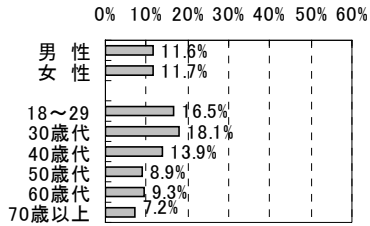
20 雇用創出



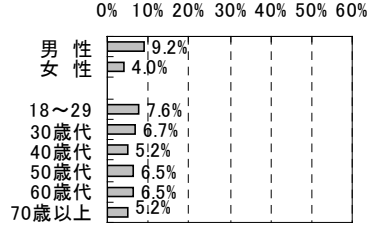
21 住宅・住環境



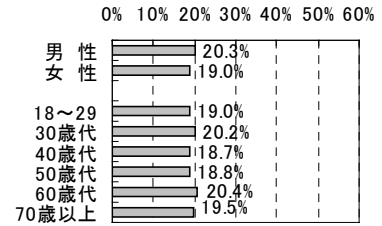
22 公園・緑地



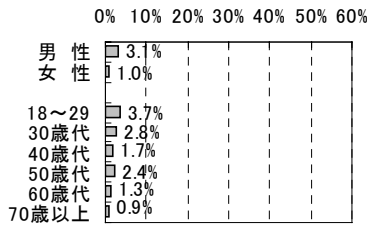
23 都市整備・再開発



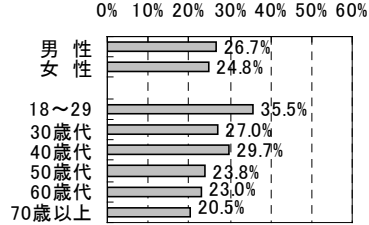
24 交通・道路



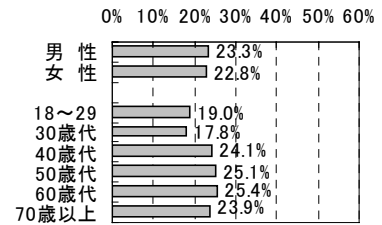
25 情報・通信



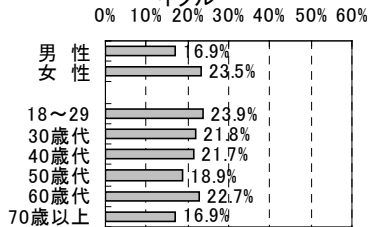
26 町並み・景観



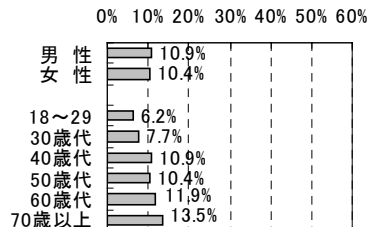
27 環境保全・自然保護



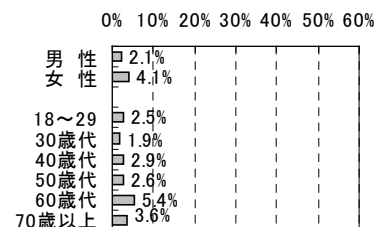
28 まちの美化・ごみ処理・リサイクル



29 青少年育成



30 水道・下水道



(副問) 取組の進ちょくを測る指標

上で選んだ分野について、取組の進み具合を測る「ものさし(指標)」として、ふさわしいとお考えのものがあれば、ご記入下さい(1つで結構です)。

◆子育て支援, 交通・道路, 高齢者福祉, 学校教育, 町並み・景観等の多数の指標が提案

母数=4,828

分野名	提案数
1 安全・消防・防災	44
2 人権・平和	5
3 健康・保健医療	54
4 高齢者福祉	80
5 障害者福祉	30
6 男女共同参画社会づくり	4
7 地域コミュニティ活性化	5
8 ボランティア活動支援	4
9 子育て支援	107
10 学校教育	63
11 生涯学習	11
12 大学・学術研究	11
13 文化・芸術	12
14 スポーツ	15
15 国際交流・多文化共生	10
16 ものづくり産業	10
17 観光・コンベンション	24
18 商業・商店街	10
19 農林業	15
20 雇用創出	72
21 住宅・住環境	15
22 公園・緑地	31
23 都市整備・再開発	6
24 交通・道路	94
25 情報・通信	4
26 町並み・景観	56
27 環境保全・自然保護	28
28 まちの美化・ごみ処理・リサイクル	43
29 青少年育成	10
30 水道・下水道	3
31 その他	11
合計	887

注) 回答に記入された内容は、指標以外に、その分野で求められる施策も多数含まれているため、指標として扱えるものに限って集計した。

(副問) 取組の進ちょくを測る指標(具体的提案内容)

1 安全・消防・防災

火災警報器の購入率	1
火災件数(率)	6
学校耐震化率	1
警察官数	1
交通死亡事故率	1
交通事故件数(率)	1
交番への警察官駐在率	1
交番数	3
災害時の空き部屋把握率	1
子どもの事件件数(率)	2
市民の自覚率	1
事件の解決率	1
消防車進入困難道路率	1
消防出動数	1
耐震補強実施率	2
地域の安全パトロール実施率	2
地域の消火器設置数(率)	1
犯罪件数(率)	12
犯罪検挙率	2
犯罪予防率	1
不法外国人の滞在数(率)	1
隣人把握率	1
総計	44

2 人権・平和

差別事案件数	2
選挙投票率	1
同和支出の割合	1
平和学習開催率	1
総計	5

3 健康・保健医療

24時間受け入れ可能な病院数	1
かかりつけ医のある比率	1
たらい回し回数	1
医師数(患者数当たり、人口当たりなど)	6
医療機関数(人口当たりなど)	4
医療費(保険医療費など)	5
医療費負担率(他市比較、対家計、年代別人口別など)	7
休日、夜間の救急診療数	1
救急、救命医療体制数	1
京北病院の常勤医師数	1
健康・保険医療予算	2
健康維持活動数	1
健康診断、予防接種普及率	1
健康診断受診率	1
健康保険料	3
個人健康レベル(心・体)	1
国保負担感	1
国保負担率(介護保険料含むなど)	2
国民保険料	1
市民検診の項目数	1
市民検診の年回数	1
社保、国保加入率	1
所得当たり医療費負担率	1
成人健診回数	1
長寿率	1
乳児死亡率	1
病院から患者への早期退院依頼率	1
病院で後遺症を持ってもらひばりが続けられる医療制度の普及率	1
平均寿命	2
平均寿命・羅病率	1
閉鎖病院数	1
総計	54

4 高齢者福祉

3世帯同居率	1
シルバー人材センターの仕事の普及率	1
バリアフリー化率(公共施設など)	3
ヘルパー数(人口当たり、70歳以上人口当たり)	2
医療機関数(人口当たり)	1
医療費負担率	4
介護サービスの充実度	1
介護施設数(普及率など)	11
介護報酬	1
健保・介護・年金の個人負担と満足度	1
孤独死	2
戸別訪問(定期)数	1
高齢者、一人暮らしの老人の増加率	1
高齢者の憩える場の数	1
高齢者や障害者の生活満足度、せいかついきいき度	2
高齢者への支援普及率	1
高齢者医療施設充実率	1
高齢者医療費	1
高齢者福祉の充実拡大率	1
高齢者福祉施設(アクセスの良さ、近隣への設置数、新設率など)	12
高齢者福祉施設職員数	1
自殺者数	1
自立して生活している人の年齢別増加数	1
車椅子・乳母車が通れる歩道整備率	1
住宅介護支援率	1
従業者の育成数	1
従業者の所得(満足度、給料水準など)	3
寝たきり老人数(減少率)	1
対高齢者ボランティア数	2
町で出会う笑顔の高齢者数	1
特養施設数(普及率など)	12
特養待機者数	1
特養定員数	1
特養入所待ち期間	2
訪問介護員の離職率	1
満足度	1
総計	80

5 障害者福祉

リフト付バスの普及率	2
バリアフリー化率	3
ヘルプがなくても美術館や映画を見に行く事が出来る	1
高齢者福祉予算比率	1
作業所等への就職率	1
障害者のための大学開校	1
障害者の就業率(公的機関など)	8
障害者の施設利用料	1
障害者の就労できる職場の増加率	1
障害者の働く事業所数	1
障害者向け看護範囲	1
障害者施設への運営補助額	1
障害者施設数(充足度など)	2
障害者宅への訪問回数、時間	1
障害者福祉自己負担率	1
障害者福祉相談機関数	1
職員の障害者福祉への参加率	1
親なきあとの高齢障害者の生活の場	1
養護学校卒業後の障害者の安心して過ごせる場の数	1
総計	30

6 男女共同参画社会づくり

管理職における男女比率	1
女性の正規雇用率	1
女性経営者数	1
男女の就労率	1
総計	4

7 地域コミュニティ活性化

各スポーツ施設の利用者数	1
地域のコミュニティセンター数	1
地域のスポーツ、文化活動実施数	1
地域の各種サークル数	1
町内会・自治会の会員数	1
総計	5

8 ボランティア活動支援

ボランティア活動助成額	1
ボランティア参加率	1
ボランティア数	1
リタイア層の活動の場	1
総計	4

9 子育て支援

18歳未満の人口	1
20才以下の人口の増加	1
3人以上の子どもの出産数(子を持つ世帯数)	1
安心して子ども達が遊べる場所の数	1
医療手当額	1
児童手当、育児給付金額	14
育児相談の箇所数	1
学童保育所、児童館設置数	2
教育費(市立・幼・小・中・高の授業料など)	2
公園の遊具の数	1
産休取得率	1
子どもの医療費(就学前児、児童、生徒など)	3
子育て支援センター児童館の普及率	1
子育て世帯への減税	2
子どものいる家庭での共働き世帯比率	1
子どもを安心して産み育てられる環境の普及率	1
子ども未来館のように無料(もしくは小額)で遊べる施設の数	1
支援施設分布率(人口ではなく、面積当たり)	1
児童人口割合	1
児童数	2
出産時の公的支援額	1
出生率(一人当たり、各地域、区ごと、数など)	26
小学生以下の子どもをもっている母親の就業率	1
待機児童数(待機率、保育所・学童保育)	12
低年齢の犯罪発生率	1
乳幼児医療の支援率	1
妊婦健診	3
病児保育が出来る場所数	1
不妊治療補助	1
保育士数(対子ども数)	1
保育所・学童保育に対する希望の充足度	1
保育所(学童保育所、公立、対児童数など)	16
保育料負担	2
母親教室数	1
総計	107

注) 趣旨を変えない範囲で表現をそろえた

10 学校教育

「良い」と言われる学校数	1
30人学級普及率	4
各種学校への補助金	1
学校数	1
学習塾への親の依存率	1
学生数増加率	1
学力	8
学力テスト	3
京大への進学率(公立高校からの)	1
教育水準(学力、道德、健康)	1
教員の児童・生徒に対する愛情度	1
教員数	1
高校までの学術系作品提出率	1
高校卒業及び中退の割合	1
子どもの(心身共に)健全育成率	1
児童・生徒のアンケートによる公教育の充実度	1
児童・生徒数に対する教員数	2
小・中学校教員の充実と待遇	1
小学生の「読み書きソロバン」の習得率	1
小中学校の成績	1
少人数学級普及率	2
図書室蔵書数	1
正規職員1人当りの児童数	1
青少年の犯罪率	1
全国学力テスト	10
大学進学率(国公立、在京大学への)	7
徒歩で通学出来る学校	1
特色ある学校教育カリキュラム数(校数)	3
犯罪発生率	1
不登校率	1
勉強、スポーツの順位付け	1
保護者の参観日などの出席率	1
総計	63

11 生涯学習

50才以上の就学率	1
高齢者の大学就学率	1
市民1人当たりの教育施設の割合	1
身近な図書館(室)の数	1
生涯学習講座数	2
生涯学習講座数(利用率)	1
大学の開かれた講座数	1
大学夏期講習参加人員	1
誰でも参加できる講演会などの回数	1
知的水準	1
総計	11

12 大学・学術研究

ノーベル賞受賞者数	3
外国人留学生への学習サポーター数	1
学生数	2
研究発表の場の数	1
大学・企業共同研究数(開発、新事業展開数など)	2
留学生の数	1
若者の定着率	1
総計	11

13 文化・芸術

会館・ホール数	1
京都市出身の職業芸術家の輩出数	1
祭などの市民参加の普及率	1
図書関数	1
伝統文化の継承者数	1
美術・博物館の無料開放数	1
分野別教室数	1
文化・芸術イベント開催数	2
文化・芸術施設数	2
無料(低料金)で使えるスペースの数	1
総計	12

14 スポーツ

スポーツ施設の普及率、活用度	1
スポーツ施設数	6
スポーツ施設利用率	1
プロスポーツチーム数	1
球技専用スポーツ施設数	2
芸術活動への支給金額	1
市民プール数	1
団体の総合順位	1
肥満率	1
総計	15

15 国際交流・多文化共生

外国人の各分野への貢献率(参加)	1
外国人移住率	1
外国人観光客数	2
外国人居住人口(比率など)	5
外国人交流人数	1
総計	10

16 ものづくり産業

2次産業従事人口比率	1
ベンチャー企業創業数	1
開業率	1
経済発展	1
産学協同事業の事業化数	1
職人の育成数	1
地場企業の国内生産シェア	1
伝統工芸師の多さ	1
伝統産業人材継承数	2
総計	10

17 観光・コンベンション

コンサート開催数	1
パークアンドライドの普及率	1
わかり易い観光案内板の設置率	1
外国語での標記率	1
外国語で案内できる人の普及率	1
外国人観光客数(率)	1
観光案内板設置数	1
観光客のリピーター率	2
観光客数(月間、年間など)	10
観光収入率	1
観光地の駐車場整備率	1
宿泊施設稼働率	1
世界観光競争力ランキング	1
年間総観光歳入	1
総計	24

18 商業・商店街

1店舗あたりの平均営業年数	1
京都市(府)に本社をおく商業主の売上高の割合	1
個人商店倒産率	1
商店街への来客数	1
商店街空き店舗比率	4
中小企業倒産率	1
町家店舗数	1
総計	10

19 農林業

休耕田率	2
国産材(地元林)使用普及率	1
市街地・近郊農園の存続度	1
就業者の平均年令	1
食糧自給率(米、木材など)	5
地産地消率(野菜、林業など)	3
農地面積	1
農地率	1
総計	15

20 雇用創出

外資系企業誘致数	1
各世代の失業率	1
企業誘致数	1
起業率	2
求人倍率	3
京都企業の他県流出率	1
業種別就業者数	1
雇用率(20代、65歳以上、高齢者、正規雇用など)	15
四条河原町の人の数	1
市在住勤労者数の市内勤務比率	1
市税の収入アップ率	1
失業者数	1
失業率	28
若者の働く場	1
手仕事職人育成数(大工・左官・友禅・紋等)	1
就業人口(就業率、正規など)	6
女性の就業率	1
正規雇用就労者数	1
正社員比率	1
生活水準	1
青少年の就職率	1
不安定雇用数	2
総計	72

21 住宅・住環境

アパート・マンション戸数	1
公営住宅数	2
持ち家率	1
収入に占める住居比率	1
住みやすさ、住みたい町ランキング	1
住宅価格、家賃価格の水準	1
新規移住率	1
新築住宅の価格下落率	1
人、自転車、車が安心して通れる道路率	1
宅地の緑地比率	1
電線類地中化率	1
都市ガス普及率	1
緑化率	1
隣接する家の間隔	1
総計	15

22 公園・緑地

公園・緑地数	1
公園・緑地満足度	1
公園・緑地面積(人口当たり、比率など)	11
公園利用者数	1
子どもが安全に遊べる公園	3
子どもが安全に遊べる場所	1
植樹数とベンチの数	1
身近な公園・緑地	3
大きな公園の数	1
日常的清掃行き届き率	1
防災公園(避難場所・延焼防止)	1
利用者用の駐車場	1
緑化率	4
老人や子どもが安心して遊べる場所	1
総計	31

23 都市整備・再開発

1人当り投資額	1
空き地活用率	1
自転車道整備率	1
渋滞率	2
歩道整備率(広幅員道路)	1
総計	6

24 交通・道路

アイドリングストップの徹底率	1
タクシーによる交通渋滞状況の影響	1
つぎはぎのない道路の普及率	1
バリアフリー化率(段差のない歩道、駅)	2
マイカー保有率	1
違法駐車・駐輪の検挙率	1
各ターミナルの放置自転車の整理	1
各交通機関の運行の普及率	1
各世帯の移動にかかる時間・コスト	1
観光移動にかかる時間	1
京都市中心部への移動時間	1
交通事故数	1
公共交通機関の運賃	1
公共駐車場数	2
公衆トイレ設置	1
行政区別交通機関の普及率(公平に)	1
最寄りの地下鉄駅までの時間	1
市バス・地下鉄の便利用度	1
市バスの市民利用率	1
市バス定時運行	1
市バス普及率	1
自家用車保有率	1
自転車駐輪場の私鉄沿線普及率	1
自転車道の数	1
自転車道整備率	2
自転車用レーン整備率	1
自動車・自転車・歩行者のモラル認識度	1
主要駅における駐輪場整備	1
周辺部(右京・西京・伏見)等の交通量	1
周辺部の道路・歩道の整備状況	1
終電前後の市バスの利便性・効率	1
渋滞による停車時間	1
渋滞率(観光、通勤時間帯、都心部、東大路など)	1
所要時間	1
他府県ナンバー車(乗用)の量	1
地下鉄延伸	9
地道率(非アスファルト)	1
駐車、駐輪場数	1
駐輪場(利用率など)	3
通勤時間(地下鉄)	1
通勤通学公共交通機関利用率	1
道路整備率	10
南部・別の人口割合とバス・地下鉄の人口当たり投下資本額	1
歩行者の安心感	1
歩道整備率	2
無意味な工事数	1
総計	94

25 情報・通信

インターネット普及率(世帯普及率など)	2
過疎地域の光ファイバー普及率	1
無線LANカバー地域率	1
総計	4

26 町並み・景観

パチンコ屋等のネオンの数	1
違法看板の撤去率・違法建物撤去率	1
完了検査の率	1
観光客数	1
規制の厳守率	1
共同住宅(マンション)建蔽率	1
空の向こうに京都周辺の山々が見えるかどうか	1
景観の良さ	1
景観上非常に悪い建物数	1
建造物のビルの占有率	1
建築物の景観基準の取り締まり率	1
建物の高さ	3
古都としての美しい町並み保存	2
五山送り火が見える箇所	2
高層ビル・マンションの減少	2
高層ビルの専有面積	1
山のみえる町	1
持ち家率	1
上・中・下京・東山でのマンション着工率	1
植樹、樹木の多い公園の数	1
新規マンション等着工件数(景観条例効果)	1
全国的な人気指数	1
町屋への助成	1
町家の保存率	6
町並み・景観の満足度	1
電線類地中化率	13
美という指標(青少年育成の素)	1
放置自転車数	1
電線類地中率	1
町並み・景観の保護率	4
和風建物の比率	1
総計	56

27 環境保全・自然保護

CO2削減率	5
CO2排出量	3
うぐいすやホトギスの鳴声	1
ごみ減量・リサイクル率	1
ごみ分別収集率	1
スーパーの袋削減率	1
ソーラーシステム・エコシステムの普及率	1
河川の水質(透明度など)	3
空気的美しさチェック(新)防災率	1
光化学スモッグ濃度	1
公園他緑地分布比率(CO2濃度)	1
公用車ハイブリッド車の導入率	1
自分の敷地内に樹木植樹	1
人口1人あたりのCO2排出量	1
川の水質	1
町中のボイ捨てのごみひろい活動	1
東山の森林の保護整備率	1
有害物質の排出量	1
緑化率	1
緑地面積	1
総計	28

28 まちの美化・ごみ処理・リサイクル

ごみの排出量(資源ごみの量など)	2
ごみ収集時間	1
ごみ処理施設の回転率	1
ごみ分別収集率	17
リサイクル率	16
祇園などのごみの散らかり具合	1
公衆便所整備率	1
川のそうじ	1
特に観光地のごみBOX設置数	1
不法投棄の減少	1
放置自転車率	1
総計	43

29 青少年育成

スポーツ少年団、土曜日の公開授業	1
京都で育って他県に出て行く人数・割合	1
健全な居場所、たまり場(施設)数	1
子どもの数	1
少年・少女のコンビニなどでのたむろ状況	1
青少年の犯罪発生数(率)	5
総計	10

30 水道・下水道

上水道普及率	2
水洗化率	1
総計	3

31 その他

ドッグランの数	1
ペット同伴可能なカフェ、店の普及率	1
公衆トイレの普及率	1
市の負債比率	1
市債の残高	1
情報開示率	1
審議会委員など市民一般公募の枠	1
生活保護不正受給世帯の保護解除率	1
税金の徴収率	1
全人口	1
予算額	1
総計	11

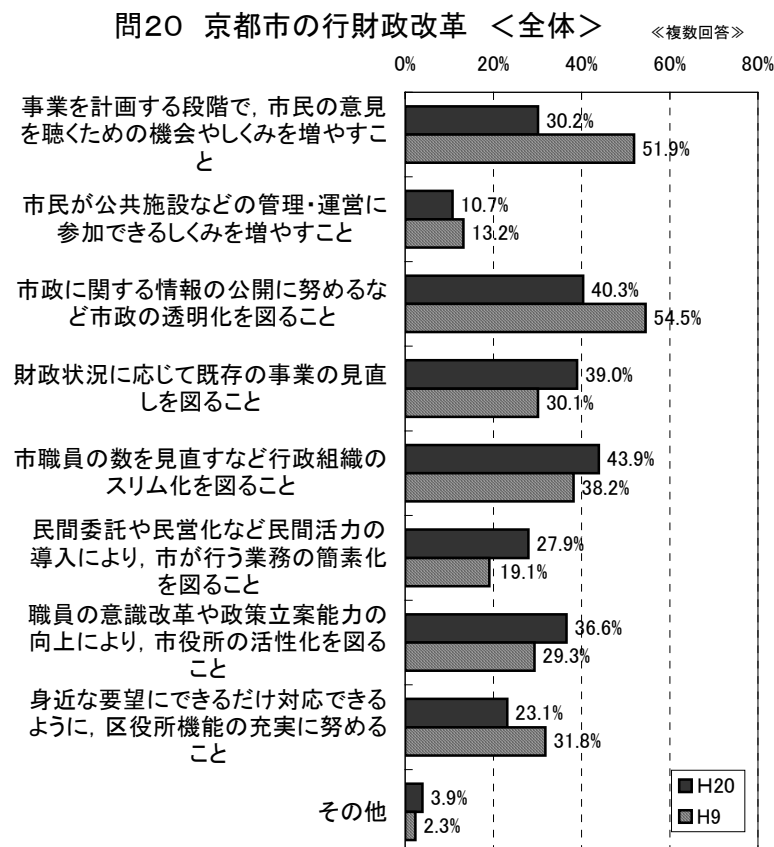
京都市の行財政改革について

問 20 京都市の行財政改革

京都市では、危機的な財政状況の下で、現在、新たな行財政改革に取り組もうとしています。次の項目の中から、行財政改革を進めるに当たって、あなたが特に重要だと思われるものを3つ以内で選び番号に○印をつけてください。

◆行財政改革で重視されていることは、「行政組織のスリム化」(44%)、「市政の透明化」(40%)、「財政状況に応じた事業の見直し」(39%)が上位

母数＝4,828



《全体的傾向及び他調査との比較》

「行政組織のスリム化」、「既存の事業の見直し」など、危機的な財政状況に対する改善策を求める意向が高く、前回調査と比較してもそれらの比率が高くなっている。また、「職員の意識改革や政策立案能力の向上による市役所の活性化」も増加している。一方、「市民の意見を聴くための機会やしくみを増やすこと」や「市政に関する情報の公開」は、前回調査と比較するとややポイントが下がっている。

《性別》

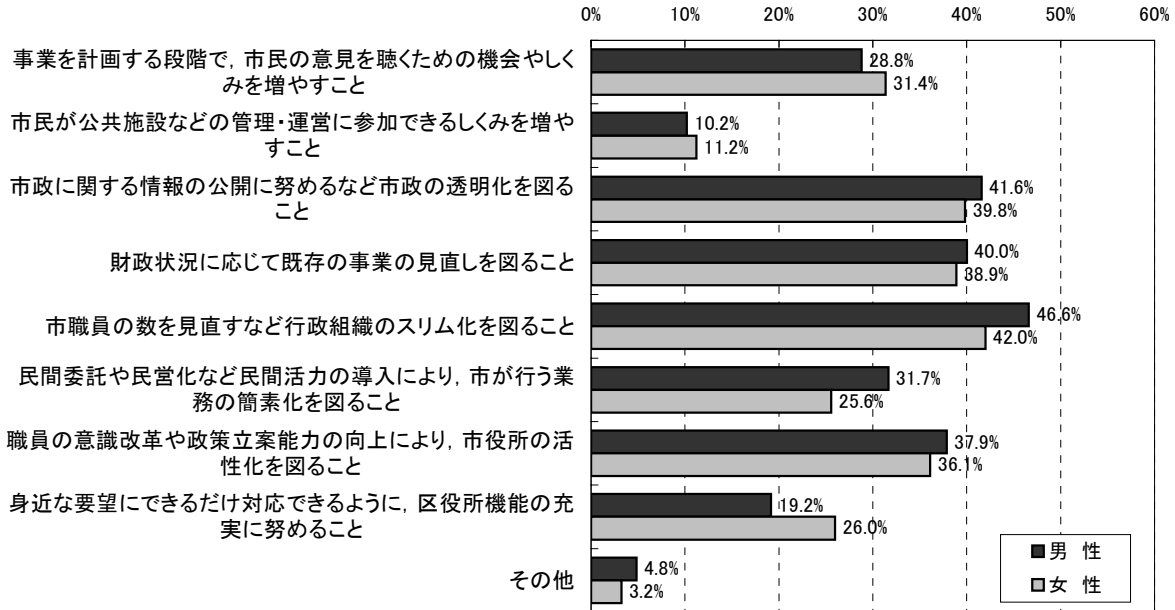
男女別ではあまり違いはないが、男性では「行政組織のスリム化」や「民間活力の導入」が、女性では「区役所機能の充実」がやや高い。

《年代別》

若い世代で市民参加や情報公開に対する意向が高く、30～60歳代の世代では、行財政の効率化に対する意向が高い。

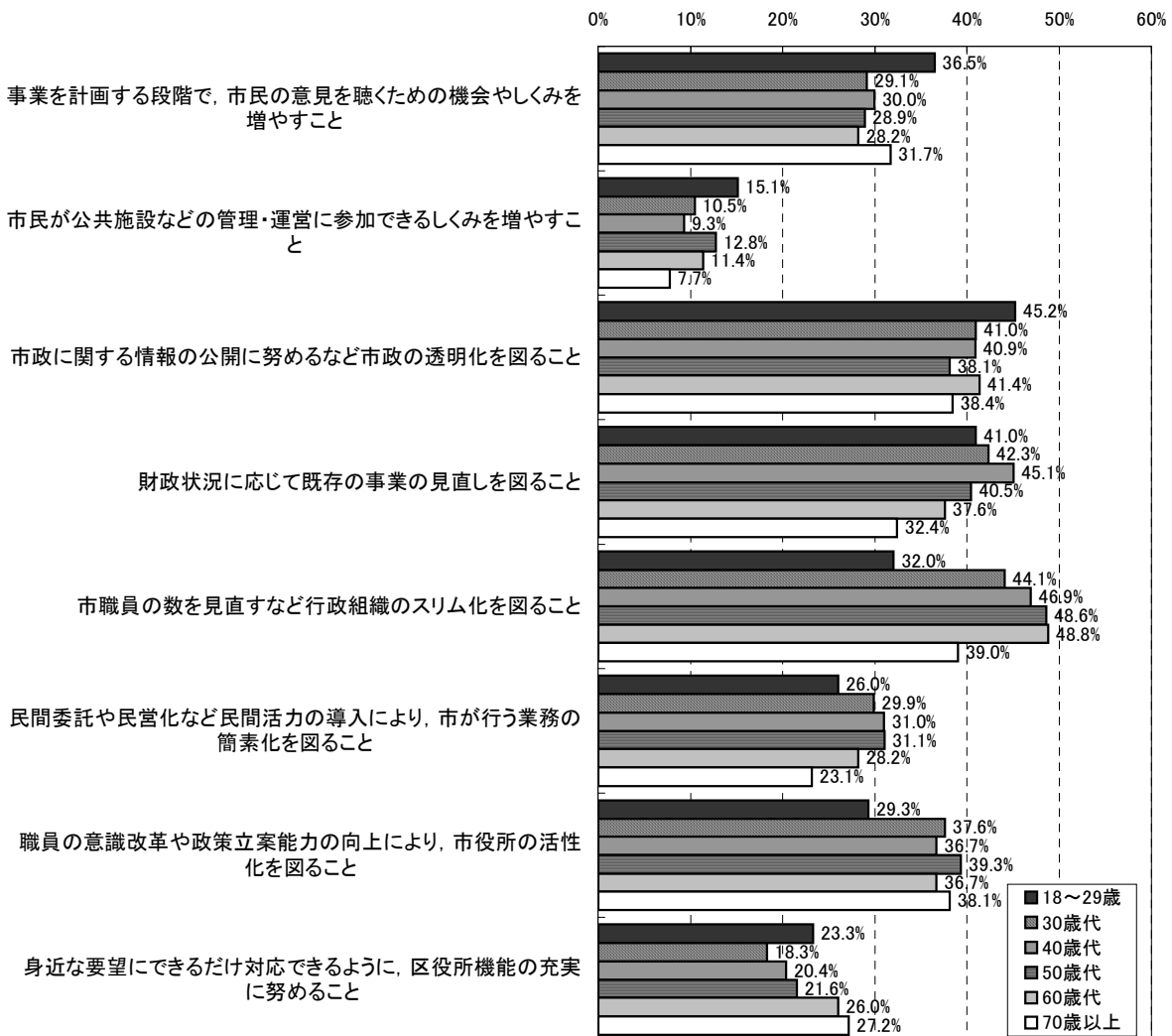
問20 京都市の行財政改革 <性別>

《複数回答》



問20 京都市の行財政改革 <年代別>

《複数回答》



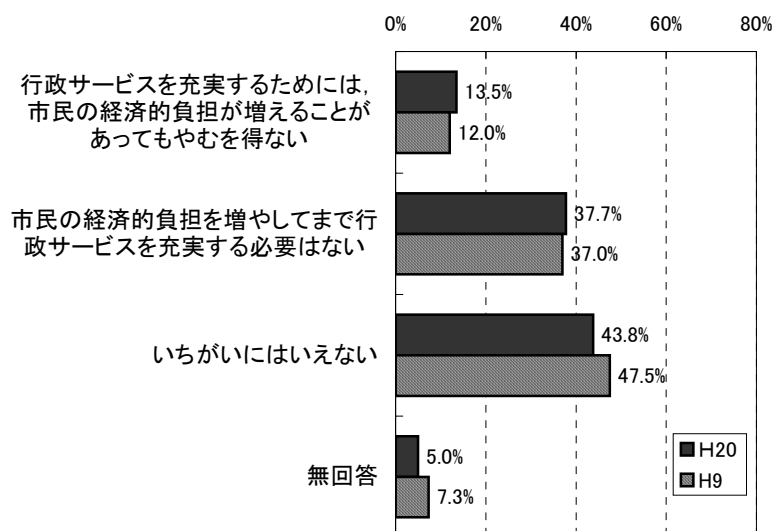
問 21 市民負担と行政サービスの兼ね合い

行政サービスに対する市民の皆さんのご要望は多様化、高度化しており、京都市では、これにお応えしていくため、行財政の効率化に努めていますが、そのうえで市民の皆さんの経済的負担を一定増やす必要に迫られることも考えられます。このことについて、あなたはどのようにお考えになりますか。あなたのお考えに近いものを1つ選び番号に○印をつけてください。

◆経済的負担と行政サービスの兼ね合いは「いちがいにはいけない」(44%)が多いが、「負担を増やしてまでのサービス充実は不要」(38%)がこれに次ぐ

母数=4,828

問21 市民負担と行政サービスの兼ね合い
＜全体＞



《全体的傾向及び他調査との比較》

経済的負担と行政サービスの兼ね合いについて44%の人が「いちがいにはいけない」としているが、「負担を増やしてまでのサービス充実は不要」とする人が38%みられ、経済的負担に対して否定的な人が多い。

前回調査と比べて、あまり違いはない。

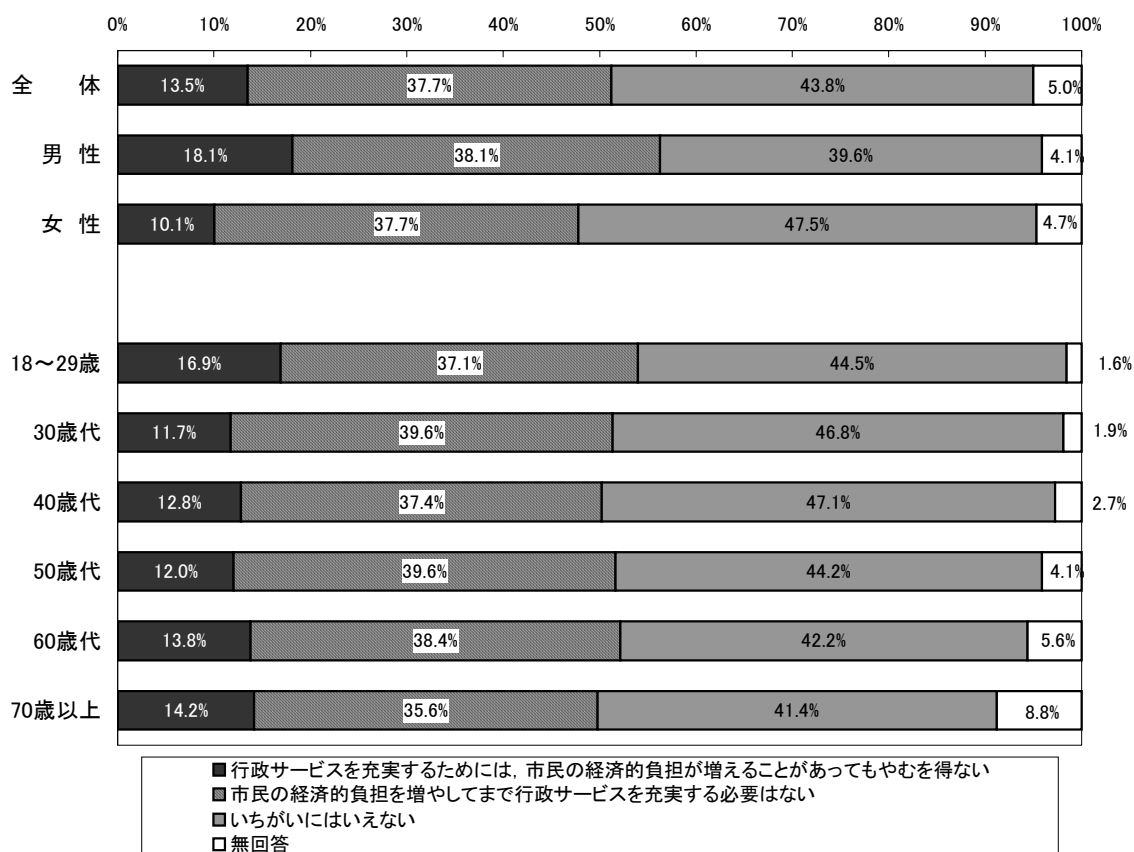
《性別》

男性の方が、「市民の経済負担が増えることがあってもやむを得ない」とする人がやや多い。

《年代別》

年代別では、あまり違いがない。

問21 市民負担と行政サービスの兼ね合い ＜性別・年代別＞



京都市のまちづくりの課題について

問 22 京都市のまちづくりの課題

今後の京都市のまちづくりに関して、次の（ア）から（ウ）の課題についておたずねします。

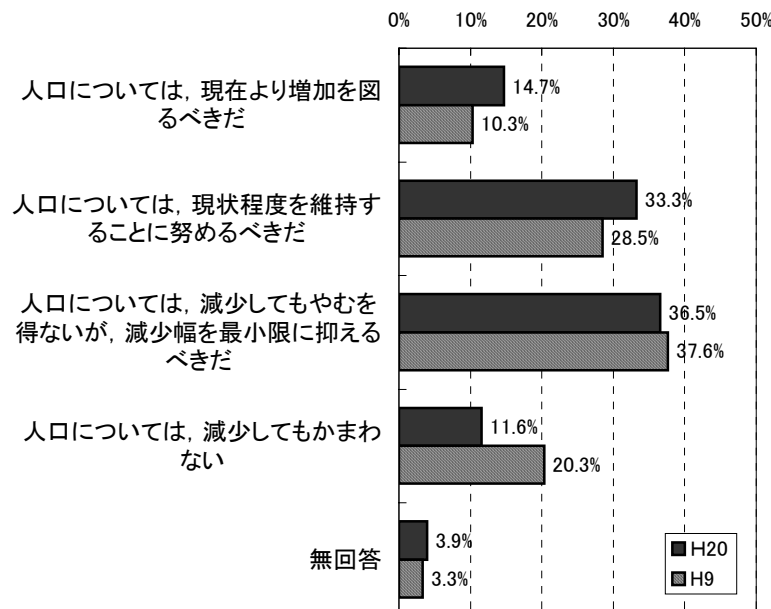
（ア）人口問題（適正人口規模）

今後、日本の総人口は減少していくと言われていますが、京都市でも、現在の少子化などの傾向が続くと仮定すると、人口が減少すると推測されます。京都市の人口について、あなたはどのようにお考えになりますか。あなたのお考えに近いものを1つ選び番号に○印をつけてください。

◆人口については、「減少はやむを得ないが減少幅を最小限に」（37%）、「現状維持」（33%）が多く、「減少してもかまわない」（12%）は少ない

母数＝4,828

問22 京都市のまちづくりの課題
（ア）人口問題（適正人口規模）＜全体＞



《全体的傾向及び他調査との比較》

7割の人が「現状程度を維持することに努めるべき」又は「減少幅を最小限に抑えるべき」と考えており、人口の現状維持を図ることを求める人が多く、「減少してもかまわない」とする人は12%と少ない。

前回調査と比較すると、「現状より増加を図るべき」と「現状程度を維持することに努めるべき」とする人がやや増加している。

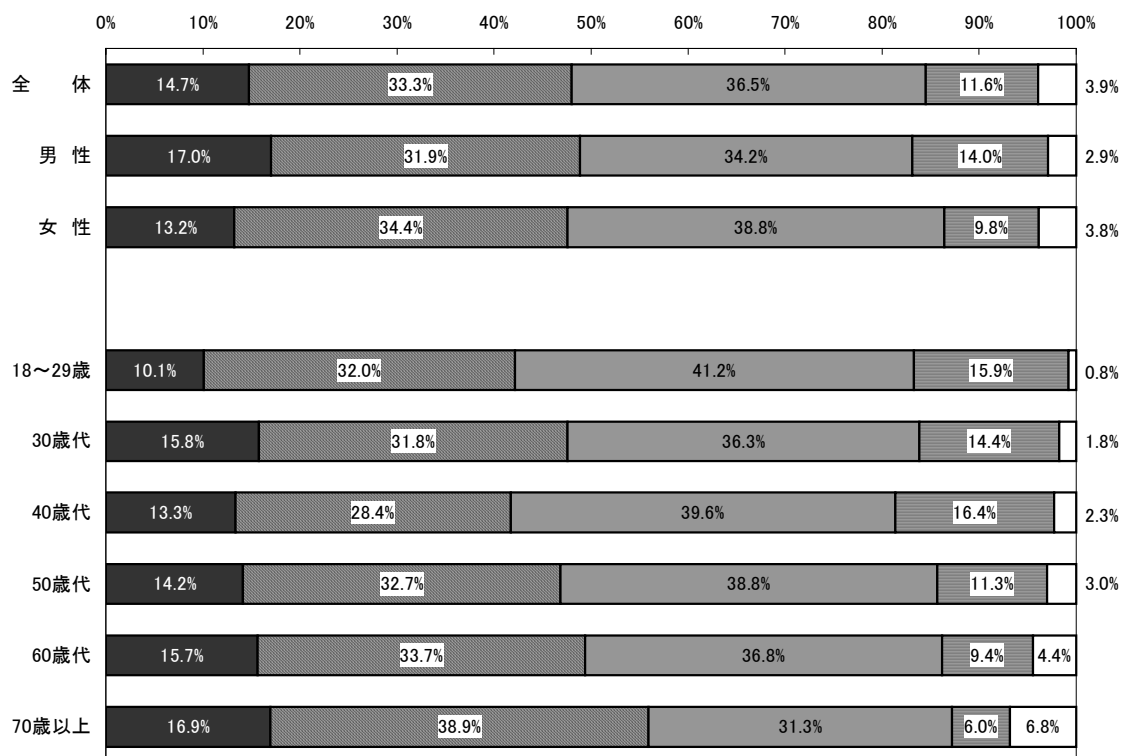
《性別》

男女別ではあまり違いはない。

《年代別》

年代別であまり違いはみられないが、若い世代よりも高齢世代の方が人口維持・増加を求める傾向が見られる。

問22 京都市のまちづくりの課題
(ア)人口問題(適正人口規模)＜性別・年代別＞



- 人口については、現在より増加を図るべきだ
- 人口については、現状程度を維持することに努めるべきだ
- 人口については、減少しても止むを得ないが、減少幅を最小限に抑えるべきだ
- 人口については、減少してもかまわない
- 無回答

(イ) 交通問題

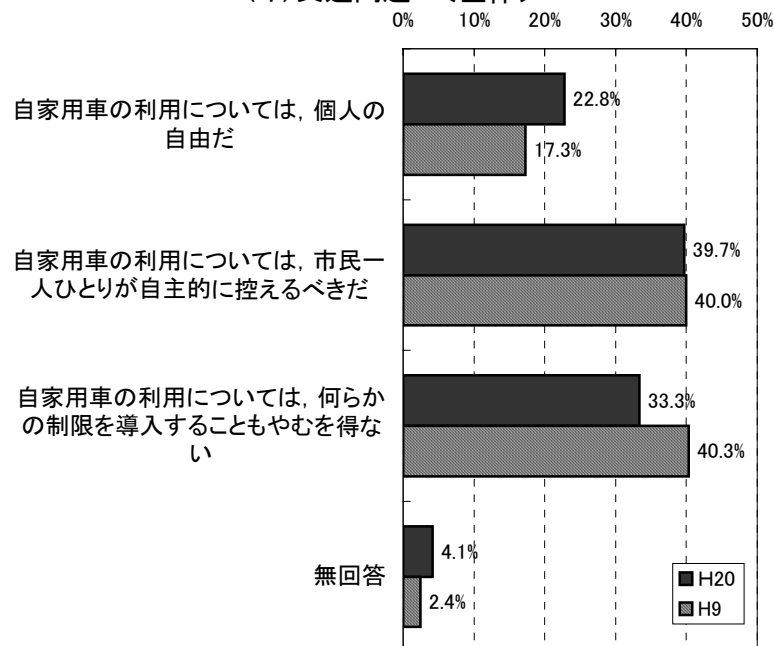
交通問題（渋滞や環境に及ぼす影響など）の解決のため、京都市では、地下鉄や道路網を含めた総合的な交通体系の整備に努めていますが、自家用車の利用について、あなたはどのようにお考えですか。あなたのお考えに近いものを1つ選び番号に○印をつけてください。

◆自家用車の利用について「自主的にひかえるべき」（40%）が最も多く、「何らかの制限を導入することもやむを得ない」（33%）を含めて73%が車利用の抑制に肯定的

母数=4,828

問22 京都市のまちづくりの課題

(イ) 交通問題 <全体>



《全体的傾向及び他調査との比較》

7割以上の方が「自家用車利用を自主的に控えるべき」又は「何らかの制限を導入することもやむを得ない」と考えており、車利用の抑制に肯定的な考えを有する人が大半を占めている。ただし、前回調査と比較すると、「自家用車の利用については個人の自由だ」と考える人がやや増加している。

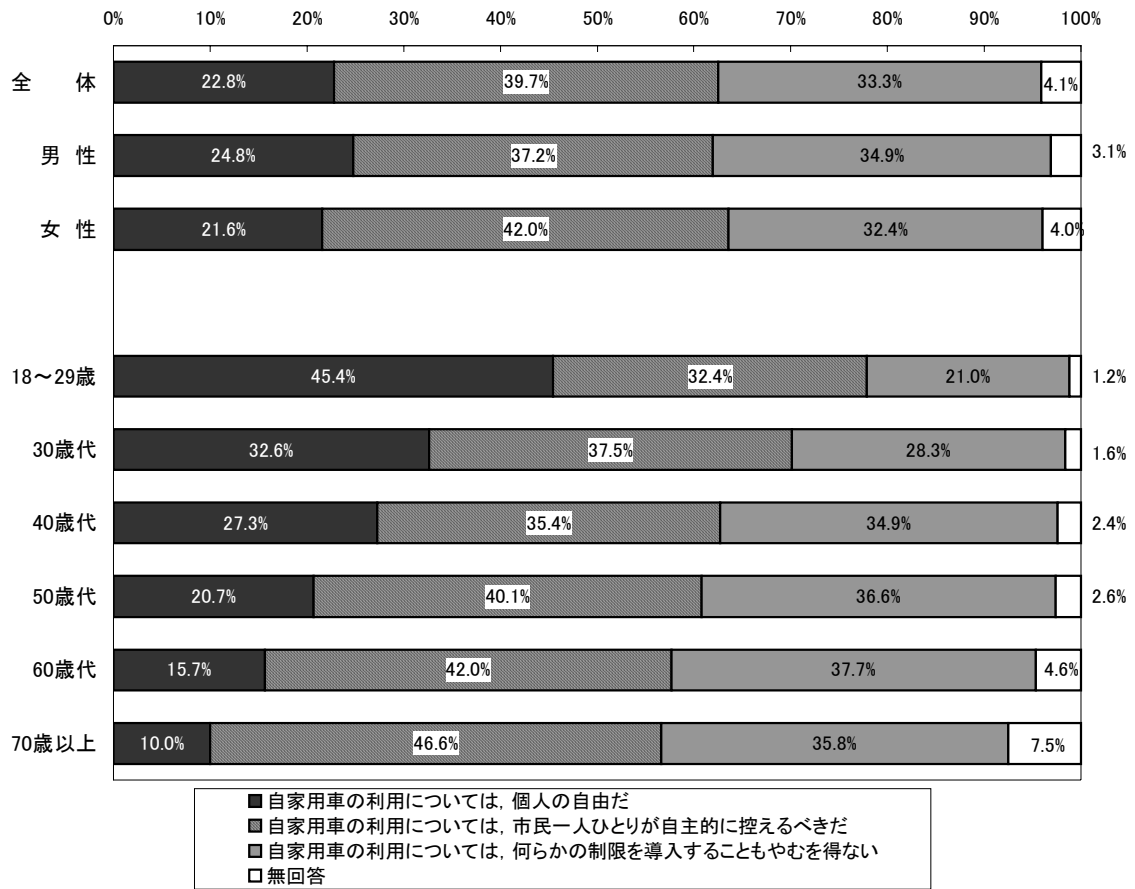
《性別》

男女別ではあまり違いはない。

《年代別》

若い世代ほど、「自家用車の利用は個人の自由」と考える傾向にあり、世代間で自家用車利用に対する考え方に大きな違いがある。

問22 京都市のまちづくりの課題 (イ)交通問題 <性別・年代別>



(ウ) まちづくりの方向性

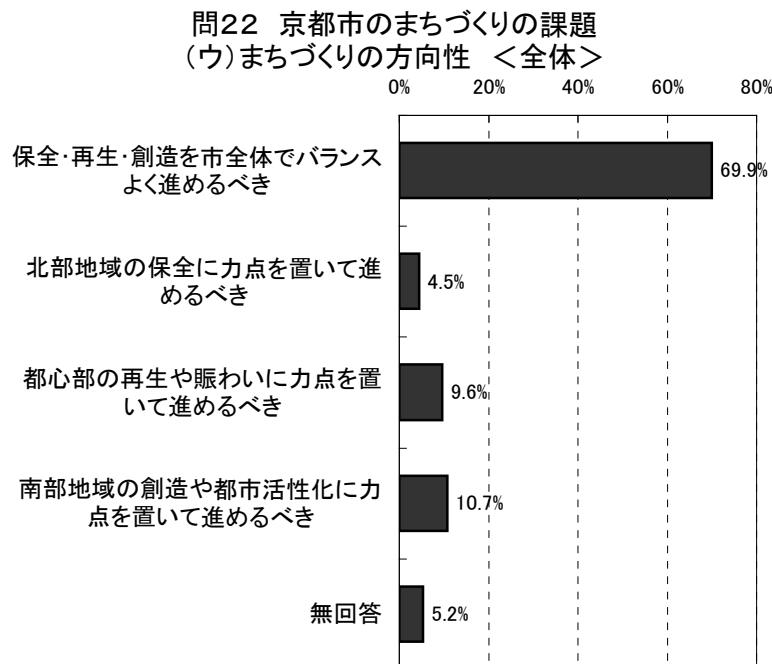
京都市では、北部は「保全」、都心部は「再生」、南部は「創造」をキーワードにまちづくりを進めています*。今後のまちづくりの方向性について、あなたはどのようにお考えですか。あなたのお考えに近いものを1つ選び番号に○印をつけてください。

*「保全・再生・創造」とは？（「京都市基本構想」では次のように述べています）

- 保全** 永い歴史に支えられた自然的風土である三方の山々，文化財や史跡の点在する山麓部，そしてゆとりと景観に恵まれた住宅地の一带は，自然と歴史的な景観の**保全**に努める。
- 再生** 伝統的な町家や町並みが数多く維持され，商業・業務機能が集積し，職・住・文・遊が織り重なる歴史豊かな市街地は，調和を基調とする都心の**再生**に努める。
- 創造** 南部は，高度集積地区を中心に，21世紀の京都の新たな活力を担う**創造**のまちづくりに努める。

◆今後のまちづくりは「保全・再生・創造を市全体でバランスよく進めるべき」（70%）が最も多い

母数＝4,828



《全体的傾向及び他調査との比較》

「保全・再生・創造をバランスよく進める」とする人が7割と大多数を占めている。

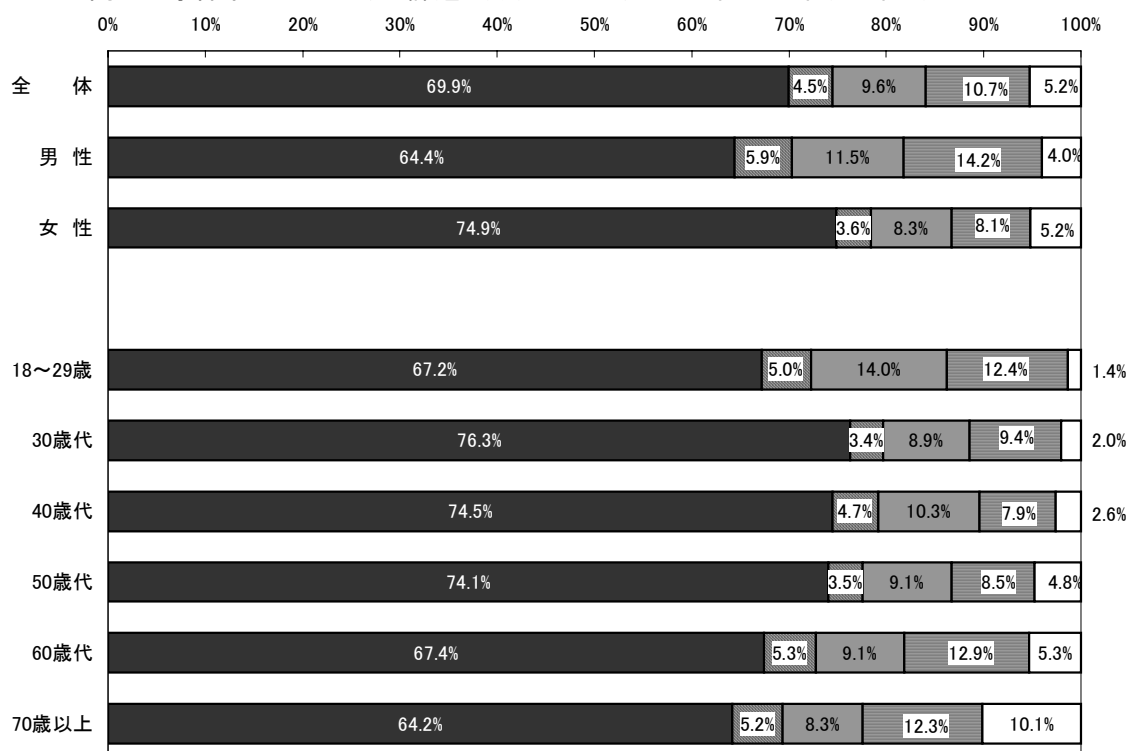
《性別》

男性の方が、「都心部の再生や賑わい」や「南部地域の創造や都市活性化」に力点を置くべきと考える傾向がわずかに高い。

《年代別》

「バランスよく進める」は各年齢とも最も高い項目であるが、30～50歳代で他の年代と比べてやや高くなっている。逆に、「都心部の再生や賑わい」は30未満の若年層で、「南部地域の創造や都市活性化」は若年層や高齢層でわずかに高くなっている。

問22 京都市のまちづくりの課題 (ウ)まちづくりの方向性 <性別・年代別>



- 保全・再生・創造を市全体でバランスよく進めるべき
- 北部地域の保全に力点を置いて進めるべき
- 都心部の再生や賑わいに力点を置いて進めるべき
- 南部地域の創造や都市活性化に力点を置いて進めるべき
- 無回答

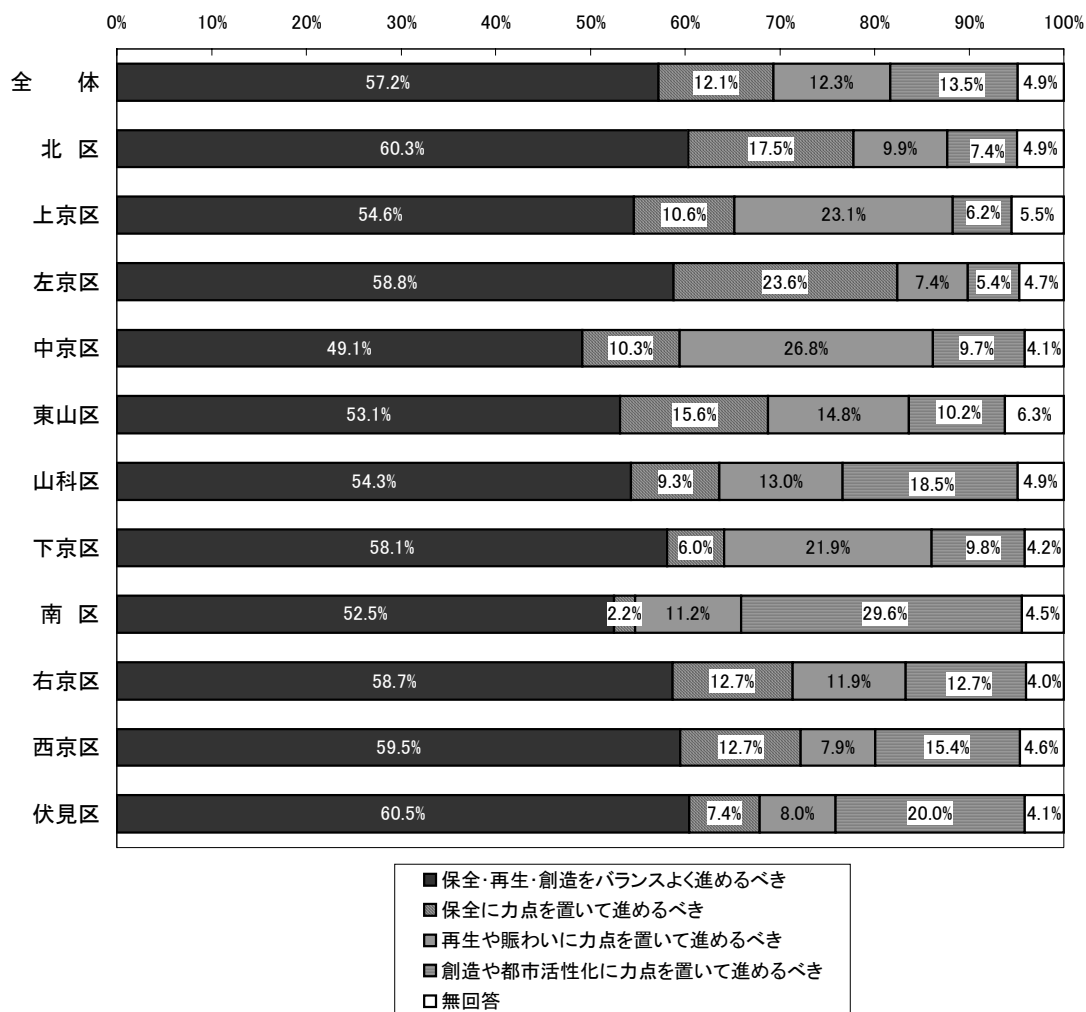
(副問) 居住する行政区の方向性

あなたがお住まいの区では、どのようなまちづくりの方向性を目指すべきとお考えですか。
あなたのお考えに近いものを1つ選び番号に○印をつけてください。

◆居住する行政区においても「保全・再生・創造をバランスよく進めるべき」(57%)
が最も多い

母数=4,828

(副問) 居住する行政区の方向性 <行政区別>



《行政区別》

各区とも「保全・再生・創造をバランスよく進めるべき」が最も多いことに変わりがないが、行政区別に若干の傾向が見られる。

「保全に力点」が多い上位3区は左京区、北区、東山区であり、「再生や賑わいに力点」は中京区、上京区、下京区で多い。また「創造や都市活性化に力点」は南区、伏見区、山科区で多い。

京都市の将来について

問 23 京都市の将来

その他、京都の将来について、ご自由にお書きください。

◆回答者数は1,753人（記入率36%）。厳しい財政状況のなかでの行財政改革，福祉の充実，産業振興や雇用の確保，景観の保全や創造，交通問題の解消など，多様な分野にわたる幅広いご提言やご期待。

＜分野別の主なご意見の例＞

1 多方面にわたるビジョン，願い，提案

◇伝統や文化豊かな京都への誇りや期待を示す意見が多い。

◇その一方で、子育てのしやすさ、高齢者の暮らしやすさ、産業の活性化、バランスある開発と保全のあり方など、様々な面での期待が示されている。

＜意見例＞

○18～29 歳

（男性）

- ・京都は日本一「日本」らしい都市だと思っているので伝統や緑を保持してもらいたい（伏見区）
い。誰もが京都に住んでいる誇りを持てるまちづくりを期待する。
- ・正直、あまり期待していないのが現状。（中京区）
- ・現在の学術研究都市としての地位が維持・発展されていってほしい。そして留学生（西京区）
のあふれる国際色豊かな文化都市になっていってほしい。

（女性）

- ・「京都市に住んでいる」と言えば聞こえはよいが、福祉、医療の制度など充分とはい（北 区）
い難い。「京都に住むとこんなイイ事が」と言う実感があれば京都に愛着が湧く。
- ・京都は歴史ある建物があり、観光客等が多いが、ビルなどが建ち景観を壊している。（山科区）
中途半端な都市開発では、中途半端に歴史あるまちになる。
- ・住んでいる人も観光で来る人も安心できるまち、高齢者の保障や活動を行うべき。（上京区）
地域ぐるみで子どもを見守っていける様になったらよい。
- ・皆が京都に住むこと、働くことに誇りを持てるよう”心”の安らぎを充実させてほ（伏見区）
しい。安全・安心を中心とした、魅力のあるまちにしていきたい。
- ・日本で最も人権を大切にす都市になってほしい。（東山区）
- ・これから結婚し、子どもを育てていく時に、安全な社会と安全なまちづくりを願い、（北 区）
住みよいまちにしてもらえたらと思う。

○30 歳代

（男性）

- ・現在大阪で仕事をしているが、仕事・食生活については（特に子育て）大阪に負け（右京区）
ている気がする。もう少し魅力のある京都市になってほしい。
- ・守るべきものは守る。変えるべきことは変える。伝統が息づき、最先端技術をもつ（下京区）

まち。歴史的に見ても京都はそうあるべき都市。

- ・京都市との合併後、インフラ整備、行政サービスの低下が著しい。もっと細部にまで行き届く行政を切望する。（右京区）
- ・子が重病にかかった時の給付金等が一番助かった。親として、困った時に頼りになる行政、住んで良かったと思える京都市であってほしい。（伏見区）

（女性）

- ・京都は観光第一、住むことはその次という印象。他の都市から越してきた者として（中京区）は、これまで当たり前だった環境が京都にはないので残念。
- ・いろんな立場の人が、不安なく暮らせるまちであってほしい。市は、景観保全や商店の深夜営業の問題など市民をしばりつけないように。（山科区）
- ・将来は少子高齢化が現在より進むと言われている。そうなったときに元気で活躍する高齢者が多い、元気な京都である事を祈る。（伏見区）
- ・京都はまちなみや文化財など優れた点は多いが、子育てにはあまりよくない。子どもを産み育て易い環境を全国に先がけてつくってほしい。（無回答）
- ・「京都の将来」よりも、今現在、1年後、2年後の市民生活を掌握し改善すべき。個人の安定した生活なしに京都の将来は語れない。（山科区）

○40 歳代

（男性）

- ・京都駅周辺1kmの再開発が一番京都の将来を表す象徴的な風景になるのでは。特に八条口の方はもっと商業を再開発してほしい。（南区）
- ・私たち貧乏人が汗水流して働いても、安月給で暮らしていかなければならない。そんな私たちが報われる様な京都であるように。（伏見区）
- ・大学を集中させ、まちを活気づけ、安いスーパーなど物価を低くして、賑わい、住みやすい場所とし、その中でも観光設備を充実させる。（左京区）
- ・南部に京都市役所や上場企業などを集中し、人の流れをつくる。北は保存に力を入れ、南を発展させて観光都市、商業都市として機能を高める。（左京区）

（女性）

- ・保全地域と発展地域を明確にし、伝統産業だけでなく、ITやユビキタスなど将来に向けた産業も支援し、全体が豊かになることも考える。（伏見区）
- ・京都は昭和のはじめに戻るべき。日本のアイデンティティを認識してこそ国際化。新しく生まれ変わることは、はじめにもどることだ。（中京区）
- ・古い建物も残し（北部だけではなく）、公園や緑豊かなまちづくりを。ヨーロッパのような精神を見習ったまちづくりを。（右京区）
- ・世界的に有名な京都だからこそ、社会の流れに流されず、原則をしっかりとった独自の価値観で運営していくまちになってほしい。（北区）

○50 歳代

（男性）

- ・京都に住まう住人の一人として「京都の住民で良かった」と誇りに思える京都であり続けてほしい。（右京区）
- ・キーワードは「バランス＝調和」。京都は、伝統、国際、学術、自然、まちなみ、先（上京区）

端技術等々さまざまな分野でバランスがとれてすばらしい。

- ・歴史、文化をそなえた日本一すばらしい都。大都市のまねをせず京都だからできる、(上京区)
新しい都づくりをしてほしい。

(女性)

- ・自然を破壊しないでほしい。文化や歴史を守る都市に。子どもや高齢者、障害者、(伏見区)
弱い立場の人を守る京都にしてほしい。
- ・将来京都市が発展して世界のどこよりも美しいまちであること。いろんなことで住(右京区)
みやすい明るいまちづくりをしてほしい。
- ・町中で子どもの遊ぶ声あまり聞けない。子ども達の楽しそうな声がうるさいくら(上京区)
いに聞こえる様なまちになれば。

○60 歳代

(男性)

- ・社会全体的に行儀、節度が欠けている。小さい時から親が教育出来るよう自身が向(山科区)
上すべき。京都が良くなる原点だと思う。
- ・国際観光都市。京都議定書の地、京都としてふさわしいまちづくりの推進。(上京区)
- ・古き良きものを大切に、バランスのよい都市開発をして、落ち着いたまちづくり(東山区)
を目指してほしい。
- ・行政は公共福祉の原点に立ち返り、変革の方向を把握し、行政職員に対する市民の(右京区)
信頼を回復する中で正しい施策が見つかる。
- ・国際都市としてふさわしいまちなみと、それを維持するシステムの構築が大切。旧(西京区)
市内には新交通を導入し、世界一の観光都市を目指してほしい。

(女性)

- ・いつまでも日本人のふるさとの立場の京都であってほしい。高齢者にとって住みや(西京区)
すい都市であってほしい。
- ・最近町家や飲食、ファッション、映画館など、お洒落な店も増えているが、年寄(山科区)
りが行く所がない。高齢者がいつでも集まれる場所があれば。
- ・京都市基本構想の内容に尽きると思うのでよろしく。(西京区)

○70 歳代～

(男性)

- ・大京都市構想＝八幡市・久御山町・大山崎町・長岡京市・向日市・宇治市を合併し、(伏見区)
京都盆地を一括行政区域とする。

(女性)

- ・市・南西部に住むものとして計画・開発から置き去りにされていると感じる。地域(伏見区)
的に平等に進めてほしい。
- ・市政に携わる方に市民が感謝し思いやりの気持ちを持って協力していければ良い。(伏見区)
- ・伝統産業の地盤を固め、観光都市としての寺院等の協力を強めて市民全体が古都京(左京区)
都の発展に努力すべき。
- ・美しい自然環境と歴史に恵まれた京都を、市民が健全で知性豊かな文化的な生活向(右京区)
上のため観光都市として経済の活性化を図る。
- ・伝統と新しい発想を持ち合わせノーベル賞を受ける科学者も出す素晴らしい都市を(伏見区)

誇りに思う。少子化と学力の低下に不安を覚える。

- ・特色あるまちづくりを。例えば学生，研究者，芸術家等が集う学園都市及び歴史的遺産と環境を整備し観光都市として特化したまちづくり。（西京区）
- ・京都の情報・行政に関して詳しい理解をしていない。地に足のついた未来を望んでいる。（山科区）

2 主に行財政運営について

◇厳しい財政状況の中での行財政改革についての積極的な意見が提案されている。

◇職員不祥事問題の根絶についての意見も多く寄せられている。

<意見例>

○18～29 歳

（女性）

- ・市民からの経済的負担を増やすことを考える前に，まだ削減できるところがあるので，税金を有効に使ってほしい。（右京区）

○30 歳代

（男性）

- ・税金の1割をバウチャー制にして市民が行政サービスを選択して拡充できるようにする。（北 区）

（女性）

- ・ムダな事業を見直して，足りない必要な所に予算を充てる。面倒くさいと思う仕事を簡素化することが大切だと思う。（右京区）
- ・危機的な財政状況の改善と，職員不祥事に対する市民に対する信頼回復・・・将来について考える前に，対応してほしい。（山科区）

○40 歳代

（女性）

- ・行政職員のスリム化，業務の簡素化を実現した後でなければ市民へのさらなる負担増を求めるべきではないと思う。（右京区）

○50 歳代

（男性）

- ・今のままでは，行政はパンクする。もっとムダをなくして計画性をもって全体管理すべき。行政と市民ともっとホンネの話をすることである。（山科区）

（女性）

- ・府と市のどちらかへといつも思うが，無駄だなと思うことがある。もっとわかりやすい市民・府民のための政策を考えてほしい。（左京区）

○60 歳代

（男性）

- ・地方分権が世間の話題に上ると思うが，京都市は是非推進の方に回ってほしい。そのためには行政運営の実力・能力を養ってほしい。（西京区）

（女性）

- ・大阪だけでなく，京都も財政危機である事変わらない。私達の京都も，もっとも（中京区）

っと情報開示をして、市民共々、公家気質から脱すべき。

○70 歳代～

(男性)

- ・まだまだお役所気質が抜けていない。民間に委託できる部門は委託すべき。職員の (右京区)
方もやる気が生まれない。活気ある明るい役所であってほしい。
- ・現地での話し合い、現場での意見を聞く。色々と市役所内での問題をまず 0 にする (右京区)
こと。京都市の職員の態度の再教育をしてほしい。

3 主に環境について

◇京都議定書の地として、CO2 削減をはじめ環境問題への一層の取組が求められている。

◇生活環境の充実が求められている。

<意見例>

○18～29 歳

(女性)

- ・京都議定書の目標を達成できるように環境問題にもっと力をいれてほしい。 (左京区)

○30 歳代

(女性)

- ・歴史的にも意味のある京都を誇りたいと思っているので、自然とまちなみの美しい (北 区)
京都を維持してほしい。

○40 歳代

(女性)

- ・COP3, 京都議定書等, 国際的に環境問題に対する意識が高い都市というイメージが (中京区)
ありながら, 実体は伴っていないのでは。
- ・街路樹を毎年手入れしてほしい。落葉の清掃が大変。また, 遊び場がないので, 作 (北 区)
ってほしい。鴨川の草も除去してほしい。

○50 歳代

(女性)

- ・歴史や古いまちなみ, 奥ゆかしい人の心などを大切にし, ものを大切にする心を持 (伏見区)
ち続ける市民となってほしい。

○60 歳代

(男性)

- ・嵐山に住んで 45 年になるが, 河川の汚れがひどく昔が懐かしい。観光客が多い所な (西京区)
のでイメージダウンにならない施策を。
- ・地球規模の環境保全が問題視されているが, 日本はキャップが無く削減量は自己申 (左京区)
告となっている。CO2 削減目標達成は疑わしい。

4 主に生活, 文化について

◇子育てのしやすさ, 高齢者が安心して暮せる条件の向上, 生活しやすい地域環境づくりなどが求められている。

◇地域コミュニティの重要性に関する意見も多い。

<意見例>

○18～29 歳

(女性)

- ・以前生活していた市と比べ、地域間格差（環境、交通など）が大きい。地域による（伏見区）格差をなくし、安心して暮らせるまちになってほしい。
- ・伝統的な祭りや行事は維持し続けてほしい。若手の可能性を表現出来る場所がほしい（左京区）
い。（安価もしくはフリースペース）

○30 歳代

(男性)

- ・最近、犯罪が増加しており、どの地域でも住みにくい環境となってきた。もっ（伏見区）と、女、子どもが安全に安心して歩けるようなまちに。

○40 歳代

(男性)

- ・地域活動の活性化を図ることにより、住民の意欲・意識向上が図れる。地域のコミ（北 区）ュニケーションが活かせる活動の充実を図っていただきたい。
- ・下京区の住宅地の住人は年寄りが多く、商店はすたれ、子どもは少なくなり、住み（下京区）よい将来性のある地域とはいいいにくい。

(女性)

- ・岡崎に住んでいるが子どもが遊べる場所がない。お寺や神社はあるが生活しやす（左京区）いとは言えない。子どもは家で遊んでばかりいる。

○60 歳代

(男性)

- ・日本の伝統・芸術のまちとして世界に誇れるまちであってほしい。日本の良い伝統（北 区）を次の世代に引き継ぐしくみ作りが大切。
- ・地域でお年寄りが楽しく集える場が必要。その為にボランティア活動が重要で、活（北 区）動を支える為に市からの支援をお願いしたい。

(女性)

- ・地域活動や自治会役員はいつも同じ人、寄付活動は強制と同じ。しがらみにとらわ（伏見区）れない、自由参加で声を上げられるまちになればよいのに。
- ・市民の健康と住みやすさに力を置いた行政を行ってほしい。自治会活動と行政との（右京区）密着度の内容の充実がほしい。

○70 歳代～

(男性)

- ・犯罪・事件・事故の少ない毎日にしてもらいたい。とりわけお年寄りを狙う振り込（中京区）め詐欺が連日報道されている。以前の様に交番があればお年寄りも相談しやすい。

(女性)

- ・高齢者でも知力、体力のある人がおられる。ボランティアとして活躍して頂けるの（北 区）ではないか。市の仕事で出来る事があればお願いしても良いのでは。

5 主に産業、雇用について

◇観光都市としての魅力化や活性化を求める声が多い。

◇伝統産業の回復や近隣の商店街の活性化のほか、大学等を活かした新たな産業の創出についても積極的な意見が寄せられている。

<意見例>

○18～29 歳

(男性)

- ・南部地方を産業の拠点，市中心部は観光産業の整備による観光客誘致，また都市部（中京区）のまちなみ保存等，その方向でまちづくりをする。

(女性)

- ・観光都市として魅力あるまちづくりを。歴史ある建物等伝統を守り，芸術性あふれ（東山区）る建物を増やし“京都らしさ”“日本の代表的な都市”を意識したまちづくりを。

○40 歳代

(女性)

- ・伝統産業について，もっと誇りを持てる外国のマエストロと呼ばれるような雰囲気（下京区）にしていかななくては。まず京都が見本を示す。
- ・商店街の空き店舗が気になる。子どもが安全でイキイキと走り回れるような環境に（右京区）なることを願う。

○50 歳代

(男性)

- ・農業について，せめて市民が消費する分は市内や府内で作れるよう，農家を育てる（下京区）必要がある。緑化や食育にも役立つ。
- ・税金を上げるため，観光や商業，小売業を規制せずに推進し，お金持ちの豊かな自（上京区）由で明るい都市づくりをしていってほしい。

(女性)

- ・職を探す際，あまりにも派遣が多い点，驚き，疑問に思っている。国の問題とせず（無回答）に，対策を立ててほしい。

○70 歳代～

(男性)

- ・観光重点施策をとるからには外国人に便利な交通行政とすべき。日本人だけに親切（北 区）な観光行政では国際都市にはなれない。
- ・京都は西陣織，清水焼など伝統産業の都市である。最近では昔の様な輝きがないの（東山区）はなぜか。昔の光を取り戻したい。
- ・京都市には京大を筆頭とした学問の拠点がある。そこで，市も援助して世界的な基（右京区）本特許の研究・開発を進めてはどうか。

6 主に健康、福祉について

◇高齢者福祉，障害者福祉，児童福祉等の充実に関する切実な声が寄せられている。

<意見例>

○18～29 歳

(男性)

- ・軽度の知的障害に対する福祉サービスが少ない。軽度の方が働けるのに、諸税の減免額が重度の人より少ないのはおかしい。改善すべき。(北 区)

○30 歳代

(女性)

- ・保育園が少ない。少子化の問題は深刻だが、産んでも働けない人も多いのではない(伏見区)か。子育てに優しいまちづくりも考えてもらいたい。

○40 歳代

(女性)

- ・特養はまだ充分でなく、老々介護の問題が大変でその間に周りが病気になる事もある(北 区)。家族のケアまで視野にいった福祉を進めてほしい。

○50 歳代

(男性)

- ・国民健康保険料が高すぎる。大変負担に感じる。(右京区)

○60 歳代

(男性)

- ・社会保障、医療の充実、緊急医療(病院、医師間のネットワーク)。都市としてのサービス、安心して暮らせるまち。(下京区)

○70 歳代～

(男性)

- ・障害者、老人、弱者の住みよいまちにしてほしい。バリアフリーにすると行ってから大分経つが、進んでいない様に思う。(山科区)

(女性)

- ・核家族化している現状、老人家族が増す一方、安心して老後が過ごせる施設を増やしてほしい。(西京区)

7 主にまち、景観、防災について

◇京都の歴史や文化の保全が重視され、景観条例について評価する声が多い反面、厳しくなりすぎたという声もある。

◇地震等の自然災害への不安も表明されている。

<意見例>

○18～29 歳

(男性)

- ・寺社仏閣や、まちなみを大切にすべき。今ある景色やまちなみを 100 年後も見られるように、今、規制を強化してもいいのでは。(北 区)

○30 歳代

(男性)

- ・京都市内は日本一建築が困難なまちだと言われる。専門家を交えた自由度の高い景観政策を希望する。(右京区)

○40 歳代

(女性)

- ・景観を現状維持していくため、市民一人一人の意識を変えるべき。便利さや、都市（右京区）開発を優先せず、昔からのまちなみを残してほしい。

○50 歳代

(女性)

- ・「町家町家」と言いすぎ。不自然な京町家が多い。市が規制すべき。寺院などとのバランスを考えて低いまちなみに抑えておくべき。

○60 歳代

(男性)

- ・まちの景観を保ちつつ京都独特の都市づくり。その上で防災に力を入れるまちなみ（山科区）づくり。

(女性)

- ・盛んに町家保存が言われているが、遅きに失した。京都らしさを保つため、町家の修繕保存のために何らかの手を打たなくてはいけない。
- ・歴史的遺産・景観の保全地域と開発推進地域を分けた都市計画を策定し市民の理解、同意の上で実施されることを望む。（中京区）

○70 歳代～

(女性)

- ・地震、自然災害時等、道路が狭く、実際避難できるのか、また集合場所、学校等の建物が堅固で耐震構造になっているのか心配。（右京区）

8 主に都市基盤（交通、公園等）について

◇交通問題について、観光シーズンの渋滞等の改善を求める声が多いほか、自転車を活用すべきとの意見も多い。

◇身近な公園整備やバリアフリーを求める声も多い。

＜意見例＞

○18～29 歳

(女性)

- ・道路が狭いのに電柱が場所をとって交通に支障をきたしている。電柱をなくしてほしい。産業はある程度発達してほしいが、京都（古都）らしさは残してほしい。（伏見区）

○30 歳代

(女性)

- ・道路が車道，歩道の区別のない所や，がたがたの道が多くベビーカーを利用する者は不便。また各駅に1台（基）エレベーターをお願いしたい。（西京区）

○50 歳代

(男性)

- ・オランダのように自転車が便利で使いたくなるまちになってほしい。自転車道や駐輪場が充実すれば都市が変わる。（伏見区）

(女性)

- ・廃校を地域の方の生涯学習等に利用されるようにし、誰でもくつろげ、楽しめる場所がもっとあって、上空から見下ろして緑豊かな京都はどうか。（下京区）

○60 歳代

（男性）

- ・京都市内を北から南へ約 15 km ぐらい走るのに日中で 50 分ぐらい要する。せめて 30 分で走れるよう整備してほしい。（左京区）

（女性）

- ・道が美しくなったのもつかの間。また掘り起こして水道工事。道路を直す前にすればよいのに。まちが美しくなり、喜んでいたのに。（中京区）

○70 歳代～

（女性）

- ・丸太町通りの烏丸から千本までの街路樹が無いのが何故か、いつも不思議に思っている。街路樹か何かの緑でも植えてはどうか。（中京区）

9 主に公共交通について

◇公共交通の利便性の向上や、地域間格差の解消を求める声が多い。

<意見例>

○19～29 歳

（男性）

- ・バスの時間を守ってほしい。（中京区）

（女性）

- ・駅などに、もっとエレベーターを設置するなど、身体の不自由な人や高齢者、赤ちゃん連れに優しいまちになってほしい。（西京区）

○30 歳代

（男性）

- ・自動車を利用する必要があるまちになってほしい。市バス、地下鉄はやめにして LRT を導入することが望ましい。（右京区）

○40 歳代

（女性）

- ・地下鉄やバスの料金が高いので利用しやすくしてほしい。100 円バスはよいと思う。（中京区）

○50 歳代

（女性）

- ・地下鉄が通り便利になっているようにみえるが、私の住んでいる所ではバスしか走っておらず、バスの本数が減り、バスで移動するのは時間的に困難。（右京区）

○60 歳代

（男性）

- ・地下鉄等の本数を増やせば車通勤をやめていくと思うし交通停滞なども少なくなるのでは。（伏見区）

（女性）

- ・25 年前に洛西に地下鉄が通るという話を信じて移り住んだが、ようやく JR 桂川駅が

開通したものの、未だに気配も感じられない。

- ・昔から山科は市街地より市バスも高く、現在は京阪バスだがやはり不便。同じ京都（山科区）市民として、もう少し何とかならないかと思う。
- ・京都に山裾を走る電車があってもよいのでは。白川通りや北山通り等、大阪環状線（左京区）のようなものがあったら歴史や文化のある寺院や神社ものんびりと歩いて行ける。
- ・敬老乗車証には感謝している。いつまでもこの制度も続かないと耳にすると不安。（伏見区）今のうちに乗車する毎に 100 円でも払ってこの制度が続く事を願っている。

10 主に教育について

◇学校教育について、現在の問題の解消や、新しい視点での教育の充実が求められている。

<意見例>

○18～29 歳

（女性）

- ・留学生として、大学入学、就職の内定で何回も引っ越したが、引っ越しするたび、（伏見区）家探しには不便を感じる。もっと留学生に対する支援があればと思う。

○30 歳代

（女性）

- ・子ども達の将来に懸念がある。行政、教育など、今の大人たちが子ども達に伝えら（上京区）れることをしっかり示し、共に明るい将来がやってくることを期待したい。

○40 歳代

（男性）

- ・学校教育を少人数にすべき。教育の世界をもっとオープンにすべき。人材を増やす（中京区）ことができれば、その他の問題は解決できると思う。

○60 歳代

（男性）

- ・世界に誇れる文化都市京都はそこに住む市民次第であり、そのためには子どもから（北 区）の教育が大事である。寺子屋復活を提案する。
- ・子どもの凶悪犯罪、陰湿ないじめが後を絶たない。現在の学校教育は点数主義にな（伏見区）りすぎている。学校でもっと社会のルール、マナー等を充分教育すべき。
- ・京都の将来は教育にある。自由な発想を育むためにはどうあるべきか。今の教育現（山科区）場をみていると、成果主義的な目標達成が気になる。

まとめ

最後に、次期基本計画策定に向けて今回の調査結果をまとめる。

1 市民の生活ニーズ

（生活の充実）

日常生活においては、市民の3分の2が充実感を感じており、日常生活を肯定的に捉えている層が多い。その一方で、充実感を感じていない層も3分の1近くある。これは全国調査や前回調査ともあまり違いがなく、全国共通の平均的な生活実感ともいえる（問1）。

市民の生活充実感、市政の成果を測る代表的な指標の一つであり、その向上は市政運営の主要な目標ともいえるが、市民が具体的に充実感を感じる場面は性別や年齢によって多様である。例えば、若者では趣味・スポーツや友人との交流が重視され、若年ファミリー世帯では家族団らん等が選択されている。また、仕事に充実感を感じるのは40歳代である。高齢者はゆったりとした休養や友人との交流を重視している（問2）。なお、世論調査と比較して、「勉強や教養に身を入れている時」に充実を感じるがやや多い（19.4%—13.7%「世論調査」）。

（家族に対する価値観）

家族については、家庭は、休息・やすらぎの場であり、団らんの場であり、家族の絆を強める場、親子が共に成長する場として意識されている（問5）。また、家族と仕事との関係では、仕事よりも家族の幸せを優先する価値観が7割を占めており、核家族化や単身世帯が増加する一方で、家族指向は高まっている（問7）。

（生活の見通し）

今後の生活の見通しは、「悪くなっていく」が最も多く4割近くを占めている。また、前回調査と比べて「良くなっていく」がわずかに減っている（問3）。また、「物の豊かさ」と「心の豊かさ」のどちらに重きを置くかについては、前回調査と比較して「心」と「物」のバランスへの指向が見られる（問4）。これらは、この間の急激な社会経済情勢の変化が影響している可能性もある。

（生活を支える施策へのニーズ）

30項目の施策（分野）の優先度では、最も望まれているのが「高齢者福祉」であり、次いで「安全・消防・防災」、「健康・保健医療」である。これらはいずれも4割を超え、また年齢が高いほど求められる比率は高い（問19）。

2 市民と地域のつながり

（定住志向と環境評価）

市民の定住志向は7割近くあり、前々回、前回調査と比較しても高まってきている。また、年齢が高いほどその比率は高い（問9）。定住したい理由は「生活上便利」が半数余りと最も多いが、次いで「土地になじみや愛着」が選ばれており、地域への愛着も定住の一つの大きな要素といえる。逆に移転したい理由は住宅への不満が半数近くである。ただし、前回調査と比較してやや減少している（問9副問）。また、移転先を現在居住しているなじみのあるエリアに求めたいとする層も少なくなく、都心部の区でその傾向が強い（問9副問）。

（隣近所とのつながりを重視する市民）

市民の地域への愛着や誇りは、「京都市」に対するものが半数余りと最も高いが、それに続く「隣近所」もほぼ半数ある（問12）。

市民の地域社会に対する態度では、「隣近所との付き合いを大切にしたい」層が8割を超えており、「隣近所の人との困ったときの助け合いや一人暮らしのお年寄りの世話など積極的な支えあい」も7割近い層が賛同している。また、選好調査と比べて「地域の人々との交流は大切だと思う」の比率はやや高い（96.2%—91.6%「選好調査」）（問11）。

（町内会（自治会）とのつながり）

市民は、「隣近所」ほど深くはないものの、町内会（自治会）とのつながりも深い。「町内会や（自治会）の世話を頼まれたら引き受けても良い」とする層は3分の1程度あり（問11）、先に述べた愛着や誇りの度合いでも、「町内会・自治会」に愛着を感じる層もやはり3分の1ある（問12）。また、「防災、防火活動」、「防犯活動」、「清掃活動」など、地域の安全や衛生に関する活動を8割以上が「大切」と感じており、地域を維持する活動には極めて肯定的である。またこれらが、性別や年代にあまり関係なく大切と感じられている点も特徴的である（問13）。

3 居住環境や都市環境

（居住環境の向上）

居住環境の総合評価である「全体として」について、〈満足〉、〈やや満足〉を合わせると、全市では54%と半数以上が居住環境に満足している一方、各行政区別には違いがみられる。各行政区の居住環境評価は、区の客観的な条件によって規定されるといえる。例えば、自然（山や川）への近さ、市街地の歴史性や安全性、公共交通や道路等の都市基盤状況、公共公益施設等の立地などに違いが見られ、それによって市民の満足度評価が明らかに異なっている（問10）。

（都市レベルの環境整備）

京都市の施策（分野）優先度の問をみると、都市基盤・都市環境関係では、前回調査で4割前後あった「まちの美化・ごみ処理・リサイクル」や「環境保全・自然保全」が2割程度に減少している。また、3割余りあった「交通・道路」が2割弱に低下しているのをはじめ、その他のハード関係はおおむね減少している。これらに代わって、「子育て支援」、「学校教育」が増加しているほか、今回調査で新たに設けた「雇用創出」や「青少年育成」などのソフトの選択が多い（問19）。

なお、平成19年に「新景観政策」がスタートしたこともあり、「町並み・景観」の選択率は、わずかながら前回調査よりも高まっている。中でも若年層ほど重要とする比率が高い（問19）。

（保全・再生・創造）

今後の京都市の在り方として、将来人口については、前回調査と比較して、「人口増加を図るべき」、「現状程度を維持」がいずれも増加しており、何らかの手立てを講じて人口回復又は減少抑制を望む声は8割を超える（問22（ア））。

その際のまちづくりの方向性としては、「保全・再生・創造をバランスよく進める」が7割と大多数を占めている（問22（ウ））。また、行政区ごとのまちづくりの方向性については、いずれの区も「バランスよく」が5～6割と多数を占めるが、それぞれの区の現行の位置づけ（たとえば都心区では「再生や賑わいに力点」）を選択する層も多い（問22（ウ）副問）。

4 都市の魅力や活力

（都市のイメージ）

京都の都市魅力は、「散策する」、「住む」、「学ぶ」、「心を癒す」、「くつろぐ」といった落ち着いた感じのものが8割から6割程度となっており、前回調査と比較して、全体として魅力ある都市との回答が増加している（問16）。

また、現在の都市のイメージとしては、「神社、仏閣などが多く歴史環境の豊かな都市」、「国内外から多くの人を訪れる観光都市」、「西陣織、清水焼など伝統産業の都市」、「大学のまち、学術研究の盛んな都市」、「芸術性、文化性豊かな都市」などが9割から6割となっている（問17）。

一方、将来の都市のイメージとしては、「安心して暮らせる都市」、「町並みの美しい都市」「神社、仏閣などが多く歴史環境の豊かな都市」、「経済力、活力あふれる都市」が多くなっており、現在のイメージとは焦点がやや異なっている（問18）。

5 行財政改革

地方交付税の削減が続き、京都市の財政は極めて深刻な事態となっているなか、「行政組織のスリム化」、「既存の事業の見直し」など、危機的な財政状況に対する改善策を求める意向が4割前後と高く、自由意見でも、その点を強調する意見が多い（問23）。また、「情報公開」や「公聴」など、市民とのコミュニケーション手段の充実も重視されている（問20）。

一方、市民の側からの市政への参加意向でも、6割近くが参加したいとしており（問14）、その方法としても、情報公開と並んで、ワークショップへの参加や市民主体の取組の支援も有効な参加手法と認識されている（問15）。

資料 アンケート調査票

次期京都市基本計画策定のためのアンケート調査にご協力ください

平素から京都市政にご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

京都市では、新たな政策を総合的かつ戦略的に展開するために平成23年度から概ね10年間の市政運営の基本方針となる次期基本計画の策定に取り組んでおります。

この基本計画の策定に当たっては、京都市にお住まいの皆さんの様々なご意見やご提案を幅広くお聞きしたいと考えており、この度、将来の京都のまちや皆さんの暮らしなどに関するアンケート調査を実施することに致しました。

何かとご多忙のこととは存じますが、本調査の趣旨をご理解のうえ、ご協力いただきますようお願い致します。

なお、このアンケート調査は、京都市内にお住まいの18歳以上の方から、無作為に選んだ12,000人の皆さんに記入をお願いするものです。

今回お答えいただきました内容は、統計的に活用致しますので、ご迷惑をおかけすることは一切ございません。

京都市長 門川大作

ご記入に当たって

- ・ アンケート調査をお願いしたご本人（封筒の宛先となっている方）がお答えください。外国人登録に通称名を登録されている方には、通称名を使用しますのでご了承ください。
- ・ アンケート調査票、返信用封筒には、お名前やご住所を記入していただく必要はございません。
- ・ このアンケートは全部で23問あります。問19の副問及び問23以外は選別式となっていますので、当てはまる番号を選び、○印を指定の数だけつけてください。
- ・ 外国籍の方には、4種類の言語の調査票を同封しておりますが、設問内容は、すべて同じものです。ご都合の良いものを選んでお答えください。

この調査に関するお問い合わせは、下記までお願い致します。

〒604-8571 京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町48番地
京都市総合企画局政策推進室政策企画担当
電話 075-222-3035 FAX 075-212-2902
ホームページ <https://www.city.kyoto.lg.jp/sogo/page/000049770.html>

ご記入いただきましたら、お手数ですが、同封の返信用封筒（切手不要）に入れて12月1日（月）までに投函をお願い致します。

現在の生活についておたずねします。

問1 あなたは、日頃の生活の中で、全体としてどの程度充実感を感じていますか。あなたのお考えに近いものを1つ選び番号に○印をつけてください。

- 1 十分充実感を感じている
- 2 まあ充実感を感じている
- 3 あまり充実感を感じていない
- 4 ほとんど（全く）充実感を感じていない
- 5 どちらともいえない

問2 それでは、あなたが日頃の生活の中で、充実感を感じるのには、主にどのような時ですか。当てはまるものをすべて選び番号に○印をつけてください。

- 1 仕事にうちこんでいる時
- 2 勉強や教養などに身を入れている時
- 3 趣味やスポーツに熱中している時
- 4 ゆったりと休養している時
- 5 家族団らんの時
- 6 友人や知人と会合、雑談している時
- 7 社会奉仕や社会活動をしている時
- 8 その他（ ）

次に、今後の生活についておたずねします。

問3 あなたの生活は、これから先、どうなっていくと思いますか。あなたのお考えに近いものを1つ選び番号に○印をつけてください。また、できれば、その理由についても簡潔にお書きください。

- 1 良くなっていく
- 2 同じようなもの
- 3 悪くなっていく
- 4 わからない

理由（ ）

問4 今後の生活の仕方について、あなたはどのようにお考えですか。あなたのお考えに近いものを1つ選び番号に○印をつけてください。

- 1 物質的にある程度豊かになったので、これからは心の豊かさやゆとりのある生活することに重きをおきたい
- 2 まだまだ物質的な面で生活を豊かにすることに重きをおきたい
- 3 いちがいいはいえない

次に、家族についておたずねします。

問5 あなたにとって家庭はどのような意味をもっていますか。当てはまるものをすべて選
び番号に○印をつけてください。

- 1 家族の団らんの場合
- 2 子どもを生み、育てる場合
- 3 子どもをしつける場合
- 4 親の世話をする場合
- 5 夫婦の愛情をはぐくむ場合
- 6 休息・やすらぎの場合
- 7 親子が共に成長する場合
- 8 家族の絆(きずな)を強める場合
- 9 その他()
- 10 わからない

問6 あなたが最も望ましいと思う暮らし方は次のどれですか。あなたのお考えに近いものを1つ選
び番号に○印をつけてください。

- 1 祖父母、父母、子どもなどが同居する大家族で暮らす
- 2 夫婦二人と子どもで暮らす
- 3 夫婦二人で暮らす
- 4 一人で暮らす
- 5 結婚や血のつながりに関係なく気のあう人と暮らす
- 6 その他()
- 7 わからない

問7 家族と仕事の関係は、どうあるべきだと思いますか。あなたのお考えに近いものを1
つ選
び番号に○印をつけてください。

- 1 仕事よりも家族の幸せを優先する
- 2 どちらかといえば、仕事よりも家族の幸せを優先する
- 3 どちらかといえば、家族よりも仕事の充実を優先する
- 4 家族よりも仕事の充実を優先する
- 5 わからない

次に、就労についておたずねします。

問8 社会には、様々な仕事がありますが、あなたにとってもどのような仕事が理想的だと思いますか。あなたのお考えに近いものを2つ以内で選
び番号に○印をつけてください。

- 1 収入が安定している仕事
- 2 失業の心配がない仕事
- 3 自分の専門知識や能力がいかせる仕事
- 4 世の中のためになる仕事
- 5 高い収入が得られる仕事
- 6 自分にとって楽しい仕事
- 7 健康を損なう心配がない仕事
- 8 仕事と家庭生活の両立(ワーク・ライフ・バランス)ができる仕事
- 9 その他()
- 10 わからない

次に、あなたのお住まいについておたずねします。

問9 あなたは、今お住まいのところに将来もずっと住み続けたいと思われますか。次の項目の中から、あなたのお考えに近いものを1つ選
び番号に○印をつけてください。

- 1 住み続けたい
- 2 できれば住み続けたい
- 3 移りたい
- 4 できれば移りたい
- 5 わからない

副問 問9で「1 住み続けたい」又は「2 できれば住み続けたい」と答えられた方のみにおたずねします。それは、どのような理由からですか。次の項目の中から、当てはまるものを2つ以内で選
び番号に○印をつけてください。

- 1 自然環境や広場・公園に恵まれているから
- 2 土地になじみや愛着があるから
- 3 隣近所の人々の気心が知れているから
- 4 現在の住宅に満足しているから
- 5 生活上便利などところだから(通勤、通学、買物、医療など)
- 6 歴史・文化に恵まれているから
- 7 地震など自然災害の不安が少ないところだから
- 8 仕事の関係で都合がよいから
- 9 子育て・教育環境がよいから
- 10 その他()

副問 問9で「3 移りたい」又は「4 できれば移りたい」と答えられた方のみにおたずねします。それは、どのような理由からですか。次の項目の中から、当てはまるものを2つ以内で選り番号に○印をつけてください。

- 1 自然環境や広場・公園に恵まれていないから
- 2 土地になじみや愛着がないから
- 3 隣近所の付き合いがむずかしいから
- 4 現在の住宅に不満があるから
- 5 生活上不便なところだから(通勤、通学、買物、医療など)
- 6 歴史・文化に恵まれていないから
- 7 地震など自然災害の不安があるから
- 8 仕事の関係で都合がよくないから
- 9 子育て・教育環境がよくないから
- 10 その他()

副問 問9で「3 移りたい」又は「4 できれば移りたい」と答えられた方のみにおたずねします。移転先をどのようにお考えですか。次の項目の中から、あなたのお考えに近いものを1つ選り番号に○印をつけてください。

- 1 京都市内で、都心部(上京、中京、下京、東山区)に(で)移転したい
- 2 京都市内で、都心部以外に(で)移転したい
- 3 京都市内なら都心部、都心部以外を問わない
- 4 京都市外に移転したい
- 5 移転先にはこだわらない

次に、身近な生活環境についておたずねします。

問 10 あなたの毎日の生活から見ても、次の(ア)～(ト)の各項目について、どのように思いますか。それぞれ当てはまるものを1つ選り番号に○印をつけてください。

	満足	やや満足	どちらともいえない	やや不満	不満
(ア) 住宅の日当たりや風通しのよさ	1	2	3	4	5
(イ) 住宅周辺の静かさ	1	2	3	4	5
(ウ) 住宅周辺のごみの散乱していない清潔な環境	1	2	3	4	5
(エ) 住宅周辺の緑、花などの自然の豊かさ	1	2	3	4	5
(オ) 住宅周辺の公園、広場や子どもの遊び場	1	2	3	4	5
(カ) 近所の町並みや景観	1	2	3	4	5
(キ) 山並みなどの自然の風景	1	2	3	4	5
(ク) 空気や水のきれいさ	1	2	3	4	5
(ケ) 徒歩、自転車での行動のしやすさ	1	2	3	4	5
(コ) バス、鉄道など公共交通の便利さ	1	2	3	4	5
(サ) 日常の買物などの便利さ	1	2	3	4	5

次頁へ続く

- (シ) 診療所、病院など医療施設への便利さ 1 2 3 4 5
- (ス) 区役所・支所など公共施設への便利さ 1 2 3 4 5
- (セ) 体育館、文化ホールなどの施設への便利さ 1 2 3 4 5
- (ソ) 学校・大学など、教育環境のよさ 1 2 3 4 5
- (タ) 防犯などの用心のよさ 1 2 3 4 5
- (チ) 交通事故からの安全性 1 2 3 4 5
- (ツ) 火事、救急などの災害や事故からの安全性 1 2 3 4 5
- (テ) 地震、水害などの自然災害からの安全性 1 2 3 4 5
- (ト) 全体として 1 2 3 4 5

次に、地域での暮らしや活動についておたずねします。

問 11 あなたは次の(ア)～(ク)の意見について、どのように思いますか。それぞれ当てはまるものを1つ選り番号に○印をつけてください。

- (ア) 隣近所の人との付き合いは大切にしたい 1 2 3 4 5
- (イ) 隣近所の人と困ったときの助け合いや一人暮らしのお年寄りの世話など積極的に支えあっていきたい 1 2 3 4 5
- (ウ) 町内会(自治会)は一人暮らしのお年寄りの世話など、今よりも幅広い活動をすべきだ 1 2 3 4 5
- (エ) 町内会(自治会)の活動や行事には、積極的に参加するようにしたい 1 2 3 4 5
- (オ) 町内会(自治会)の世話を頼まれたら引き受けてもよい 1 2 3 4 5
- (カ) 町内会(自治会)以外にも目的や必要に応じて住民が自由に参加できる新しい形の組織が地域活動を担うことがあってもよい 1 2 3 4 5
- (キ) 自分の住んでいる地域の人々との交流は大切だと思う 1 2 3 4 5
- (ク) 家族や職場以外でも積極的に人々との付き合いを広げたい 1 2 3 4 5

問 12 あなたは、お住まいの地域について、親しみや愛着、誇りのようなものを感じていますか。次の(ア)～(カ)の各項目について、それぞれ当てはまるものを1つ選び番号に○印をつけてください。

	感じる	どちらか といえは 感じる	どちらとも いえない	どちらか といえは 感じない	感じない
(ア) 隣近所	1	2	3	4	5
(イ) 町内会・自治会	1	2	3	4	5
(ウ) 学区・元学区	1	2	3	4	5
(エ) 行政区(北区・南区などお住まいの区)	1	2	3	4	5
(オ) 京都市	1	2	3	4	5
(カ) 京都府	1	2	3	4	5

問 13 次の地域活動について、あなたはどのように感じられますか。次の(ア)～(オ)の各項目について、それぞれ当てはまるものを1つ選び番号に○印をつけてください。

	大切に ある	どちらか といえは 大切に ある	どちらとも いえない	どちらか といえは 大切に ない	大切に ない
(ア) 防災、防火活動 (防災、消防訓練等)	1	2	3	4	5
(イ) 防犯活動 (夜間パトロール、壁下校時の子どもの見守り等)	1	2	3	4	5
(ウ) 清掃活動 (ごみ出しのルール形成・遵守、公園や河川の清掃等)	1	2	3	4	5
(エ) 伝統行事・レクリエーション活動 (運動会、夏祭り、地蔵盆等)	1	2	3	4	5
(オ) 高齢者福祉活動 (敬老の集い、訪問活動、安否確認等)	1	2	3	4	5

次に、市政への市民参加についておたずねします。

問 14 あなたは、市政への参加について、どうお考えですか。次の項目の中から、あなたのお考えに近いものを1つ選び番号に○印をつけてください。

- 1 積極的に参加したい
- 2 できれば参加したい
- 3 参加したいとは思わない

副問 問 14 で市政への参加について「1 積極的に参加したい」又は「2 できれば参加したい」とお答えの方のみにおたずねします。あなたは、まちづくりや地域の身近な課題に関して、ご自身の持つ知識や経験をどのような分野に生かすことができると思いますか。次の項目の中から、当てはまるものをすべて選び番号に○印をつけてください。

- 1 人権・平和
- 2 地域の防犯・防災活動
- 3 スポーツ・文化・レクリエーション活動
- 4 学校教育・生涯学習
- 5 子育て支援
- 6 健康づくり
- 7 自然保護・環境保全
- 8 地域産業の振興
- 9 公園や施設の管理・運営
- 10 国際交流・多文化共生
- 11 高齢者や障害者の福祉
- 12 その他 ()
- 13 特にない

問 15 市民と行政との協働のまちづくりをより活発にしていくなために、あなたはどのような取組・手法が有効だと思いますか。次の項目の中から、当てはまるものをすべて選び番号に○印をつけてください。

- 1 審議会委員などの市民一般公募の枠(人数)を増やす
- 2 市民が主体的に取り組むまちづくり活動を積極的に支援する
- 3 まちづくり活動に取り組む団体相互の情報交換や交流を促進する
- 4 ワークショップ(気軽に意見が言い合える会合)など、市民が参加しやすい方法を工夫する
- 5 まちづくりに関する情報や取組を積極的に公表する
- 6 パブリック・コメント(意見公募手続)を積極的に行う
- 7 まちづくり活動の拠点となる施設を整備する
- 8 市民と市長が直接意見を交換する場などを積極的に開く
- 9 その他 ()

次に、京都の持つ都市の魅力やイメージについてお答えください。

問 16 現在の京都市で生活する場合、次の(ア)～(チ)のようなことについて、京都が魅力あるまちだと思いますか。それぞれ当てはまるものを1つ選び番号に○印をつけてください。

	魅力がある	どちらともいえない	魅力がない
(ア) 住む	1	2	3
(イ) 働く	1	2	3
(ウ) 商売をする	1	2	3
(エ) 学ぶ	1	2	3
(オ) 育てる	1	2	3
(カ) 買物をする	1	2	3
(キ) 遊ぶ	1	2	3
(ク) 散策する	1	2	3
(ケ) 食べる、飲む	1	2	3
(コ) おしゃれをする	1	2	3
(サ) 心身を癒す	1	2	3
(シ) くつろぐ	1	2	3
(ス) 出会う	1	2	3
(セ) 語らう	1	2	3
(ソ) 創る	1	2	3
(タ) 安全に暮らす	1	2	3
(チ) 全体として	1	2	3

問 17 「現在の京都」に関する次の(ア)～(チ)のイメージについて、あなたはどれを思われますか。それぞれ当てはまるものを1つ選び番号に○印をつけてください。

	そう思う	どちらとも いえない	そう思わない
(ア) 町並みの美しい都市	1	2	3
(イ) 山紫水明の都市	1	2	3
(ウ) 日本人の心のふるさとの都市	1	2	3
(エ) 神社、仏閣などが多く歴史環境の豊かな都市	1	2	3
(オ) 大都市として様々なサービスが受けられる都市	1	2	3
(カ) 国際性豊かな多文化が息づく都市	1	2	3
(キ) 人権を大切にすると都市	1	2	3
(ク) 安心して暮らせる都市	1	2	3
(ケ) 子育て・教育を大切にすると都市	1	2	3
(コ) 大学のまち、学術研究の盛んな都市	1	2	3
(サ) 芸術性、文化性豊かな都市	1	2	3
(シ) 西陣織、清水焼など伝統産業の都市	1	2	3
(ス) 電子機器、精密機器など先端産業の都市	1	2	3
(セ) 国内外から多くの人が訪れる観光都市	1	2	3
(ソ) 環境問題の解決に積極的に貢献する都市	1	2	3
(タ) 経済力、活力あふれる都市	1	2	3
(チ) 職住が近接した都市	1	2	3

問 18 「将来の京都」について、あなたが特にこうあってほしいと思われるイメージはどれですか。次のイメージの中から、あなたのお考えに近いものを3つ以内で選び番号に○印をつけてください。

- 1 町並みの美しい都市
- 2 山紫水明の都市
- 3 日本人の心のふるさとの都市
- 4 神社、仏閣などが多く歴史環境の豊かな都市
- 5 大都市として様々なサービスが受けられる都市
- 6 国際性豊かな多文化が息づく都市
- 7 人権を大切にすると都市
- 8 安心して暮らせる都市
- 9 子育て・教育を大切にすると都市
- 10 大学のまち、学術研究の盛んな都市
- 11 芸術性、文化性豊かな都市
- 12 西陣織、清水焼など伝統産業の都市
- 13 電子機器、精密機器など先端産業の都市
- 14 国内外から多くの人が訪れる観光都市
- 15 環境問題の解決に積極的に貢献する都市
- 16 経済力、活力あふれる都市
- 17 職住が近接した都市
- 18 その他 ()

次に、京都市が今後力を入れるべき施策についておたずねします。

問 19 あなたは、京都市が今後、どのような分野の施策に力を入れていくべきだと思いますか。次の項目の中から、あなたが特に重要だと思うものを5つ以内で選び番号に○印をつけてください。

- | | |
|----|------------------|
| 1 | 安全・消防・防災 |
| 2 | 人権・平和 |
| 3 | 健康・保健医療 |
| 4 | 高齢者福祉 |
| 5 | 障害者福祉 |
| 6 | 男女共同参画社会づくり |
| 7 | 地域コミュニティ活性化 |
| 8 | ボランティア活動支援 |
| 9 | 子育て支援 |
| 10 | 学校教育 |
| 11 | 生涯学習 |
| 12 | 文化・学術研究 |
| 13 | 大学・芸術 |
| 14 | スポーツ |
| 15 | 国際交流・多文化共生 |
| 16 | ものづくり産業 |
| 17 | 観光・コンベンション |
| 18 | 商業・商店街 |
| 19 | 農林業 |
| 20 | 雇用創出 |
| 21 | 住宅・住環境 |
| 22 | 公園・緑地 |
| 23 | 都市整備・戸開発 |
| 24 | 交通・道路 |
| 25 | 情報・通信 |
| 26 | 町並み・景観 |
| 27 | 環境保全・自然保護 |
| 28 | まちの美化・ごみ処理・リサイクル |
| 29 | 青少年育成 |
| 30 | 水道・下水道 |
| 31 | その他（ |

副問 上で選んだ分野について、取組の進み具合を測る「ものさし(指標)」として、ふさわしいとお考えのものがあれば、ご記入下さい(1つで結構です)。

番	ものさし:
---	-------

(例 30番ものさし:各世帯への上水道の普及率)

次に、京都市の行財政改革についておたずねします。

問 20 京都市では、危機的な財政状況の下で、現在、新たな行財政改革に取り組もうとしています。次の項目の中から、行財政改革を進めるに当たって、あなたが特に重要だと思われるものを3つ以内で選び番号に○印をつけてください。

- 1 事業を計画する段階で、市民の意見を聴くための機会やしくみを増やすこと
- 2 市民が公共施設などの管理・運営に参加できるしくみを増やすこと
- 3 市政に関する情報の公開に努めるなど市政の透明化を図ること
- 4 財政状況に応じて既存の事業の見直しを図ること
- 5 市職員の数を見直すなど行政組織のスリム化を図ること
- 6 民間委託や民営化など民間活力の導入により、市が行う業務の簡素化を図ること
- 7 職員の意識改革や政策立案能力の向上により、市役所の活性化を図ること
- 8 身近な要望にできるだけ対応できるように、区役所機能の充実を努めること
- 9 その他（ ）

問 21 行政サービスに対する市民の皆さんのご要望は多様化、高度化しており、京都市では、これにお応えしていくため、行財政の効率化に努めています。そのうえで市民の皆さんの経済的負担を一定増やす必要に迫られることも考えられます。このことについて、あなたはどのようにお考えになりますか。あなたのお考えに近いものを1つ選び番号に○印をつけてください。

- 1 行政サービスを実施するためには、市民の経済的負担が増えることがあってもやむを得ない
- 2 市民の経済的負担を増やしてまで行政サービスを充実する必要はない
- 3 いちがいいはいえな

次に、京都市のまちづくりの課題についておたずねします。

問 22 今後の京都市のまちづくりに関して、次の(ア)から(ウ)の課題についておたずねします。

(ア) 今後、日本の総人口は減少していくと言われていますが、京都市でも、現在の少子化などの傾向が続くと仮定すると、人口が減少すると推測されます。京都市の人口について、あなたはどのようにお考えになりますか。あなたのお考えに近いものを1つ選び番号に○印をつけてください。

- 1 人口については、現在より増加を図るべきだ
- 2 人口については、現状程度を維持することに努めるべきだ
- 3 人口については、減少しても止むを得ないが、減少幅を最小限に抑えるべきだ
- 4 人口については、減少してもかまわない

最後に、あなたご自身のことについておたずねします。

次の(ア)～(キ)の各項目について、それぞれ当てはまるものを1つ選び番号に○印をつけてください。

(ア)性別 1 男 2 女

(イ)年齢 1 18～29歳 2 30歳代 3 40歳代
4 50歳代 5 60歳代 6 70歳代以上

(ウ)国籍 1 日本 2 外国

(エ)住所 1 北区 2 上京区 3 左京区 4 中京区
(行政区) 5 東山区 6 山科区 7 下京区 8 南区
9 右京区 10 西京区(洛西支所管内を除く)
11 西京区(洛西支所管内)
12 伏見区(深草、醍醐支所管内を除く)
13 伏見区(深草支所管内)
14 伏見区(醍醐支所管内)

(オ)職業 1 自営業(家族従業者を含む)・自営業
2 会社員・公務員など(正社員)
3 会社員・公務員など(正社員以外のパート、アルバイトなど)
4 主婦・主夫
5 無職(専業の主婦・主夫を除く)
6 学生
7 その他()

(カ)住居 1 持家(一戸建住宅) 2 持家(マンション等)
3 民間賃貸住宅(一戸建住宅) 4 民間賃貸住宅(マンション等)
5 公的賃貸住宅(公営・公社等) 6 給与住宅(社宅・寮・官舎等)
7 その他()

(キ)世帯 1 単身
2 夫婦のみ
3 2世代 →あなたは(1 親 2 子ども)
4 3世代 →あなたは(1 親 2 子ども 3 孫)
5 その他()

お疲れ様でした。ご協力ありがとうございました。
同封の返信用封筒にて12月1日(月)までにご投函ください。

次期京都市基本計画策定のためのアンケート調査報告書

平成 2 1 年 4 月発行

〒604-8571 京都市中京区寺町通御池上る上本能寺町 488
京都市総合企画局政策企画室

電 話 0 7 5 - 2 2 2 - 3 0 3 5

F A X 0 7 5 - 2 1 2 - 2 9 0 2

